

令和6年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)

「中高生の飲酒・喫煙状況の実態に関する全国学校調査」

＜ 調査結果報告書（中学生）＞

2026 年 2 月

＜研究代表者＞

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

政策科学研究部 竹原 健二

目 次

I	調査の概要	1
II	調査の実施報告	2
III	調査結果	13
IV	使用した調査票	58

I 調査の概要

1. 調査の目的

厚生労働省が実施する「健康日本21（第三次）」では、20歳未満の者の飲酒と喫煙をなくすことを掲げ、中学生・高校生の飲酒・喫煙をしている者の割合が指標として設定されている。本調査では、それらの指標の評価と日本全国の中学生・高校生の飲酒・喫煙等に対する考え方や行動に関する近年の動向を把握することを目的とした。

2. 主な調査項目

- (1) 飲酒について
- (2) 喫煙について
- (3) 学校生活について

3. 調査対象

全国より無作為に抽出した中学校244校および高等学校236校

4. 調査時期 令和6年10月9日～12月28日

5. 調査方法 質問紙回答またはオンライン回答

6. 回収結果

調査応諾いただいた回答数及び学校数は以下のとおりである。

	中学校 回答数（学校数）	高等学校 回答数（学校数）	計 回答数（学校数）
質問紙回答	4,607件（13校）	5,731件（9校）	10,338件（22校）
オンライン回答	10,490件（30校）	16,941件（32校）	27,431件（62校）
計	15,097件（43校）	22,672件（41校）	37,769件（84校）

7. 有効回収数

受領した回答内容を精査し、質問3以降の回答が全て無回答であった92件の回答については、集計対象外とした。最終的に集計対象とした有効回答数は以下のとおりである。

	中学校	高等学校	有効回答数
質問紙回答	4,584件	5,676件	10,260件
オンライン回答	10,486件	16,931件	27,417件
計	15,070件	22,607件	37,677件

8. 報告書を読む際の注意

- ・結果数値（％）は表章単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計が計に一致しないことがある。
- ・複数の選択肢を選べる質問では、合計の割合が100%を超える場合がある。

Ⅱ 調査の実施報告

中高生の喫煙率・飲酒率のモニタリングとその対策に関する研究 全国調査実施について

背景

中高生期は多様な生活習慣を形成するとともに、脳が大きく発達する重要な時期である。喫煙・飲酒習慣は発達中の脳機能に悪影響を与える可能性がある。健康日本 21（第三次）では、2032 年度（令和 14 年度）時点の目標として 20 歳未満の喫煙・飲酒をゼロにすることを掲げているその達成に向けて実態を把握し、対策を検討することは公衆衛生上極めて重要である。本調査では、全国の中学校・高等学校に在籍する生徒を対象とし、喫煙・飲酒の実態とそれに関連する心理社会的・生活環境的要因を調査することで、今後の予防政策立案に資するエビデンスの収集と提供を目的とする。

A. 調査目的

本調査は、わが国における中学生および高校生の喫煙・飲酒行動の実態を把握し、それらの背景要因や関連する心理社会的・生活習慣的因子を分析することで、青少年の健康的な生活習慣の形成に資するエビデンスを提供することを目的とする。調査は全国規模で行い、健康日本 21（第三次）における政策目標の評価にも資するものとする。

B. 調査方法

1. 対象者およびサンプリング

本調査では、調査対象校として抽出された全国の中学校 244 校および高等学校 236 校、合計 480 校を対象に、生徒全員を対象とした調査への協力を依頼した。対象となった生徒数は推計で 321,014 名であった。中学校の内訳は公立 222 校、私立 14 校、国立 8 校、高等学校は公立 145 校、私立 91 校、国立 0 校で構成された。

調査対象校の抽出には、2024 年版の全国学校データ（教育ソリューション株式会社提供）を使用し、層別一段集落抽出法によって無作為に学校を選定した。ここでいう「層」とは都道府県を指し、「集落」とは各学校を指す。都道府県ごとに最低 1 校が選出されるよう、各都道府県を層とし、都道府県に在籍する生徒数に比例して対象校数を割り当てた。割当数の算出には、中学生の人数が最も少ない鳥取県を基準とした比率を用い、小数点以下は切り上げて校数を決定した。たとえば、埼玉県は 13 校、高知県は 2 校が抽出された。また、すべての都道府県で中学校・高等学校それぞれ 2 校以上が確保されるよう、鳥取県の対象校数は最終的に 2 校に設定した。

さらに本調査では、同じく 2024 年度に、飲酒・喫煙を含む全国中高生調査を実施した国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部（以下、NCNP 研究班）と連携した。NCNP 研究班では、これ

まで飲酒・喫煙を含む薬物乱用に関する多くの調査を手掛け、全国の中高生を対象とした調査経験も豊富であった。本調査とは主たる目的が異なる独立した研究事業であったが、調査対象が同じ中高生で、一部の内容が似ていたため、同一校に両研究班から調査依頼が届いてしまうことによる混乱や学校側の負担増を避ける必要が生じた。このため、両研究班はサンプリングの段階から協議・連携を行った。対象校の抽出作業は NCNP 班が一括して実施し、必要校数の 2 倍にあたる学校数（中学校は 244 校×2=488 校、高等学校は 236 校×2=472 校）が無作為抽出された。抽出された学校には連番を付与し、偶数番号の学校を NCNP 研究班の対象校、奇数番号の学校を本調査（以下、成育研究班）の対象校とすることで、両者の調査対象校が重複しないよう配慮した。各学校への調査協力依頼以降は、各研究班で独立して実施した。

このように、調査の独立性を確保しつつ、学校側の負担軽減と全国調査としての一貫性を両立する体制が整えられた。本調査と NCNP 研究班の協働および抽出・配分方法は、2024 年 5 月時点で厚生労働省健康・生活衛生局健康課ならびに文部科学省健康教育・食育課の了承を得て実施された。

なお、本調査の調査設計および運営にあたっては、NCNP 研究班が長年にわたり実施してきた調査の知見と実践的蓄積を参考とした。研究協力者である嶋根卓也先生が代表を務める NCNP 研究班では、これまでに飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査を 2 年おきに実施しており、調査票設計、対象校のサンプリング、文部科学省や教育委員会への事前説明、中学校・高等学校や保護者への調査協力の説明・依頼方法をはじめとする研究デザイン全般に関する方法論が確立されている。今回の調査は、先行する NCNP 研究班が積み上げてきた調査資料や実施方法に関する知的資産の共有等、実質的な協働を行った。本調査の設計は、両研究班の協力を基盤として、両研究班の調査対象校の重複の回避と、調査結果の比較可能性を高めることなどを考慮して進められた。

2. 調査に関する事前通知と依頼

2024 年 8 月、文部科学省担当課、対象校を所管する都道府県教育委員会、市区町村教育委員会、全国国立大学附属学校連盟合同事務局に対して、本調査の実施に関する事前通知を文書で行った。教育委員会への通知後、各対象校に対しては、調査に関する依頼状、アンケート用紙のサンプル、調査協力の意向を確認するための用紙（返答フォーム）を郵送した。なお、返答フォームには、対象校の名称、都道府県名、学校長（あるいは担当教員）の氏名、メールアドレスに加え、調査実施の意向（実施予定、検討中、協力辞退）、実施予定の場合には実施方法（調査用紙への回答、オンライン回答、未定）を記載していただき、意向確認用紙の返送もしくは FAX、あるいは返答フォームにて国立成育医療研究センター・政策科学研究部（以下、研究事務局）まで返答を依頼した。調査は無記名の自記式調査によって実施し、回答方法は、質問紙調査（質問紙回答）と、学習用端末を用いたオンライン調査（オンライン回答）のどちらかを学校単位で選択できるようにした。なお、オンライン回答の場合は、女性のみを対象に、生理の実態調査も併せて実施することを説明した。

調査の内容が飲酒・喫煙という中学生・高校生では違法な行為であることも考慮し、調査実施にあたり、保護者向けの説明文書を作成し、各学校で学校のホームページ等に掲載してもらうなど、保護者宛てに通知を行えるよう配慮した。学校長宛ての通知文書では、厚生労働省から各都道府県・市区町村教育委員会、

私立学校担当課、附属学校連盟合同事務局へも協力を依頼していることを明記した。

3. 調査の実施

調査実施期間は、2024 年 11 月から 12 月末までであった。一部例外的に、学校の事情により 2024 年 10 月あるいは 2025 年 1 月に調査を実施した学校もあった。その際、質問紙回答校には飲酒・喫煙調査、オンライン回答校には飲酒・喫煙調査に加え、生理の実態調査の実施を依頼した。調査の実施はいずれの形式でも原則として学校内でクラス単位での実施を依頼した。

オンライン回答のシステムには、株式会社ジイズスタッフが作成したオンラインアンケートのフォーマットを使用した。なお、万が一アクセスできない場合に備え、予備として別途 Google フォーム形式のアンケートフォームを準備した。

2024 年 10 月以降、対象校の意向に応じて、質問紙回答の場合は全生徒分の調査書類一式を郵送し、オンライン回答の場合は各校専用の接続情報（URL）を郵送およびメールで伝達した。実施マニュアルも併せて送付した。

調査開始に際しては、教員がアンケート冒頭の注意事項を読み上げ、「無記名調査であること」「自由意志による回答であること」「答えたくない項目には答えなくてよいこと」「不参加による不利益がないこと」「個々の回答を学校関係者は見ないこと」などを説明した。生徒は冒頭の同意確認欄に○を付けることで調査への同意を示し、同意できない場合は白紙での提出が認められた。無記名であるため、提出後の撤回はできないことも説明された。

質問紙回答では、生徒は記入後に用紙を折りたたみ、個人封筒に封入・封緘して提出した。オンライン回答では、回答後に送信ボタンを押し、その後ブラウザを閉じて終了とした。所要時間は 15～25 分とし、生徒の負担に配慮した。

4. 調査項目

主な調査項目は以下であった。

- 基本属性（性別、学年）
- 飲酒に関する設問（飲酒経験の有無、頻度・飲酒の場面・周囲の飲酒状況・飲酒の誘い・飲酒に対する認識）
- 喫煙に関する設問（紙巻きたばこ・加熱式たばこ・電子たばこの使用歴と頻度・周囲の喫煙状況・喫煙に対する認識）
- メンタルヘルスに関する設問（孤独感、気分など）
- 家族・友人関係
- 学校生活や生活習慣
- 価値観や将来展望

(倫理面への配慮)

本調査は国立成育医療研究センター倫理審査委員会の承認を得て実施した（課題番号 2024-057）。調査は無記名で実施され、個人情報の取得は行っていない。調査説明文書には、自由意志による参加、無回答の自由、学校・保護者・教員が個々の回答内容を知り得ないことなどを明記した。調査への参加・不参加によって生徒や保護者に不利益が生じることはなく、成績や学校評価に影響することも一切ないことも記した。

保護者への個別同意取得は行わないが、配布される説明文書を通じて調査の目的と方法を家庭で共有できる配慮をして、生徒が調査票冒頭にある同意確認欄へのチェックをすることにより同意の意思を確認した。チェックがない場合はその調査票は使用されず、白紙での提出も可能とした。なお無記名方式のため、提出後の撤回はできないこととした。

5. 回収・集計：

回答された質問紙（回答票）はクラス単位で回収後、各校から研究事務局に返送された。回答票の開封後、電子データ化するために一般社団法人新情報センターに一括送付された。電子化された回答票のデータは、オンライン回答で収集した回答データと統合した。

6. 推計値の算出

本調査の目的の一つは、調査協力校から得られたデータをもとに、全国の中学生および高校生における飲酒・喫煙の経験率を統計的に推計することにある。実際の調査は抽出された学校で実施されており、学校ごとに生徒数や回収状況が異なることから、単純な集計では全国的な傾向を正確に把握できない。そこで本調査では、調査デザインに基づいた加重推定を行い、全国の中高生の母集団に対して代表性のある経験率を算出した。方法は、2020 年度厚生労働科学研究「思春期における薬物等の使用実態および関連要因に関する研究」（研究代表者：嶋根卓也）において用いられた手法を参考とし、今回の調査では独自に構成したウェイトと調査設計にもとづく手法を採用している。

デザインウェイトの構成

推計値の算出には、以下 3 要素の積の逆数として定義されるデザインウェイト $w_i(q)$ を用いた。

$$w_i(q) = \left\{ \begin{array}{l} \text{(1) 都道府県 } p \text{ における学校 } s \text{ の抽出確率} \\ \times \text{(2) 学校 } s \text{ の全生徒数に対するアンケート回答者数の比率} \\ \times \text{(3) 学校 } s \text{ における設問 } q \text{ の回答率} \end{array} \right\}^{-1}$$

このウェイトを用いて、各設問 q に有効回答があった N_q 人についての加重平均により、点推定として推計値 $\hat{p}_q$ を次の式で算出した

$$\hat{P}_q = \frac{\sum_{i=1}^{N_q} y_i(q) \cdot w_i(q)}{\sum_{i=1}^{N_q} w_i(q)}$$

ここで、 $y_i(q)$ は設問 q に対する個人 i の回答（1 = 経験あり、0 = 経験なし）を示す。

統計解析には Stata/MP 18 (StataCorp LLC) を用い、調査デザインを考慮した加重推定を行った。母比率の信頼区間の推定に際し、分布の偏りや経験者数が少ない設問が多いことを考慮し、複雑サンプリングに対応した Taylor 級数展開法を用いて信頼区間を算出した。1 つの観測単位しか含まれない層に対しては、全体平均への中心化補正を適用した。

飲酒に関しては、「お酒をどのくらいの頻度で飲みますか？」という設問において「飲まない」以外を選択し、かつ 30 日間の頻度設問において 1 日以上と回答した者を「過去 30 日間の飲酒経験者」と定義した。

喫煙については、「紙巻きたばこ」「加熱式たばこ」「電子たばこ」の 3 種類について、それぞれ「一口でも吸ったことがある」と回答した者を「生涯経験者」とし、さらに「過去 30 日間に 1 日以上吸った」と回答した者を「過去 30 日間経験者」と定義した。

生涯・30 日間いずれの設問にも回答がなかった場合は欠損として扱った。

※ 健康日本21（第三次）の指標「中学生・高校生の喫煙者の割合」は、「**過去30日間に紙巻きたばこ又は加熱式たばこを1日以上喫煙した者の割合**（中学1～3年生・高校1～3年生の男女を平均した値）」と定義されており、電子たばこは対象に含まれない。なお本報告書では、嗜好品使用の実態をより詳細に把握する目的から、紙巻き・加熱式・電子たばこについて製品別に生涯経験率および過去30日間経験率も算出している。いずれの指標も、調査デザインに基づく同一の推計手法を用いて算出しているが、健康日本21（第三次）の公式指標として利用する際には、上記の定義に基づき紙巻きたばこ及び加熱式たばこのみを対象として推計している点に留意されたい。

C. 調査結果

1. 回収結果

調査対象校は、中学校 244 校および高等学校 236 校の合計 480 校であった。このうち、調査協力の応諾を得られたのは中学校 43 校、高等学校 41 校の計 84 校であった（調査対象校のうち、回収した学校の割合は 17.5%）。調査を実施した 84 校のうち、調査形式として質問紙回答を選択したのは 22 校（中学校 13 校、高等学校 9 校）、オンライン回答を選択したのは 62 校（中学校 30 校、高等学校 32 校）であった。また、調査を実施した 84 校のうち、24 校は学年あるいは学級を限定した形で協力を得た。有効回答数は計 37,677 名であり、これは調査対象校 480 校の在籍生徒の合計（想定生徒数 321,014 名）に対して 11.7%、調査協力校 84 校の在籍生徒の合計（想定生徒数 53,480 名）に対して 70.4%に相当する。方式別の回答数は、オンライン回答 27,417 名（72.8%）、質問紙回答 10,260 名（27.2%）であった。オンライン回答が全体の約 7 割を占めており、オンライン調査への移行が一定程度進んでいることが示唆された。

中学校の学年別回答数は、1 年生 5,257 名、2 年生 5,142 名、3 年生 4,642 名、計 15,070 名（学年その他 14 名、無回答 15 名含む）であった。高等学校では、1 年生 8,886 名、2 年生 8,133 名、3 年生 5,568 名、計 22,607 名（学年無回答 20 名含む）であった。性別は、男性 18,452 名、女性 18,974 名、無回答 251 名であった。

調査協力校数が多かった都道府県は、東京都（協力校数 10 校、協力割合 22.7%）、愛知県（協力校数 6 校、協力割合 20.7%）、神奈川県（協力校数 6 校、協力割合 20.0%）であった。調査対象校のうち、協力校の都道府県別割合が高かったのは沖縄県（協力校数 4 校、協力割合 57.1%）、三重県（協力校数 3 校、協力割合 42.9%）、茨城県（協力校数 5 校、協力割合 41.7%）であった。一方、協力校が 1 校もなかった都道府県は 13 自治体あり、回収状況には地域差が見られた。

(表 1) 都道府県別に見た対象校数及び実施校数(回収率)の状況

	全体			中学			高校		
	対象 校数	実施 校数	協力率 (%)	対象 校数	実施 校数	協力率 (%)	対象 校数	実施 校数	協力率 (%)
全 国	480	84	17.5	244	43	17.6	236	41	17.4
北海道	18	1	5.6	9	0	0.0	9	1	11.1
青 森	5	0	0.0	2	0	0.0	3	0	0.0
岩 手	5	0	0.0	2	0	0.0	3	0	0.0
宮 城	8	0	0.0	4	0	0.0	4	0	0.0
秋 田	4	1	25.0	2	1	50.0	2	0	0.0
山 形	4	1	25.0	2	1	50.0	2	0	0.0
福 島	8	3	37.5	4	3	75.0	4	0	0.0
茨 城	12	5	41.7	6	3	50.0	6	2	33.3
栃 木	8	2	25.0	4	0	0.0	4	2	50.0
群 馬	8	3	37.5	4	3	75.0	4	0	0.0
埼 玉	25	2	8.0	13	1	7.7	12	1	8.3
千 葉	21	3	14.3	11	2	18.2	10	1	10.0
東 京	44	10	22.7	22	7	31.8	22	3	13.6
神奈川	30	6	20.0	16	2	12.5	14	4	28.6
新 潟	8	1	12.5	4	1	25.0	4	0	0.0
富 山	4	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0
石 川	5	2	40.0	2	1	50.0	3	1	33.3
福 井	4	1	25.0	2	0	0.0	2	1	50.0
山 梨	4	1	25.0	2	0	0.0	2	1	50.0
長 野	8	0	0.0	4	0	0.0	4	0	0.0
岐 阜	8	3	37.5	4	3	75.0	4	0	0.0
静 岡	14	2	14.3	7	1	14.3	7	1	14.3
愛 知	29	6	20.7	15	3	20.0	14	3	21.4
三 重	7	3	42.9	4	1	25.0	3	2	66.7
滋 賀	6	1	16.7	3	0	0.0	3	1	33.3
京 都	10	0	0.0	5	0	0.0	5	0	0.0
大 阪	31	4	12.9	15	3	20.0	16	1	6.3
兵 庫	20	2	10.0	10	1	10.0	10	1	10.0
奈 良	6	1	16.7	3	1	33.3	3	0	0.0
和歌山	4	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0
鳥 取	4	1	25.0	2	0	0.0	2	1	50.0
島 根	4	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0
岡 山	8	3	37.5	4	1	25.0	4	2	50.0
広 島	11	2	18.2	6	1	16.7	5	1	20.0
山 口	6	1	16.7	3	0	0.0	3	1	33.3
徳 島	4	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0
香 川	4	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0
愛 媛	6	1	16.7	3	0	0.0	3	1	33.3
高 知	4	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0
福 岡	19	1	5.3	10	0	0.0	9	1	11.1
佐 賀	4	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0
長 崎	6	1	16.7	3	0	0.0	3	1	33.3
熊 本	8	3	37.5	4	0	0.0	4	3	75.0
大 分	5	2	40.0	3	0	0.0	2	2	100.0
宮 崎	5	0	0.0	3	0	0.0	2	0	0.0
鹿児島	7	1	14.3	4	1	25.0	3	0	0.0
沖 縄	7	4	57.1	4	2	50.0	3	2	66.7

2. 結果の概要（中学生・高校生の飲酒・各種喫煙経験率）

本調査では、中学生および高校生を対象に、飲酒および紙巻きたばこ、加熱式たばこ、電子たばこの使用経験について尋ねた。以下に示す経験率は、調査デザインに基づいた推計値であり、全国の生徒全体における割合を統計的に推定したものである。

なお、性別・学年別の詳細な集計結果については、「Ⅱ 調査報告」にて報告している。そちらは推計値ではなく実測値（単純集計）に基づく点に留意されたい。

飲酒・各種喫煙の経験者の定義

- ・ 飲酒（過去 30 日経験）：「お酒をどのくらいの頻度で飲みますか？」で「飲まない」以外を選択し、かつ「この 30 日間に…飲んだ日数」で 1 日以上と回答した者。
- ・ 喫煙（生涯経験）：各たばこ種（紙巻き／加熱式／電子）について「一口でも吸ったことがある」と回答した者。
- ・ 喫煙（過去 30 日経験）：「この 30 日間に…吸った日数」で 1 日以上と回答した者。
- ・ いずれの設問にも無回答の場合は欠損として扱った。

（表 2）飲酒

区分	全体 (%) [95% CI]	中学生 (%) [95% CI]	高校生 (%) [95% CI]
過去 30 日経験率	1.69 [1.45, 1.98]	1.09 [0.86, 1.38]	2.41 [2.00, 2.90]

※ 生涯経験率の設問は設けていないため、過去 30 日間の飲酒経験率のみを評価した。

（表 3）紙巻きたばこの喫煙

区分	全体 (%) [95% CI]	中学生 (%) [95% CI]	高校生 (%) [95% CI]
生涯経験率	1.57 [1.26, 1.96]	0.94 [0.70, 1.27]	2.33 [1.76, 3.07]
過去 30 日経験率	0.54 [0.39, 0.74]	0.27 [0.14, 0.52]	0.85 [0.59, 1.24]

（表 4）加熱式たばこの喫煙

区分	全体 (%) [95% CI]	中学生 (%) [95% CI]	高校生 (%) [95% CI]
生涯経験率	1.25 [0.97, 1.61]	0.79 [0.52, 1.18]	1.81 [1.35, 2.42]
過去 30 日経験率	0.46 [0.33, 0.63]	0.24 [0.13, 0.44]	0.72 [0.50, 1.03]

（表 5）電子たばこの喫煙

区分	全体 (%) [95% CI]	中学生 (%) [95% CI]	高校生 (%) [95% CI]
生涯経験率	1.09 [0.90, 1.32]	0.78 [0.60, 1.00]	1.46 [1.12, 1.91]
過去 30 日経験率	0.31 [0.22, 0.43]	0.18 [0.10, 0.31]	0.46 [0.31, 0.68]

本調査は、健康日本 21（第三次）において設定されている指標「中学生・高校生の飲酒者の割合」および「中学生・高校生の喫煙者の割合」にも対応している。

飲酒に関する当該指標は、「過去 30 日間に 1 日以上飲酒した者の割合（中学 1～3 年生・高校 1～3 年生の男女を平均した値）」と定義されている。本調査では、この定義に基づき推計を行い、令和 6 年度調査における「中学生・高校生の飲酒者の割合」（推計値）は 1.7% であった。

喫煙に関する当該指標は、「過去 30 日間に、紙巻きたばこ又は加熱式たばこを 1 日以上喫煙した者の割合（中学 1～3 年生・高校 1～3 年生の男女を平均した値）」と定義されており、電子たばこは対象に含まれない。本調査では、この定義に基づき推計を行った結果、令和 6 年度調査における「中学生・高校生の喫煙者の割合」（推計値）は 0.7% であった。

なお、本報告書に示す製品別の喫煙経験率（紙巻き・加熱式・電子）の記述は、健康日本 21（第三次）の指標とは別に、嗜好品使用の実態をより詳細に把握することを目的として研究班が設定したものである。このため、健康日本 21 に基づく公式指標として利用する際には、本段落に示した指標の定義および算出方法を参照されたい。

D. 考察

1. 飲酒の状況

本調査では、中学生における飲酒経験は全体として低水準にとどまっていたものの、一部の生徒には定期的な飲酒行動が確認された。一回以上の飲酒頻度を回答した生徒（2.9%）のうち、36.1%が直近 30 日以内に飲酒をしており、年中行事や家庭内での飲酒が多くを占めていた。また、「両親」や「祖父母・親戚」と一緒に飲酒をしたと回答する者も多く、家庭内での飲酒環境が行動の背景にあることがうかがえる。

さらに、過去 7 日間に、同居家族が本人の目の前で飲酒していたとする回答も一定数みられた。家庭内での大人の飲酒は一般的な生活習慣の一部として存在するが、中高生がそうした環境に日常的に接することで、飲酒を身近な行為と感じやすくなり、将来的な飲酒行動の形成に影響を及ぼす可能性がある。

飲酒の健康への害については、「ある」と答えた者が全体の 6 割程度であったが、学年が上がるほど「たいたことは無い」とする割合が増加する傾向がみられた。これは、年齢が上がるに伴い飲酒への関心や影響力のある他者（家族や友人）との接触機会が増えることにより、行動としての敷居が下がっている可能性を示唆する。本人への働きかけと同時に、家庭環境や教育現場における飲酒予防啓発の充実が求められる。

2. 喫煙行動の多様化とその現状

喫煙についても、紙巻きたばこ・加熱式たばこ・電子たばこと複数の形態を分けて尋ねたことで、喫煙行動の多様化が明らかとなった（表 3～5）。

紙巻きたばこの生涯経験率は 1.6%、過去 30 日間の使用率は 0.5%と比較的低い水準にあるが、加熱式た

ばこ（IQOS など）や電子たばこ（VAPE など）に関しては、生涯経験率がそれぞれ 1.3%、1.1%、過去 30 日間の使用率が 0.5%、0.3%と僅差で続いている。特に電子たばこは、従来のたばことは異なる製品として認識され、香りやデザインの工夫により未成年にも魅力的に映る可能性がある。

いずれの喫煙形態でも、中学 3 年生や男性でやや高い使用傾向が認められたが、性別や学年による大きな偏りはなく、全体としては限定的な経験率にとどまっていた。しかしながら、これらの製品は現在でも新しい形態の商品が市場に登場しており、流通・広告・入手経路の多様化が進む中で、今後の動向に注意を払う必要がある。

3. 中学生の生活環境と行動傾向

本調査では、飲酒・喫煙行動の背景にある生活環境や心理的側面を把握する目的で、クラブ活動、欠席・遅刻状況、孤立感、メンタルヘルス、保護者との関係などについても尋ねた。

全体の約 8 割の生徒がクラブ活動に参加しており、特に 1・2 年生で高い参加率がみられた。クラブ活動は学校外の友人関係や日常の習慣にも影響しうる重要な要素であり、今後の嗜好品行動との関連の検討においても注目される項目である。

また、過去 1 か月の遅刻や欠席・早退を経験した生徒は 3 割を超え、特に女性や下級生にやや高い割合が確認された。体調や心理的な理由の関与も考えられ、日常の不調や不安定さが一部でみられる。

孤立感に関する設問では、約 4 人に 1 人が「取り残されている」「孤立している」と感じることがあると回答しており、思春期特有の人間関係や進路への不安も背景にあると考えられる。

メンタルヘルスに関する質問では、過去 7 日間に「ほとんど興味が無い・楽しめない」「気分が落ち込む・憂うつ・いらいらする・絶望的な気持ちになる」といった感情にどの程度悩まされていたかを尋ねた。これらは近年、児童生徒の精神的健康を簡便に把握する方法として用いられる項目であり、うつ傾向のスクリーニングに広く用いられている。今回の調査では、いずれの項目についても「半分以上」または「ほとんど毎日」と回答した割合は一定程度存在しており、気分の落ち込みや意欲低下といった心理的困難が一部の中学生において日常的な問題となっている可能性を示唆している。特に、「気分が落ち込む、等」の項目では、頻繁にそのような感情を感じている生徒が一定割合存在し、情緒面での不安定さやストレス反応の蓄積が背景にあることも考えられる。こうした精神的な不調の兆候は、学校生活や対人関係、さらには嗜好行動（飲酒・喫煙など）にも間接的な影響を与える可能性がある。

家庭環境に関しては、保護者からの配慮や家族と過ごす安心を感じている生徒が多く、レジリエンスの観点から一定の保護要因が確認された。一方で、「将来に役立つ学び」や「季節の行事」など文化的・教育的側面のある機会に参加する割合は相対的に低かった。

4. 調査の実施状況について

調査設計にあたっては、学校現場での実施負担を最小化するよう質問票の分量や表現方法に工夫を凝らした。既存の調査枠組みや関連研究との整合性を保ちつつ、日本の中高生における喫煙・飲酒行動の包括的な実態把握とそのリスク要因の可視化を可能とする設計を採用した。

本調査は、全国の中学校および高等学校を対象として、生徒の飲酒・喫煙に関する実態および関連する要因を把握することを目的に実施された。全国の中学校、高等学校を対象に無作為抽出を用い、質問紙・オンラインのいずれかの方法により回答を収集する形式をとった。今回の調査はこれまでに NCNP 研究班が積み上げてきた知見と連携・協力が得られたため、短期間の計画・準備による調査が実現できた。今後、本調査と同様の設計で全国調査を継続的に実施していくことを視野に入れる場合、調査協力への応諾率と回答者数を高めていくための工夫が欠かせない。調査運営上の課題として以下のような点を考慮するとともに、調査実施の準備や文部科学省や教育委員会、各学校と十分な連携をとる時間を確保することが要点になると考えられる。

1) 調査協力校の安定的な確保

毎回新たに無作為抽出によって対象校を決定する方法は、地域の偏りを防ぐという利点を持つ一方で、協力率が不安定になりやすい。今回の調査においても、学校行事等との兼ね合いにより協力を辞退する学校や、当初は協力を応諾していたにもかかわらず後に辞退する学校がみられた。

これは、調査対象校への通知時期が夏季休業期間以降となる 8 月以降であったことや、調査実施時期が年度後半の短い期間であったことが一因と考えられる。

また、今回の調査では文部科学省および各教育委員会に対して協力依頼文を送付した。調査に対し、各学校を所管する教育委員会等からも理解と協力をいただくことが、今後より多くの学校からの協力を得るうえでは重要と考える。

2) オンライン環境の差異への対応

GIGA スクール構想の普及などから、中学校や高等学校におけるオンライン調査が技術的には広く実施可能になった。しかし、学校間には依然として通信環境や端末管理体制に差があり、調査実施の円滑さに影響を及ぼすケースがある。今回の調査では、当初の想定以上にオンライン回答の選択率が高く、質問紙回答よりも多数を占めた。この傾向は次回以降さらに強まることが予想されるが、すべての学校が同様の ICT 環境を備えているわけではない。したがって、引き続き質問紙回答方式も選択肢として確保し、協力しやすい柔軟な調査設計とすることが望まれる。

3) 項目の継続性と社会変化への対応

飲酒・喫煙に関する行動様式やリスク認知は、社会の変化に伴い変動するため、項目内容の継続性と同時に柔軟な更新が求められる。たとえば、加熱式たばこや電子たばこ、SNS 上での飲酒の共有といった新たな行動に対応する設問が必要である。調査項目の設計にあたっては、過去のデータとの連続性を保ちながら、現代的な実態を反映する更新が重要となる。

4) 調査票や案内文の理解可能性の担保

設問内容が対象となる生徒の年齢、発達段階、日本語理解力に応じた表現であるかどうかは、調査結

果の質に大きく影響する。今回の対象校には特別支援学級を有する学校も含まれていたが、抽出時には普通級と区別せずに対象としており、支援学級での実施の可否は学校の判断に委ねられた。

今後、特別支援学級の生徒や、多様な文化的・言語的背景をもつ生徒が調査対象に含まれる場合には、「やさしい日本語」の使用、図解、補助教材の活用など、無理なく理解・回答できる調査設計と実施支援体制が求められる。

5) 倫理的配慮の強化

本調査では、無記名形式をとることで個人のプライバシーを保護し、自由な回答環境の確保を図った。しかし、未成年による違法行為（飲酒・喫煙）や、支援ニーズを問う設問に対し、調査対象校の現場教員から一定の懸念が示された。実際に、学校側から「違法行為に関する設問への抵抗感」や「支援の必要性を尋ねておきながら、教員がその情報を得られないことへの不安」を理由に、調査への協力を辞退された学校もあった。

このような懸念への対処としては、調査の目的と倫理的配慮について事前に丁寧に説明し、結果が個別対応ではなく集団傾向の把握を目的とすることを明確に伝えるとともに、学校側での相談体制整備との連動などが検討の余地がある。また、今回の調査結果をもとに、中高生や学校に対する支援が充実することで、学校関係者や保護者からの理解がより得られやすくなると考えられる。

5. 政策的意義と今後の展望

本調査結果は、「健康日本 21（第三次）」が掲げる未成年の飲酒・喫煙予防や、メンタルヘルス支援といった重点課題に対して、現状を可視化する基礎データを提供するものである。特に飲酒・喫煙の早期予防、家庭を含む教育的アプローチ、学校生活における支援体制の整備など、政策的対応の必要性を改めて確認する結果となった。

また、SDGs（持続可能な開発目標）の観点からも、本調査は以下のゴールとの関連が深いといえる：

目標 3「すべての人に健康と福祉を」

目標 4「質の高い教育をみんなに」

目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」

今後は、調査結果を地域・学校単位で共有することにより、実効性ある対策の企画・実施につなげるとともに、年次調査の継続および知見の蓄積が期待される。

謝辞

本調査の実施にあたり、文部科学省、厚生労働省、各自治体教育委員会ならびに協力校の関係者、回答して下さった中高生の皆様に深く感謝申し上げます。また、オンライン調査システムの提供にご協力いただいた株式会社ジイズスタッフ、および印刷・発送業務をご担当いただいた株式会社ハップ、回答票の電子化およびデータ処理にご協力いただいた一般社団法人新情報センターにも深謝いたします。

研究代表者・分担者

研究代表者 竹原 健二（国立成育医療研究センター 政策科学研究部・部長）

研究分担者 越智 真奈美（国立成育医療研究センター 政策科学研究部 政策開発研究室長）

星野 絵里（国立成育医療研究センター 政策科学研究部 政策評価研究室長）

松原 圭子（国立成育医療研究センター ダイバーシティ研究室長）

石塚 一枝（国立成育医療研究センター 女性の健康総合センター 女性のライフコース疫学研究室長）

研究協力者

嶋根 卓也（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長）

水野 聡美（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 リサーチフェロー）

Ⅲ 調査結果

調査項目についての結果は以下のとおりである。本章で示す性別・学年別の詳細な集計結果は、推計値ではなく実測値（単純集計）に基づくものである点に留意されたい。

質問1 あなたの学年をお答えください。

学年を聞いたところ、「1年生」は34.9%、「2年生」は34.1%、「3年生」は30.8%、「その他」は0.1%となっている。その他は特別支援学級である。

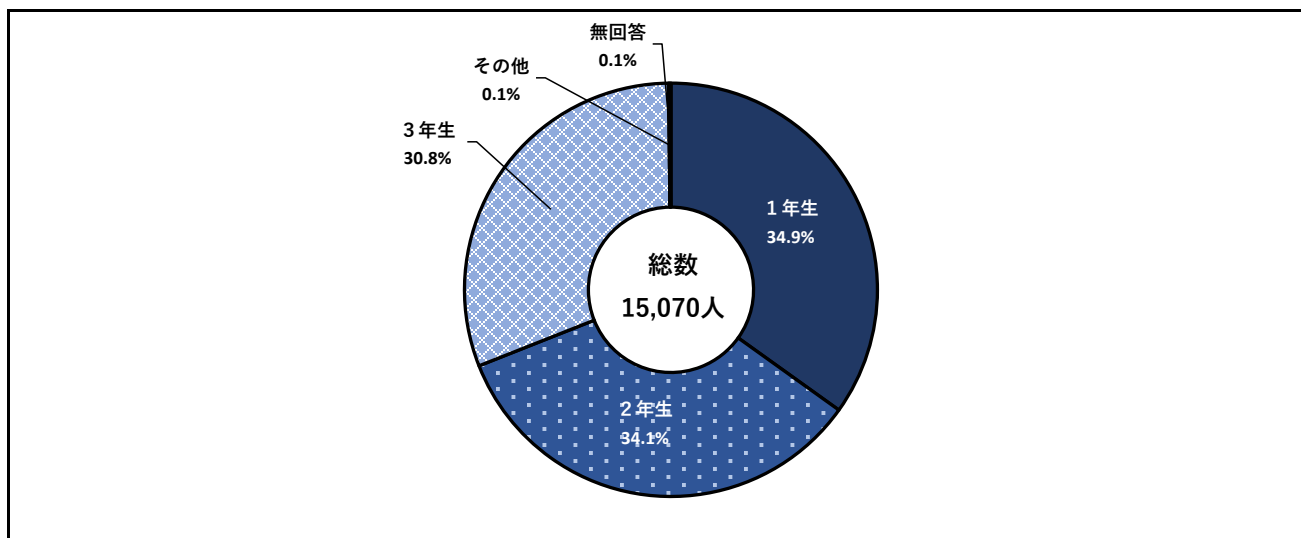


図1 学年

質問2 あなたの性別をお答えください。

性別を聞いたところ、「男性」は49.8%、「女性」は49.3%となっている。

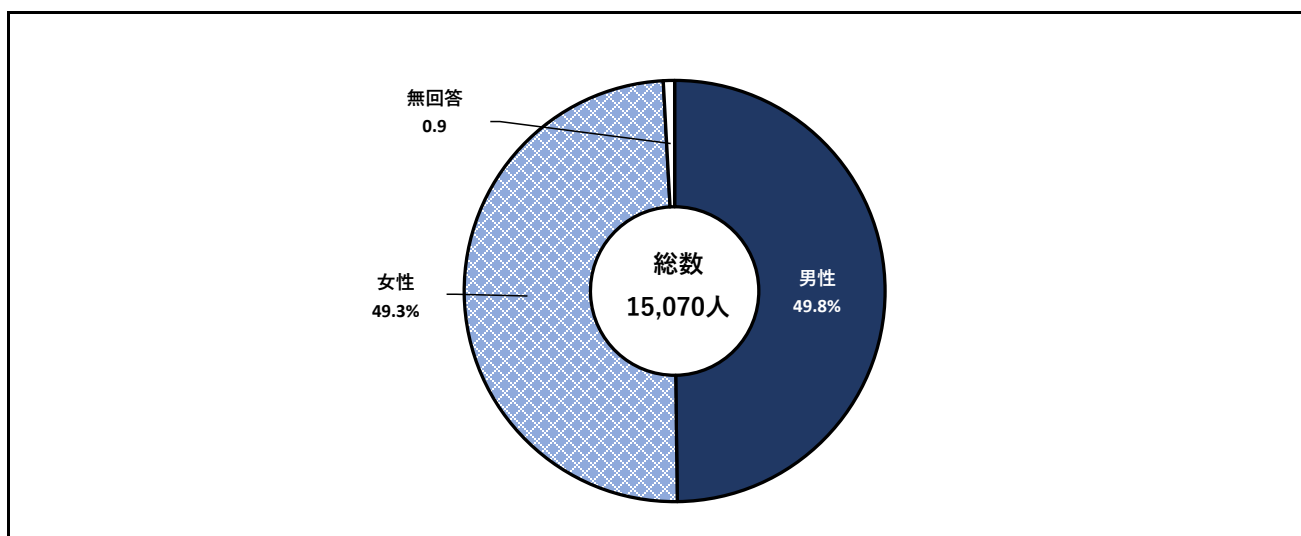


図2 性別

飲酒（お酒を飲むこと）についてお聞きします

質問3 あなたの友達のうち、お酒を飲んでいる友達はどのくらいいると思いますか？

友達のうち、お酒を飲んでいる友達はどのくらいいると思うか聞いたところ、「いない」は82.3%、『いる（計）』と答えた方（「わずか」11.8%+「数人」5.0%+「ほとんど」0.4%+「全員」0.2%）は17.4%となっている。

性別にみると、お酒を飲んでいる友達が『いる（計）』は男性で高くなっている。

学年別にみると、お酒を飲んでいる友達が『いる（計）』は3年生で高くなっている。

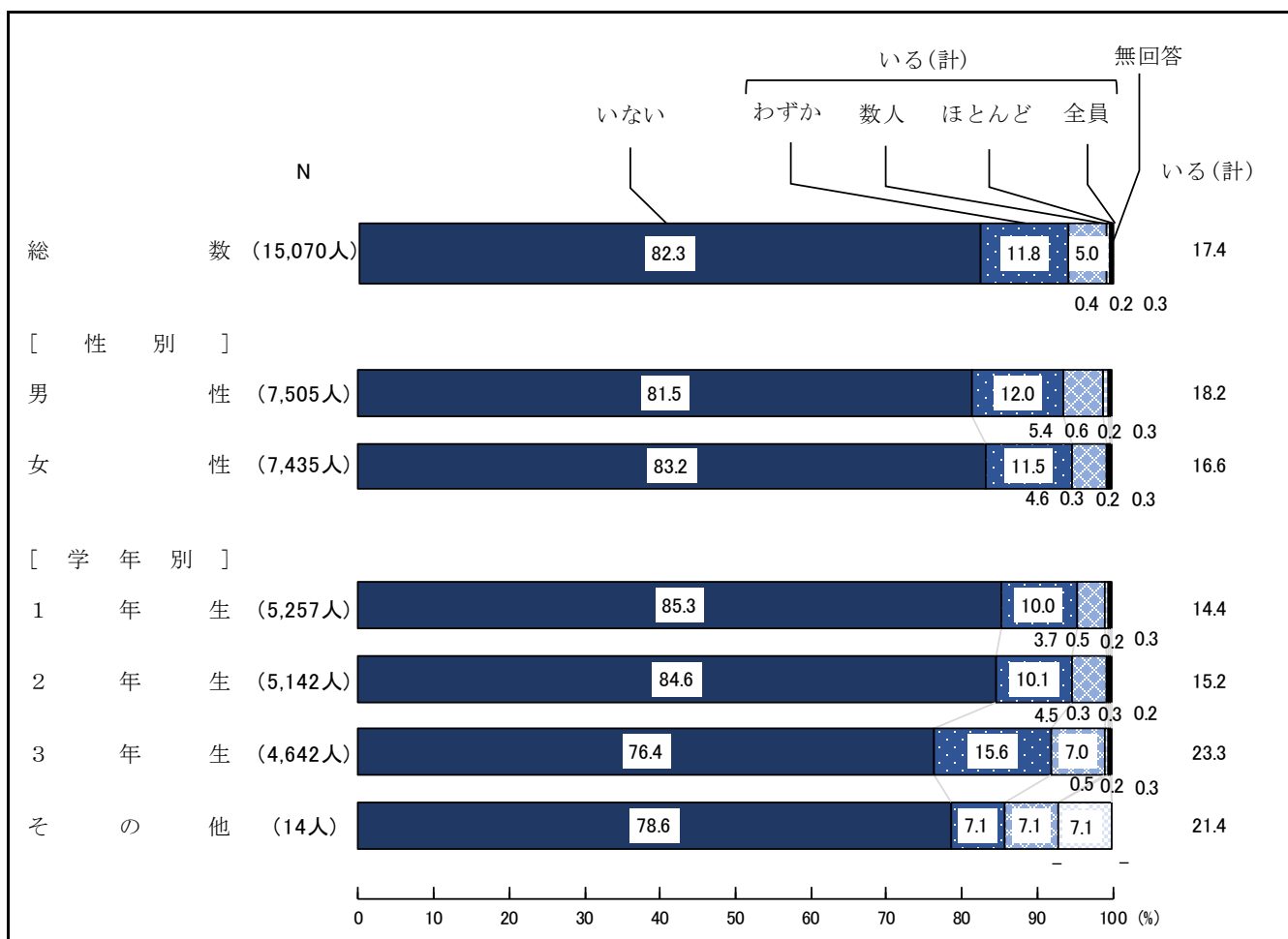


図3 お酒を飲んでいる友達はどのくらいいると思うか

質問4 次の人からお酒をすすめられたことはありますか？あてはまるものすべてに教えてください。

お酒をすすめられた相手を挙げてもらったところ、「父」(3.7%)、「祖父母」(2.0%)、「母」(1.8%)などが挙げられ、すすめられた相手を1つでも挙げた『すすめられたことがある(計)』は7.7%となっている。一方、「すすめられたことはない」は91.8%となっている。

性別にみると、『すすめられたことがある(計)』は男性で高くなっている。

学年別にみると、『すすめられたことがある(計)』は3年生で高くなっている。

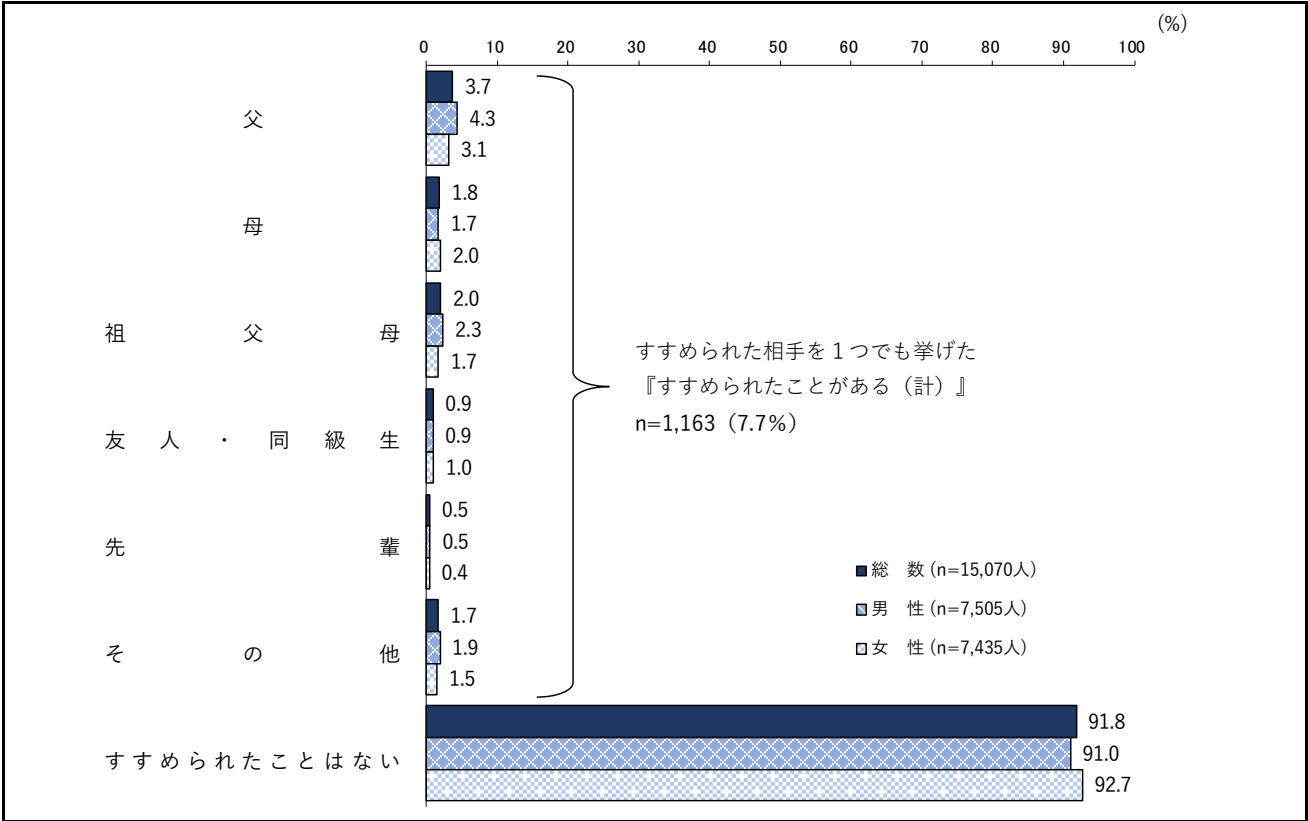


図4 (1) お酒をすすめられた相手 (性別・複数回答)

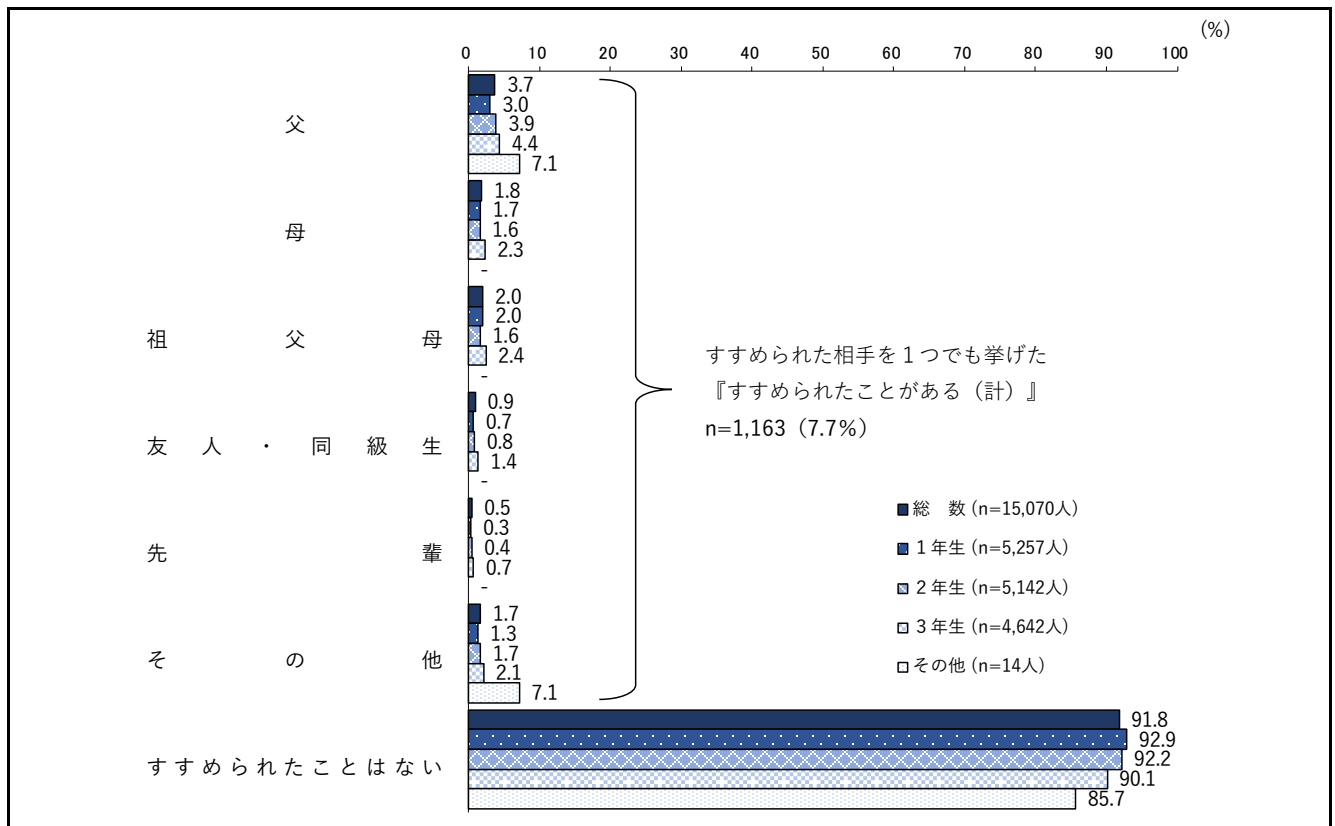


図4（2） お酒をすすめられた相手（学年別・複数回答）

質問5 過去7日間で、おうちの人が、あなたがいる所でお酒を飲んだ日は何日ありましたか？

過去7日間で、おうちの人が、あなたがいる所でお酒を飲んだ日は何日あったか聞いたところ、「0日」は34.2%、『1日以上（計）』と答えた方（「1～2日」25.0%+「3～4日」15.4%+「5～6日」9.5%+「7日」15.5%）は65.3%となっている。

性別にみると、『1日以上（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『1日以上（計）』では大きな差はみられない。

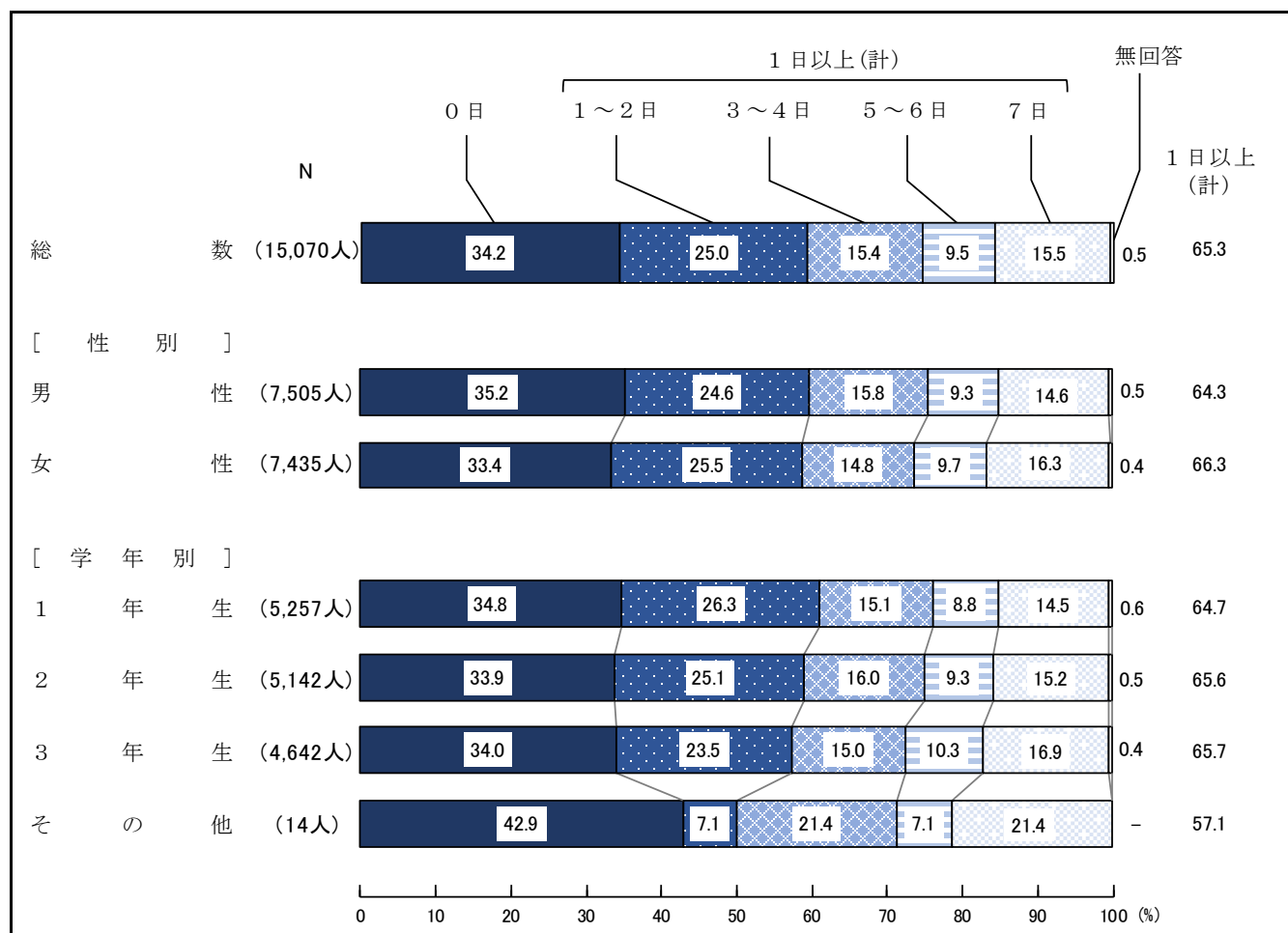


図5 過去7日間で、おうちの人が、あなたがいる所でお酒を飲んだ日は何日あったか

質問6 お酒を飲むと身体に害があると思いますか？

お酒を飲むと身体に害があると思うか聞いたところ、「害があると思わない」は4.9%、「多少はあるだろうが大したことはないと思う」は33.5%、「害があると思う」は61.2%となっている。

性別にみると、「害があると思わない」、「多少はあるだろうが大したことはないと思う」は男性で、「害があると思う」は女性で、それぞれ高くなっている。

学年別にみると、「多少はあるだろうが大したことはないと思う」は3年生で、「害があると思う」は1年生で、それぞれ高くなっている。

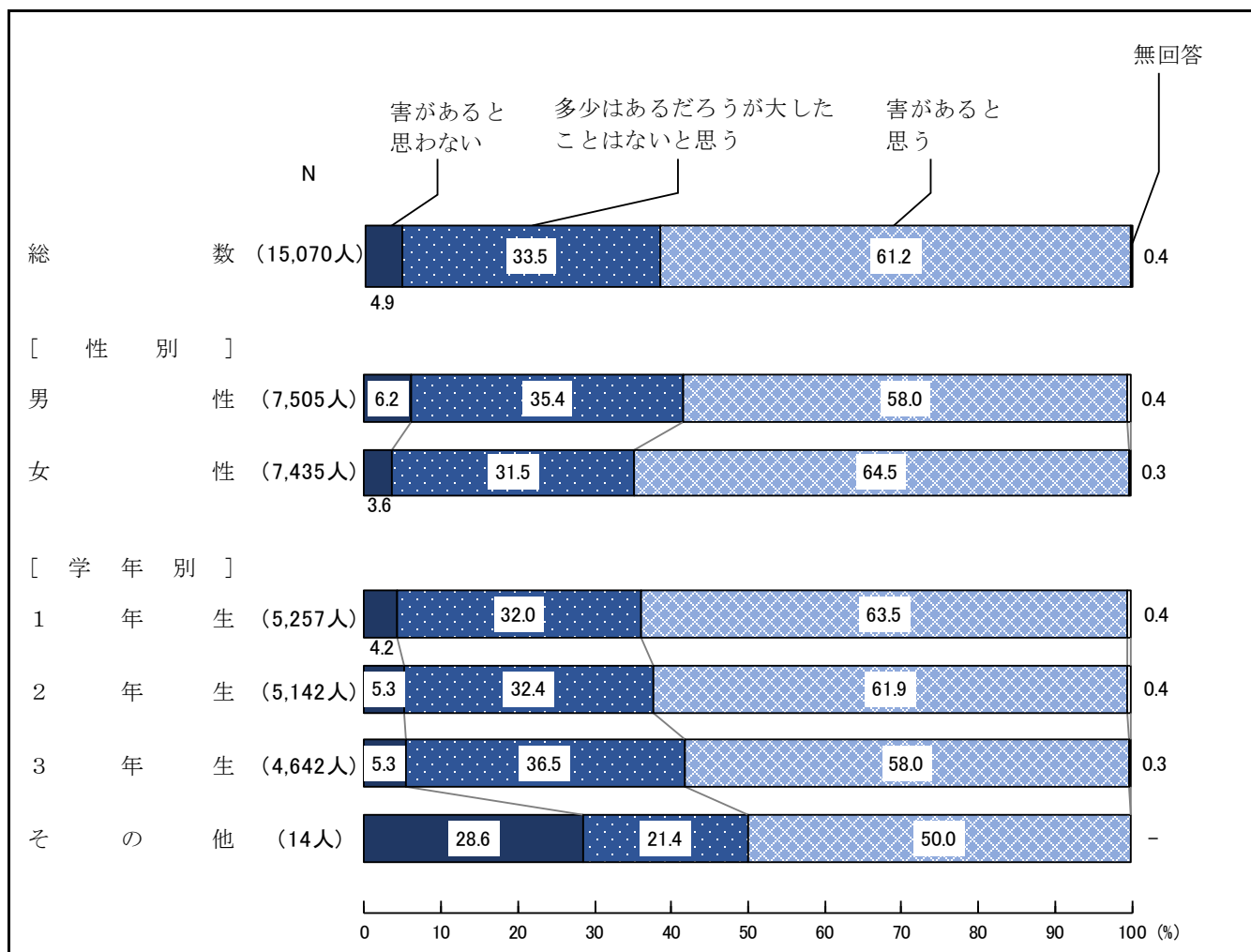


図6 お酒を飲むと身体に害があると思うか

質問7 あなたはお酒をどのくらいの頻度で飲みますか？

お酒をどのくらいの頻度で飲むか聞いたところ、「飲まない」は96.4%、『飲む（計）』と答えた方（「年に1、2回」1.9%+「月に1、2回」0.6%+「週末ごと」0.1%+「週に数回」0.2%+「毎日」0.1%）は2.9%となっている。

性別にみると、『飲む（計）』は男性で高くなっている。

学年別にみると、『飲む（計）』では大きな差はみられない。

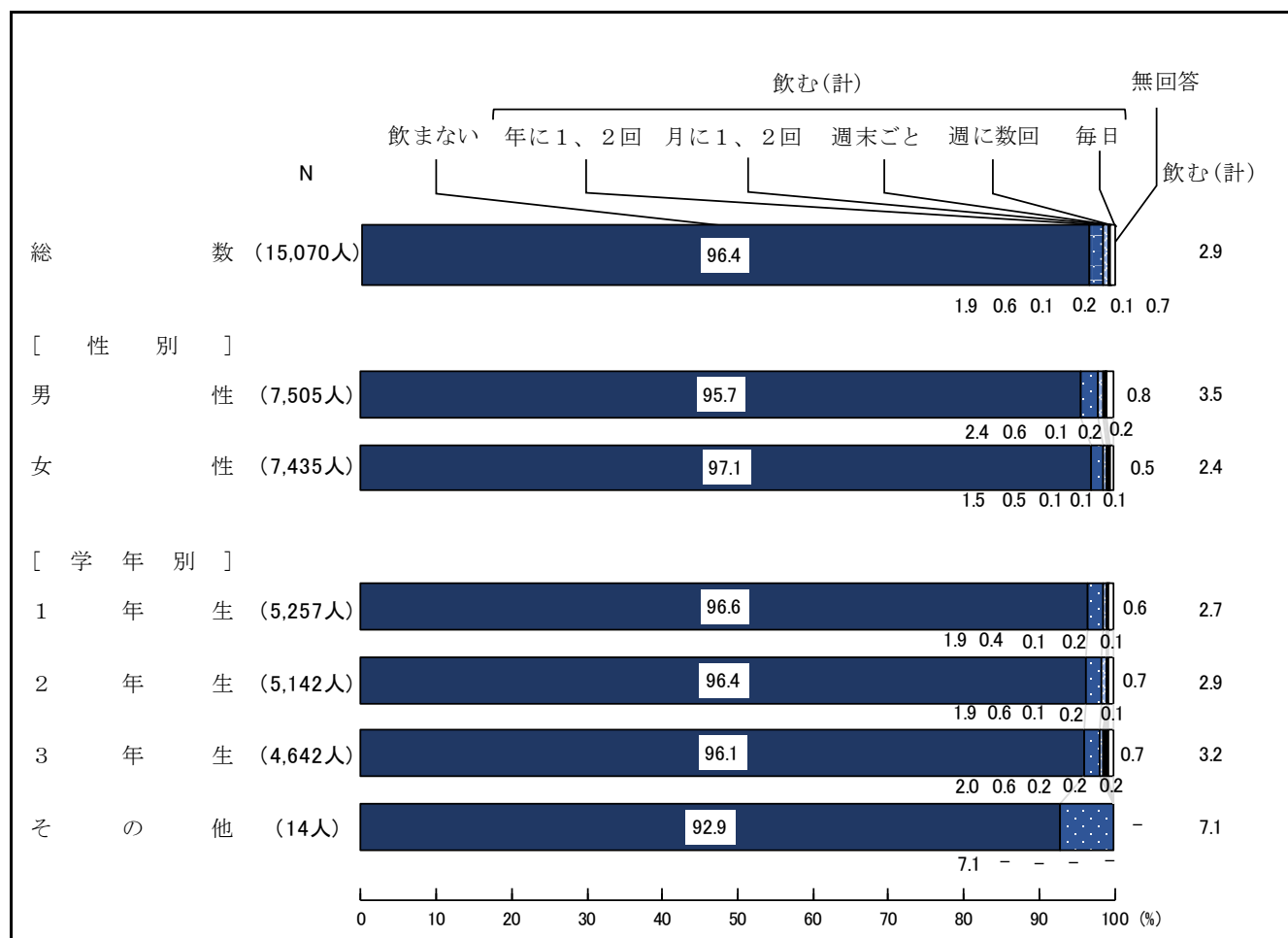


図7 お酒をどのくらいの頻度で飲むか

質問 7-1 この 30 日間に、少しでもお酒を飲んだ日は合計何日になりますか？

お酒を飲んでいると回答した人（440 人）に、この 30 日間に、少しでもお酒を飲んだ日は合計何日になるか聞いたところ、「0 日（一度も飲んでいない）」は 63.0%、『1 日以上（計）』と答えた方（「1～2 日」24.1%+「3～5 日」5.7%+「6～9 日」1.8%+「10～19 日」2.0%+「20～29 日」2.5%+「毎日」0.9%）は 36.1%となっている。

性別、学年別ともに、『1 日以上（計）』では大きな差はみられない。

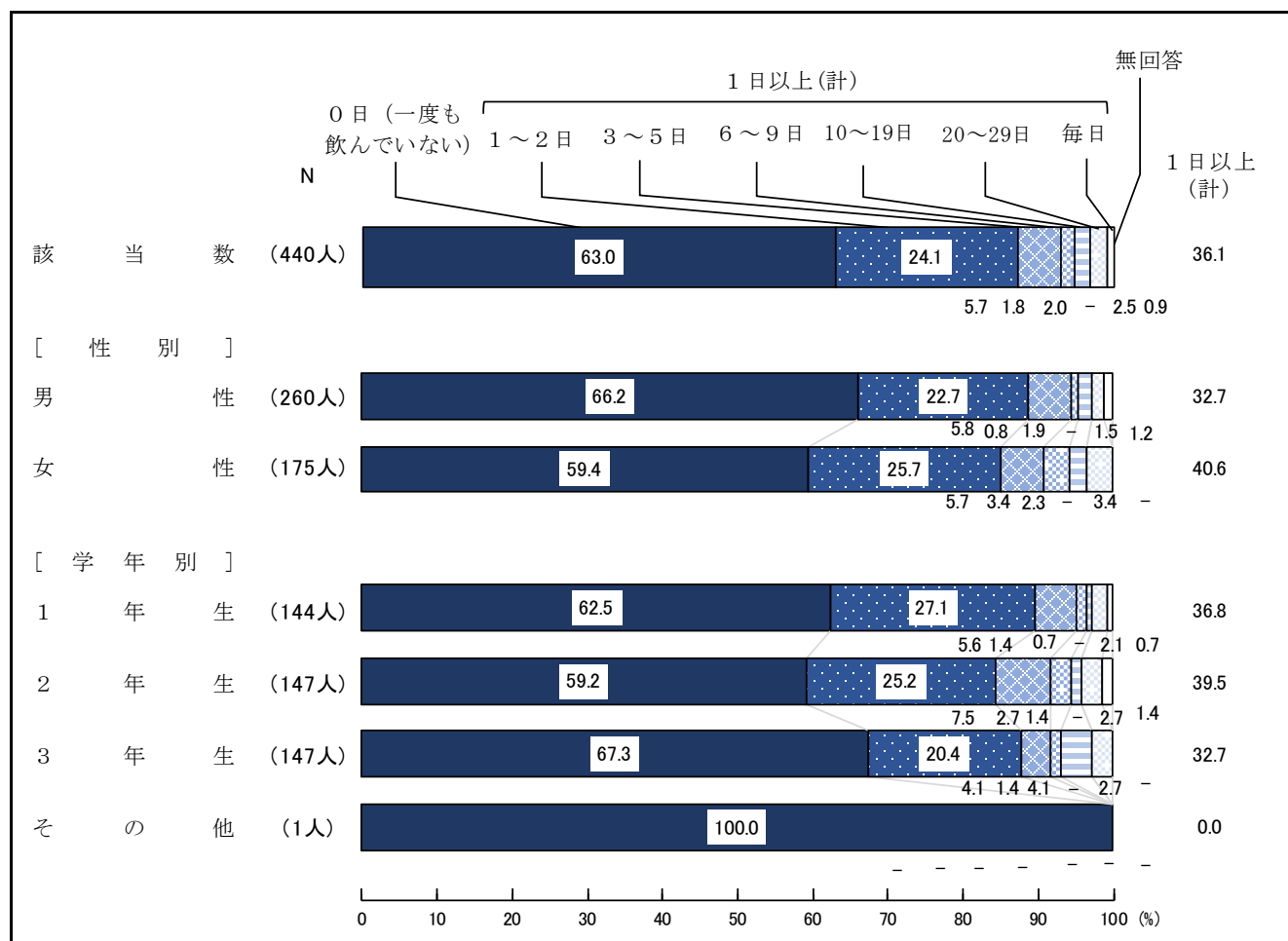


図 7-1 この 30 日間に、少しでもお酒を飲んだ日は合計何日になるか

質問 7-2 だれとお酒をのみますか？あてはまるものすべてに教えてください。

お酒を飲んでいると回答した人（440 人）に、だれとお酒を飲むか挙げてもらったところ、「両親（父または母）」（56.6%）、「祖父母または親戚」（26.1%）、「友人・仲間（同世代、先輩後輩含む）」（13.4%）などが挙げられた。

性別、学年別ともに、大きな差はみられない。

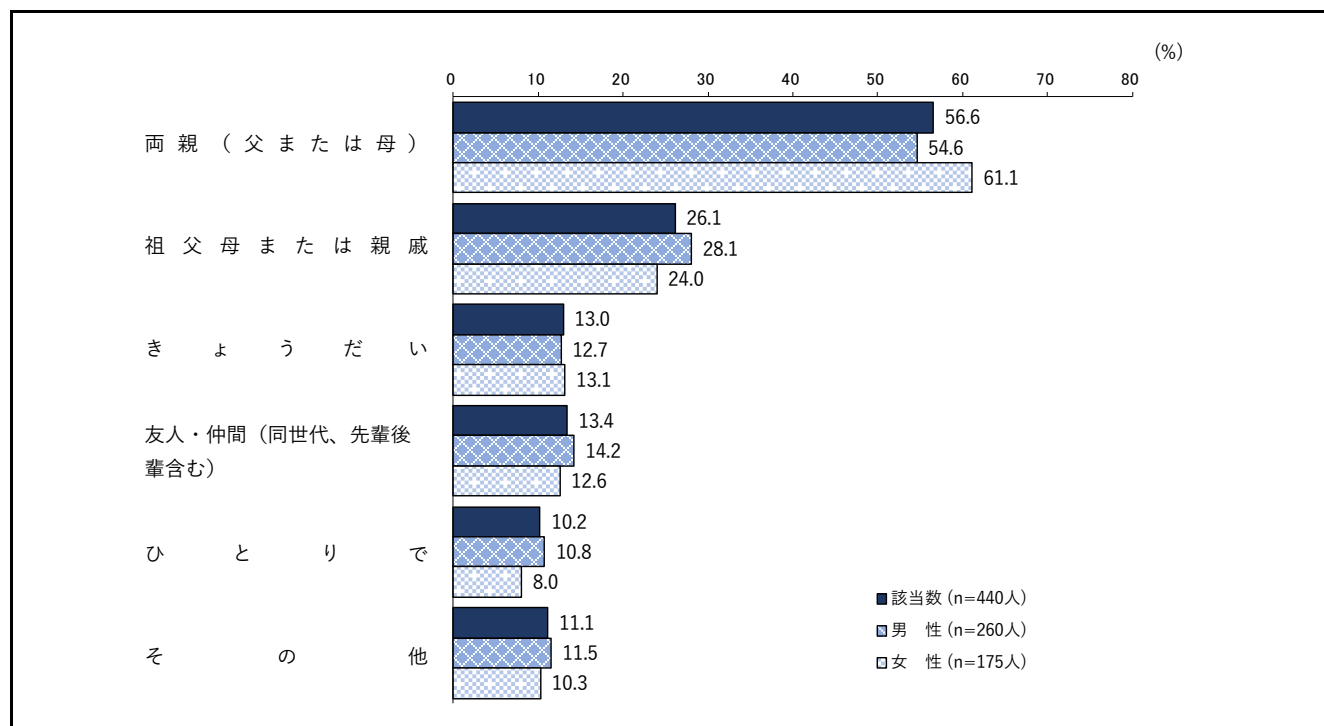


図 7-2 (1) だれとお酒を飲むか（性別・複数回答）

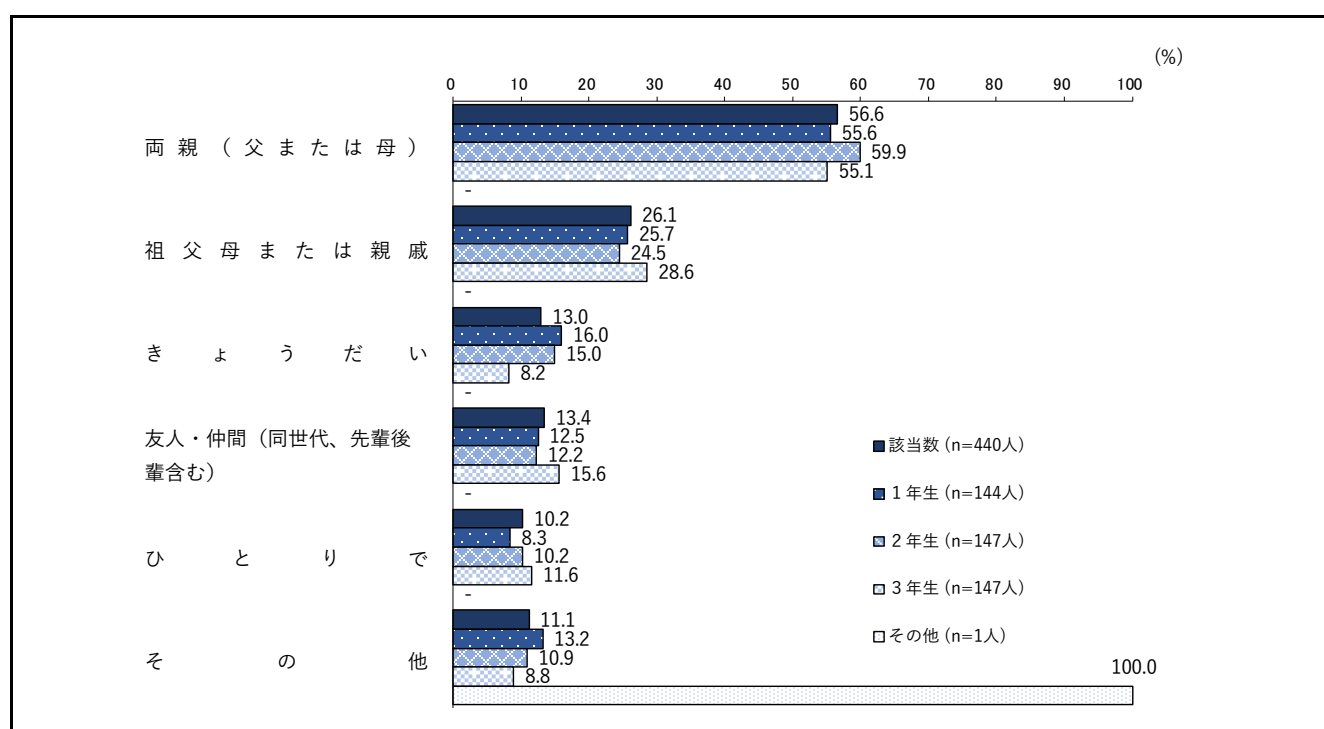


図 7-2 (2) だれとお酒を飲むか（学年別・複数回答）

質問 7-3 どのようなときにお酒を飲みますか？あてはまるものすべてに教えてください。

お酒を飲んでいると回答した人（440 人）に、どのようなときにお酒を飲むか挙げてもらったところ、「正月など特別な行事のとき」（49.8%）、「ふだん、家族と自宅にいるとき」（31.6%）などが挙げられた。性別にみると、「正月など特別な行事のとき」は男性で高くなっている。

学年別にみると、「友人・仲間と集まったとき」は3年生で高くなっている。

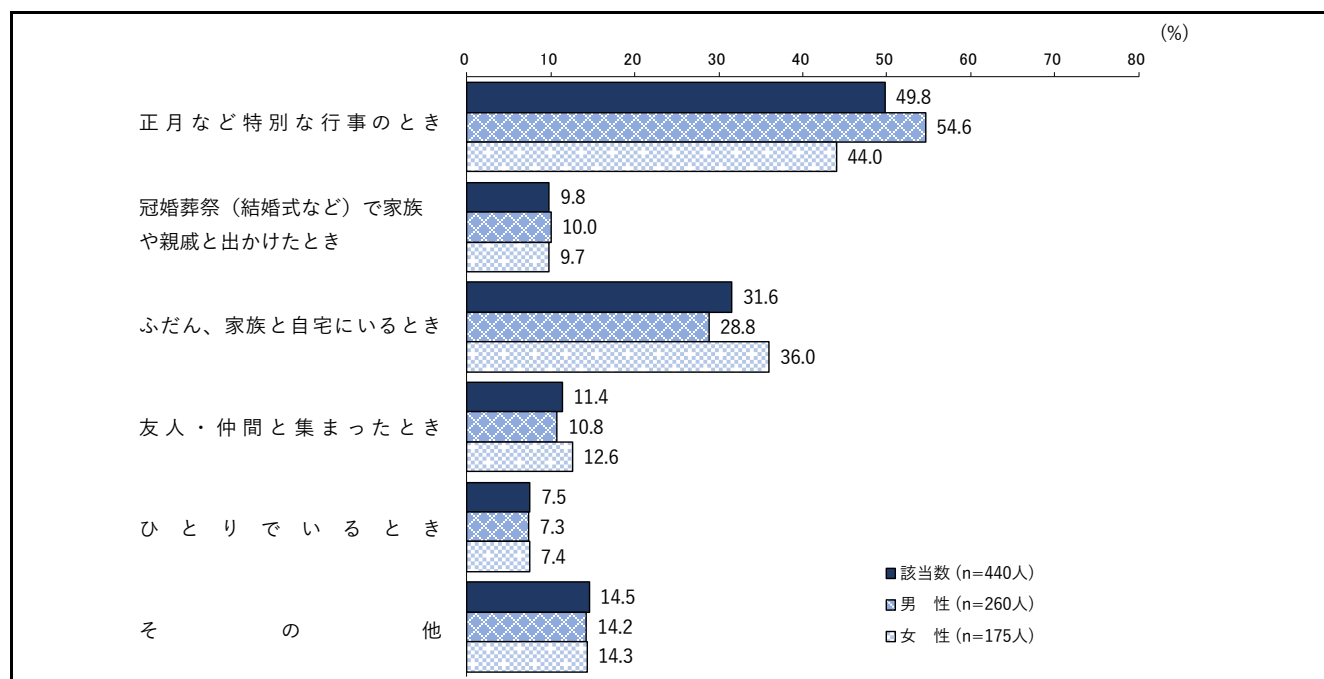


図 7-3 (1) どのようなときにお酒を飲むか（性別・複数回答）

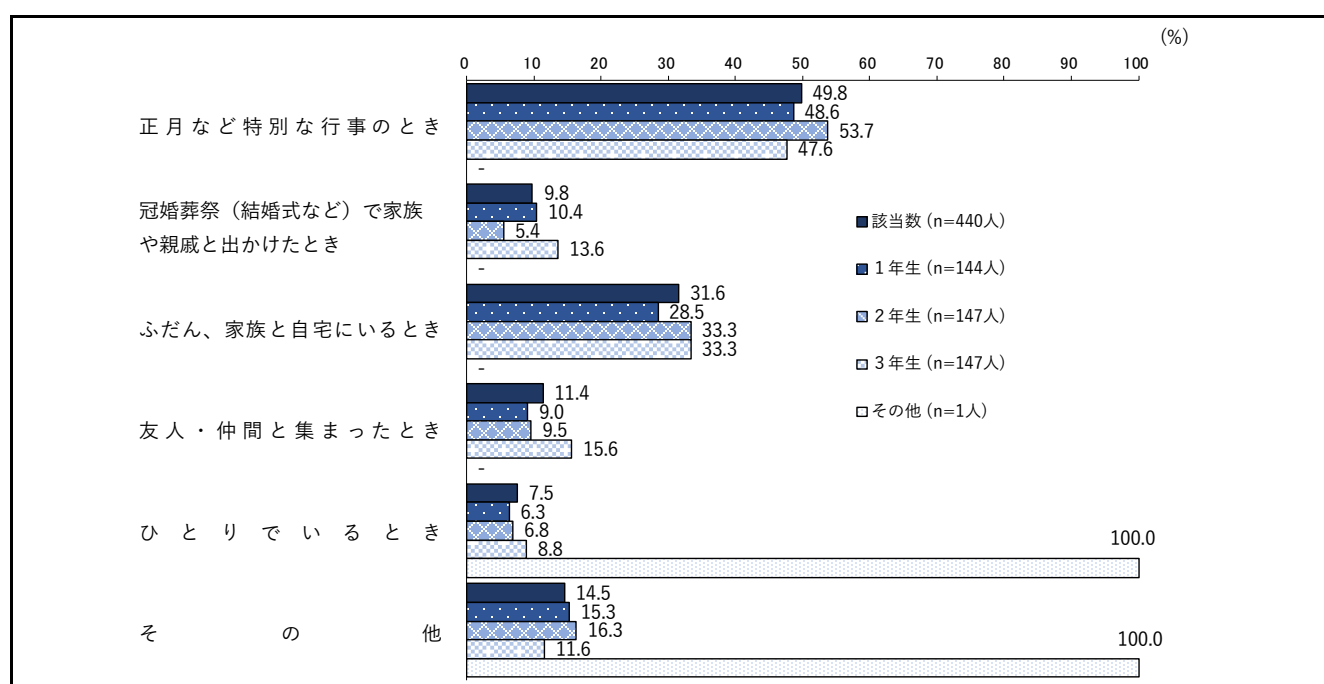


図 7-3 (2) どのようなときにお酒を飲むか（学年別・複数回答）

喫煙（たばこを吸うこと）についてお聞きします

質問 8 あなたの友達のうち、たばこを吸っている友達がどのくらいいると思いますか？

友達のうち、たばこを吸っている友達がどのくらいいると思うか聞いたところ、「いない」は 84.2%、
『いる（計）』と答えた方（「わずか」10.7%+「数人」4.1%+「ほとんど」0.3%+「全員」0.2%）は 15.4%
となっている。

性別にみると、たばこを吸っている友達が『いる（計）』は男性で高くなっている。

学年別にみると、たばこを吸っている友達が『いる（計）』は3年生で高くなっている。

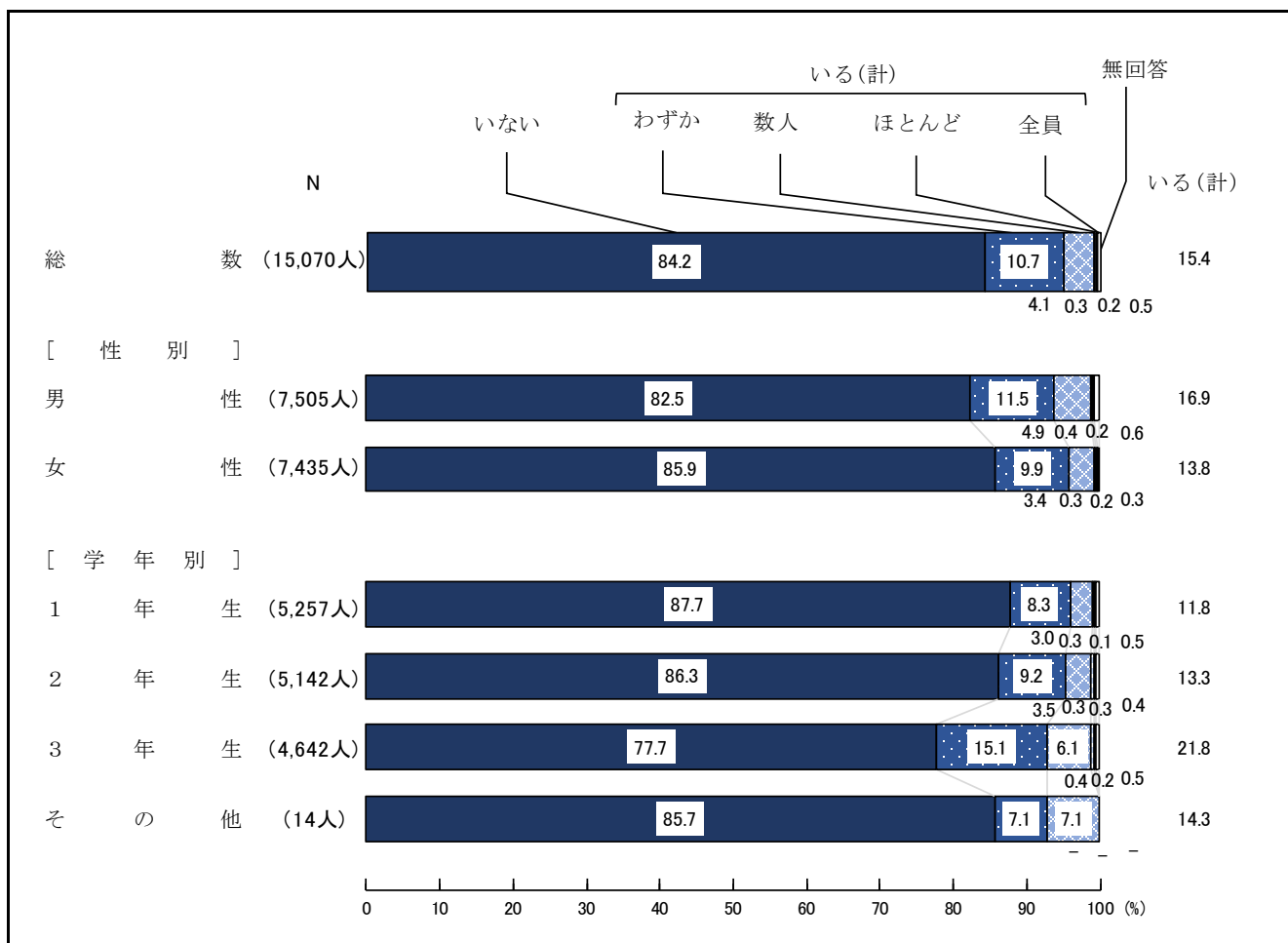


図 8 友達のうち、たばこを吸っている友達がどのくらいいると思うか

質問9 次の人からたばこをすすめられたことはありますか？あてはまるものすべてに教えてください。

たばこをすすめられた相手を挙げてもらったところ、「友人・同級生」(0.9%)などが挙げられ、すすめられた相手を1つでも挙げた『すすめられたことがある(計)』は2.4%となっている。一方、「すすめられたことはない」は96.9%となっている。

性別にみると、『すすめられたことがある(計)』は男性で高くなっている。

学年別にみると、『すすめられたことがある(計)』は3年生で高くなっている。

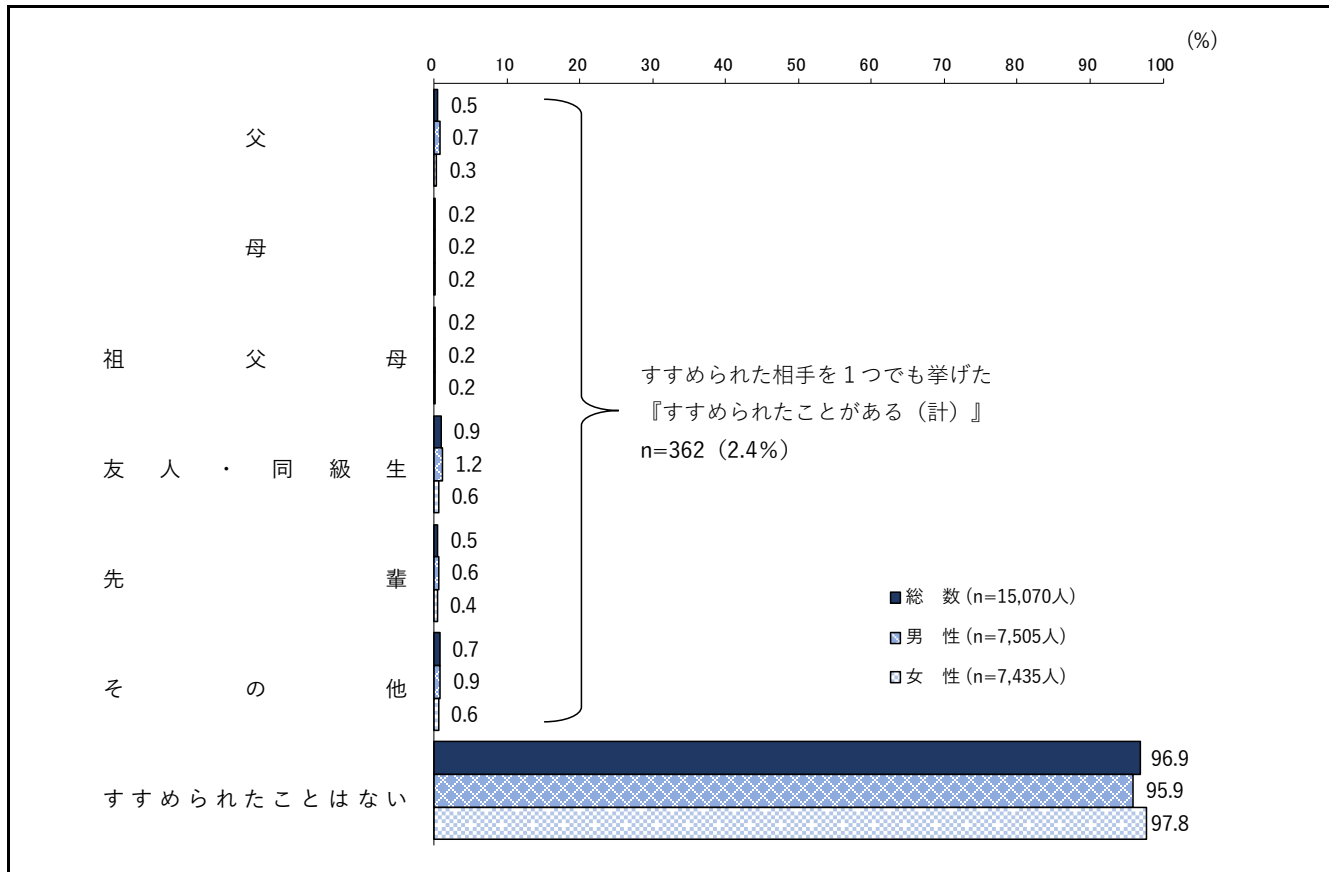


図9 (1) たばこをすすめられた相手(性別・複数回答)

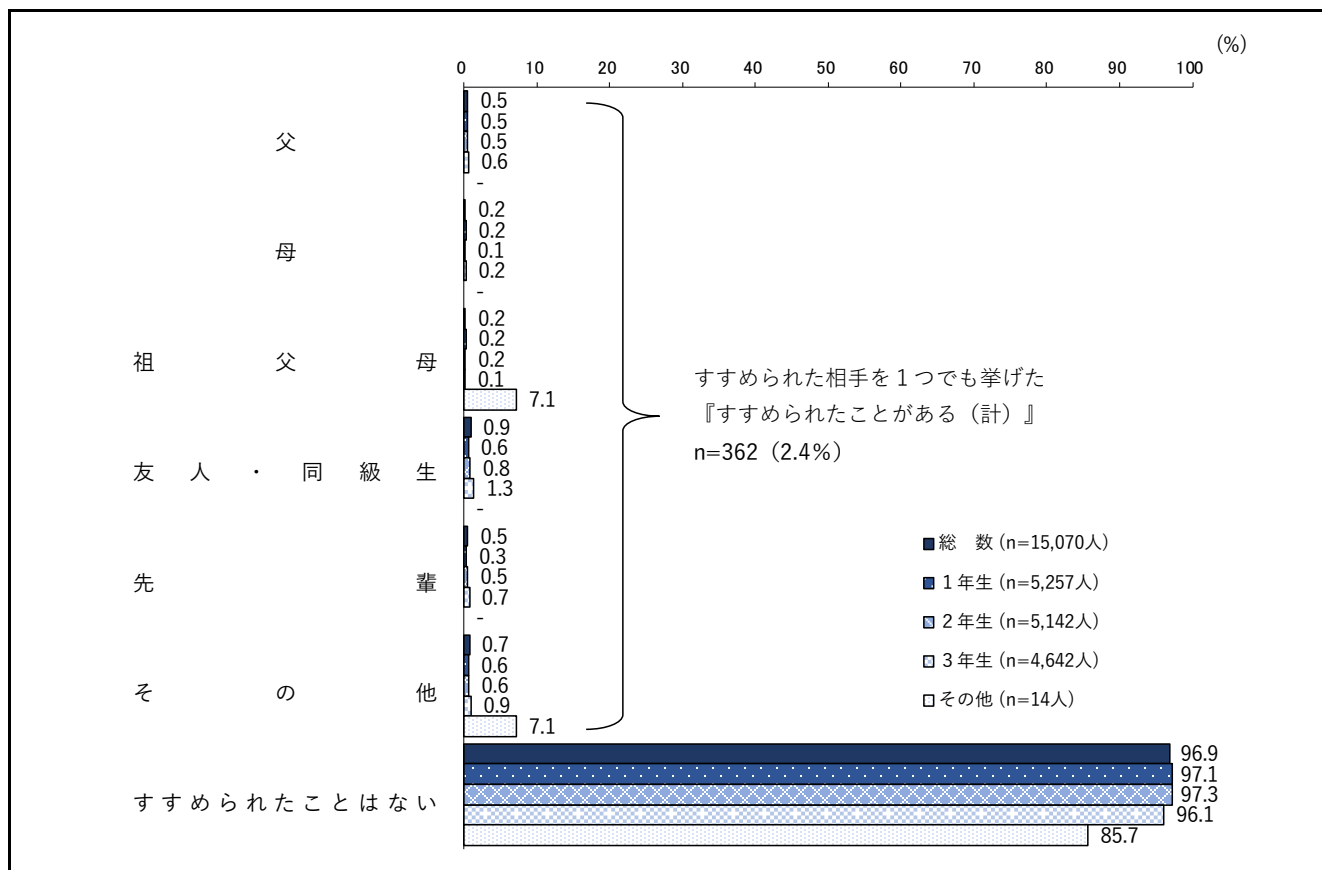


図9(2) たばこをすすめられた相手 (学年別・複数回答)

質問 10 過去 7 日間で、おうちの人が、あなたがいる所でたばこを吸った日は何日ありましたか？

過去 7 日間で、おうちの人が、あなたがいる所でたばこを吸った日は何日あったか聞いたところ、「0 日」は 73.1%、『1 日以上（計）』と答えた方（「1～2 日」6.2%+「3～4 日」4.8%+「5～6 日」3.3%+「7 日」12.0%）は 26.3%となっている。

性別、学年別ともに、『1 日以上（計）』では大きな差はみられない。

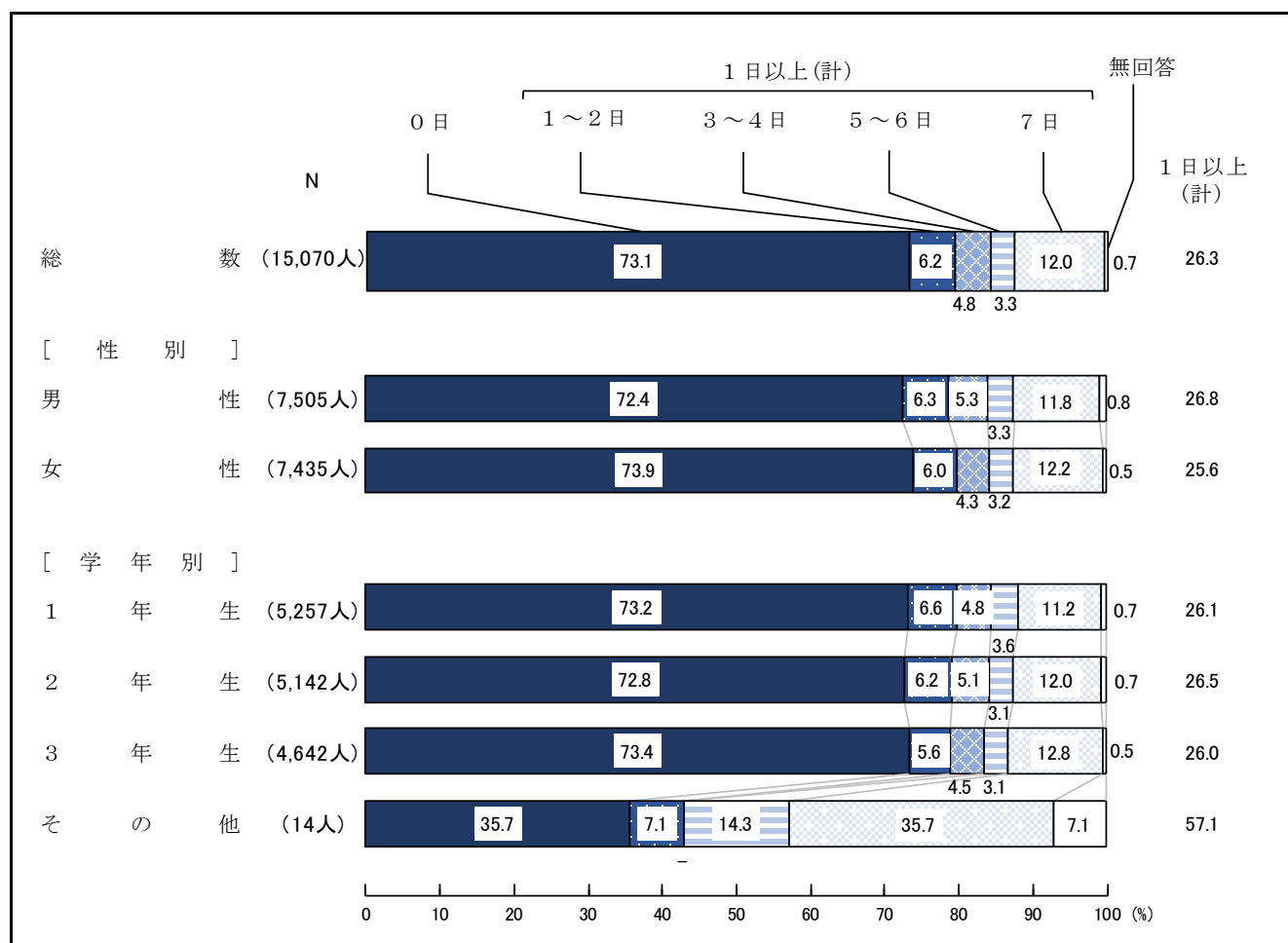


図 10 過去 7 日間で、おうちの人が、あなたがいる所でたばこを吸った日は何日あったか

質問 11 たばこを吸うと身体に害があると思いますか？

たばこを吸うと身体に害があると思うか聞いたところ、「害があると思わない」は 5.0%、「多少はあるだろうが大したことはないと思う」は 3.2%、「害があると思う」は 91.2%となっている。

性別にみると、「害があると思う」は女性で高くなっている。

学年別にみると、「害があると思う」は 1 年生で高くなっている。

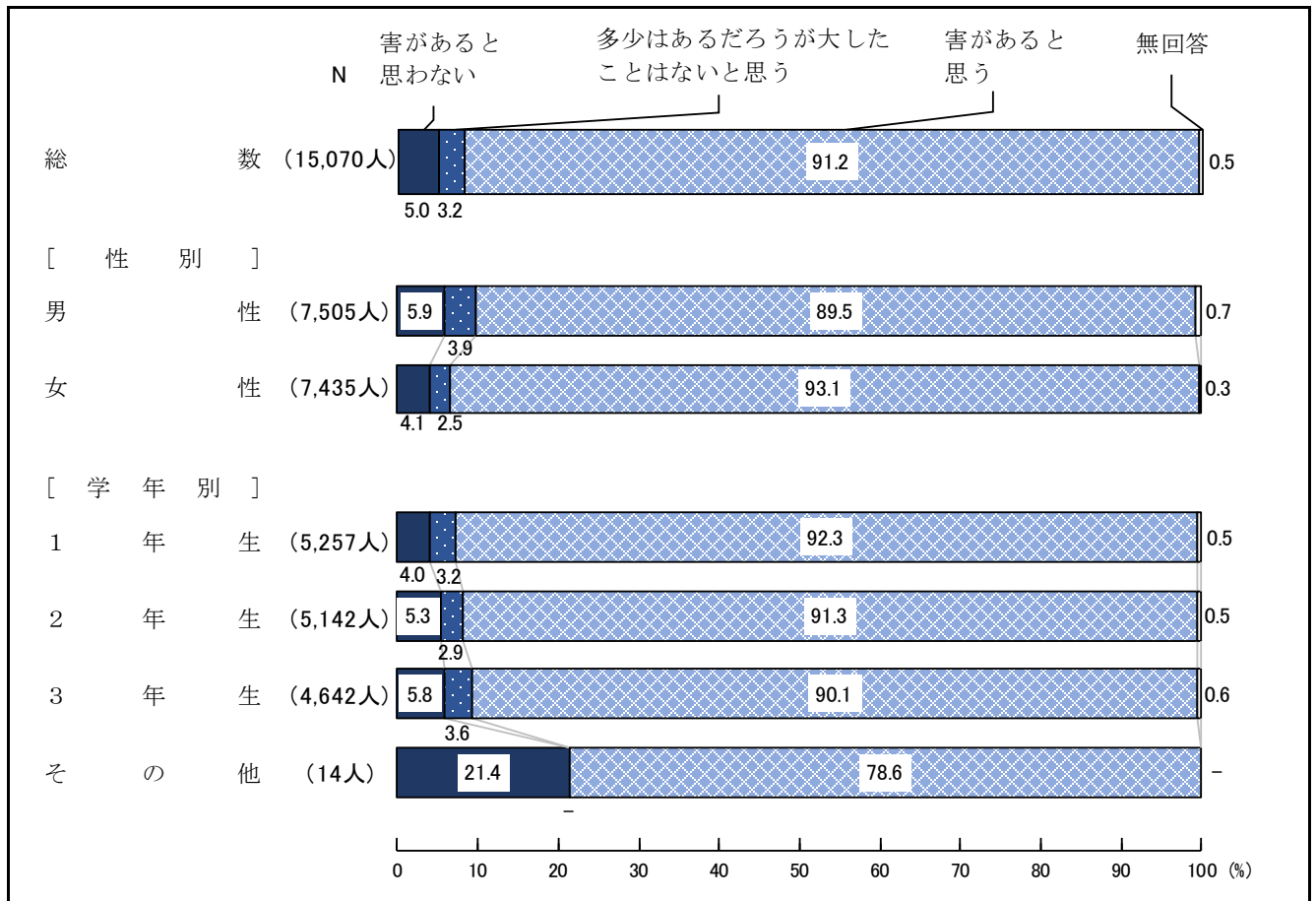


図 11 たばこを吸うと身体に害があると思うか

質問 12 あなたは、今までに紙巻きたばこを一口でも吸ったことがありますか？

紙巻きたばこを一口でも吸ったことがあるか聞いたところ、「ない」は98.2%、「ある」は1.0%となっている。

性別にみると、紙巻きたばこを一口でも吸ったことが「ある」は男性で高くなっている。

学年別にみると、紙巻きたばこを一口でも吸ったことが「ある」は3年生で高くなっている。

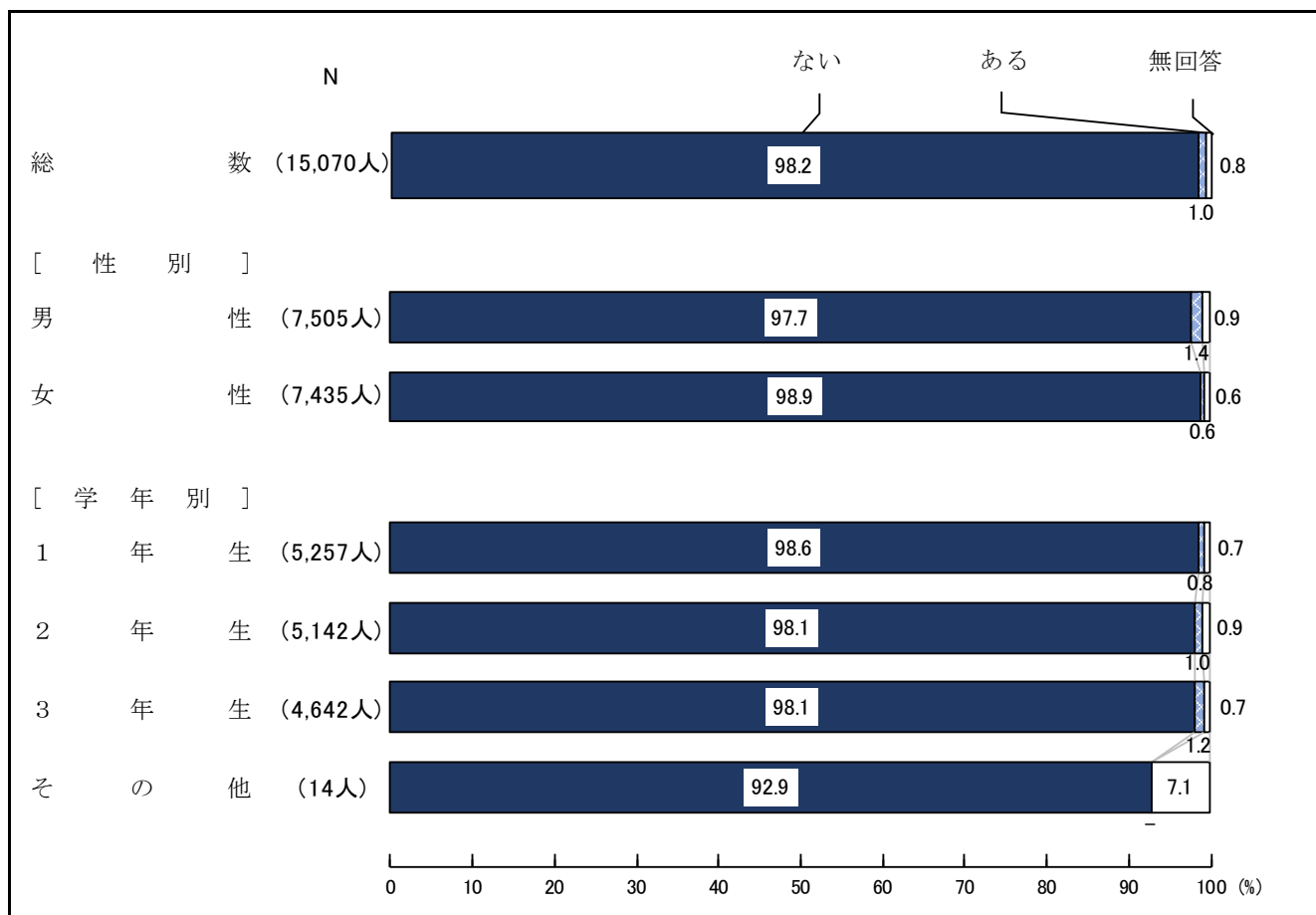


図 12 紙巻きたばこを一口でも吸ったことがあるか

質問 12-1 この 30 日間に、何日、紙巻きたばこを吸いましたか？

紙巻きたばこを吸ったことがあると回答した人（148 人）に、この 30 日間に、何日、紙巻きたばこを吸ったか聞いたところ、「0 日（一度も吸っていない）」は 62.8%、『1 日以上（計）』と答えた方（「1～2 日」12.8%+「3～5 日」1.4%+「10～19 日」6.1%+「20～29 日」1.4%+「毎日」8.1%）は 29.7%となっている。

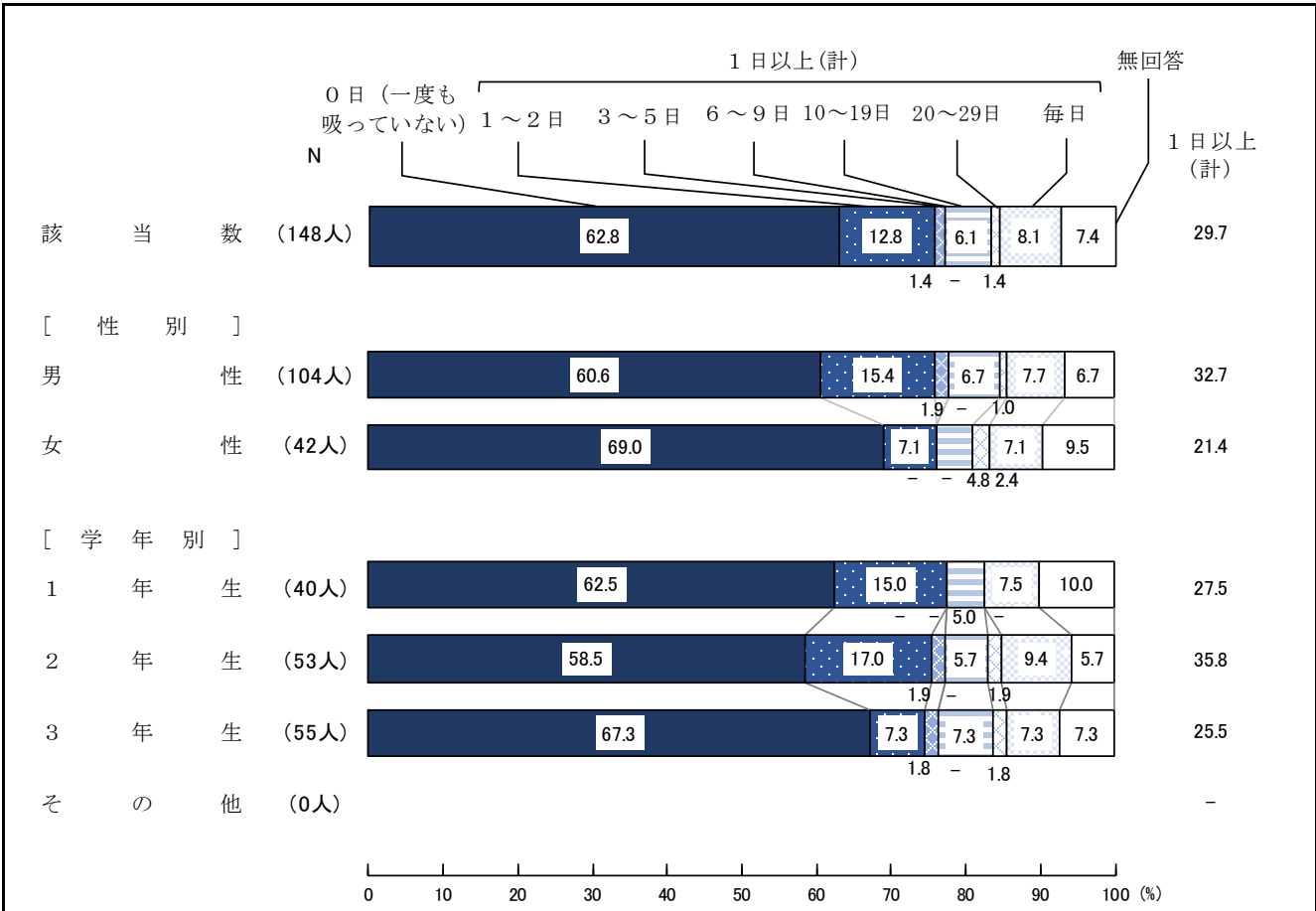


図 12-1 この 30 日間に、何日、紙巻きたばこを吸ったか

質問 13 あなたは、今までに加熱式たばこを一口でも吸ったことがありますか？

加熱式たばこを一口でも吸ったことがあるか聞いたところ、「ない」は97.3%、「ある」は0.8%となっている。

性別にみると、加熱式たばこを一口でも吸ったことが「ある」は男性で高くなっている。

学年別にみると、加熱式たばこを一口でも吸ったことが「ある」は3年生で高くなっている。

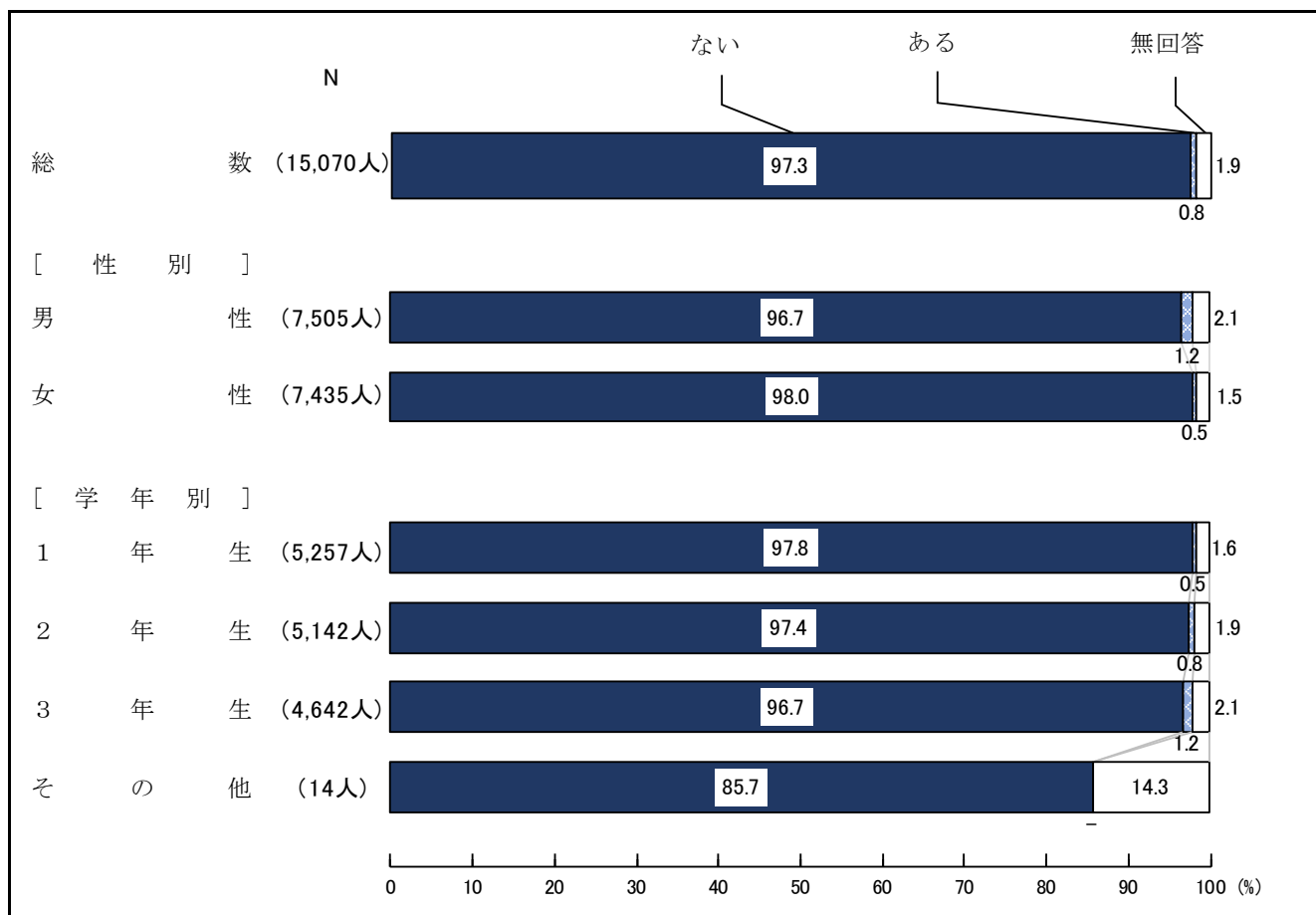


図 13 加熱式たばこを一口でも吸ったことがあるか

質問 13-1 この 30 日間に、何日、加熱式たばこを吸いましたか？

加熱式たばこを吸ったことがあると回答した人（124 人）に、この 30 日間に、何日、加熱式たばこを吸ったか聞いたところ、「0 日（一度も吸っていない）」は 65.3%、『1 日以上（計）』と答えた方（「1～2 日」13.7%+「3～5 日」4.0%+「6～9 日」0.8%+「10～19 日」3.2%+「毎日」9.7%）は 31.5%となっている。

性別、学年別ともに、『1 日以上（計）』では大きな差はみられない。

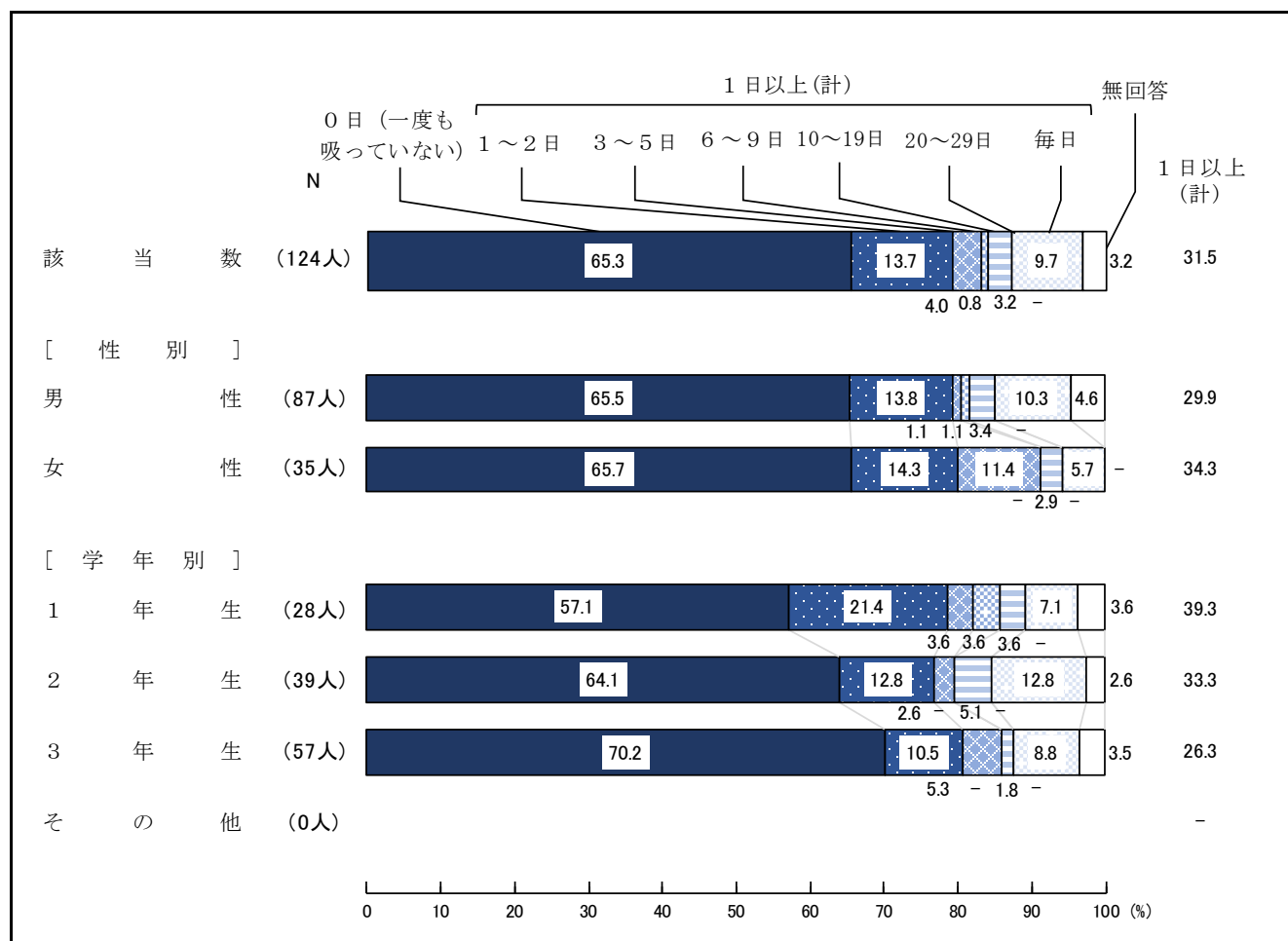


図 13-1 この 30 日間に、何日、加熱式たばこを吸ったか

質問 14 あなたは、今までに電子タバコを一口でも吸ったことがありますか？

電子タバコを一口でも吸ったことがあるか聞いたところ、「ない」は95.9%、「ある」は0.7%となっている。

性別にみると、電子タバコを一口でも吸ったことが「ある」は男性で高くなっている。

学年別にみると、電子タバコを一口でも吸ったことが「ある」は3年生で高くなっている。

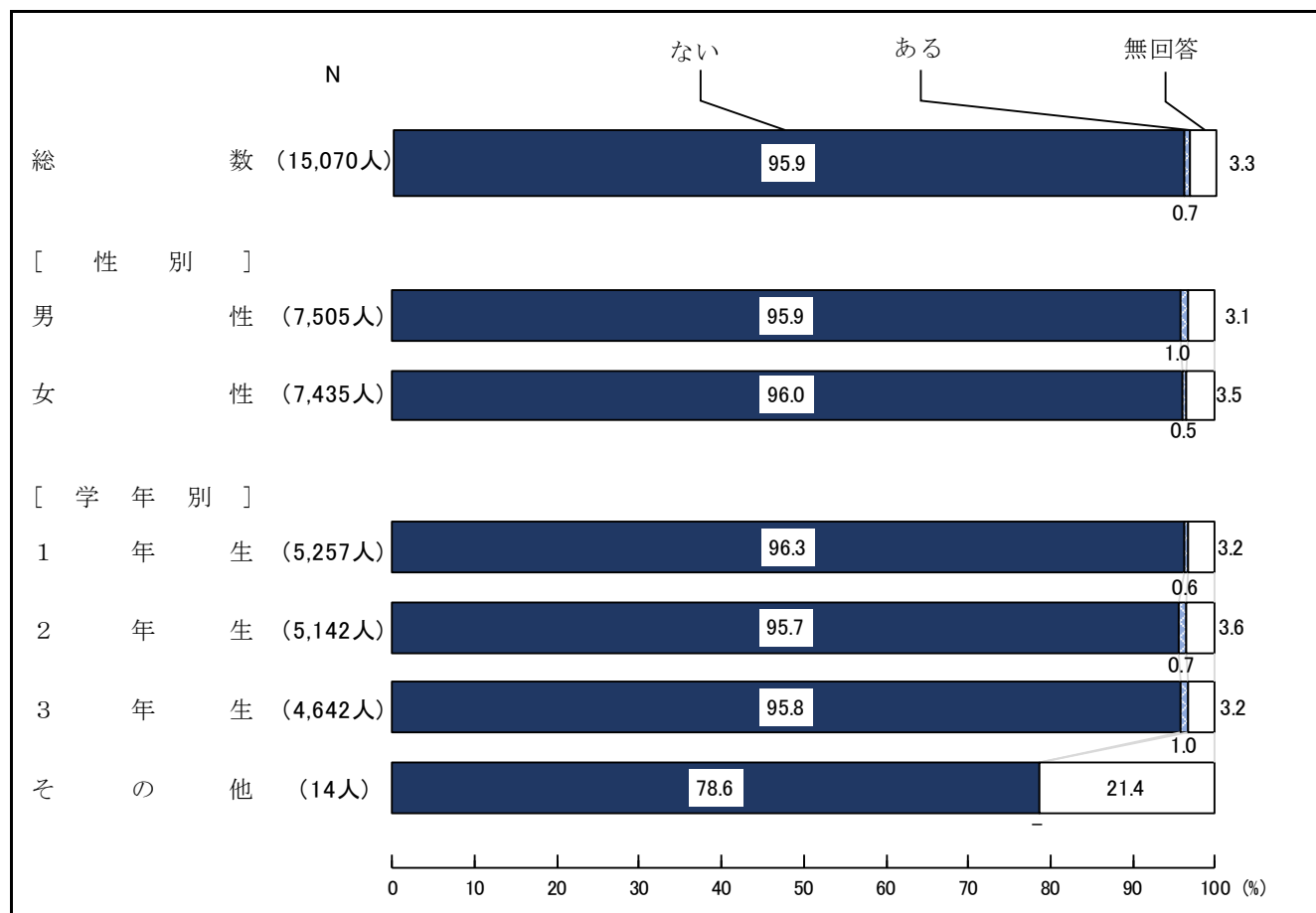


図 14 電子タバコを一口でも吸ったことがあるか

質問 14-1 この30日間に、何日、電子タバコを吸いましたか？

電子タバコを吸ったことがあると回答した人（113人）に、この30日間に、何日、電子タバコを吸ったか聞いたところ、「0日（一度も吸っていない）」は69.9%、『1日以上（計）』と答えた方（「1～2日」14.2%+「3～5日」2.7%+「6～9日」2.7%+「10～19日」0.9%+「20～29日」5.3%+「毎日」4.4%）は25.7%となっている。

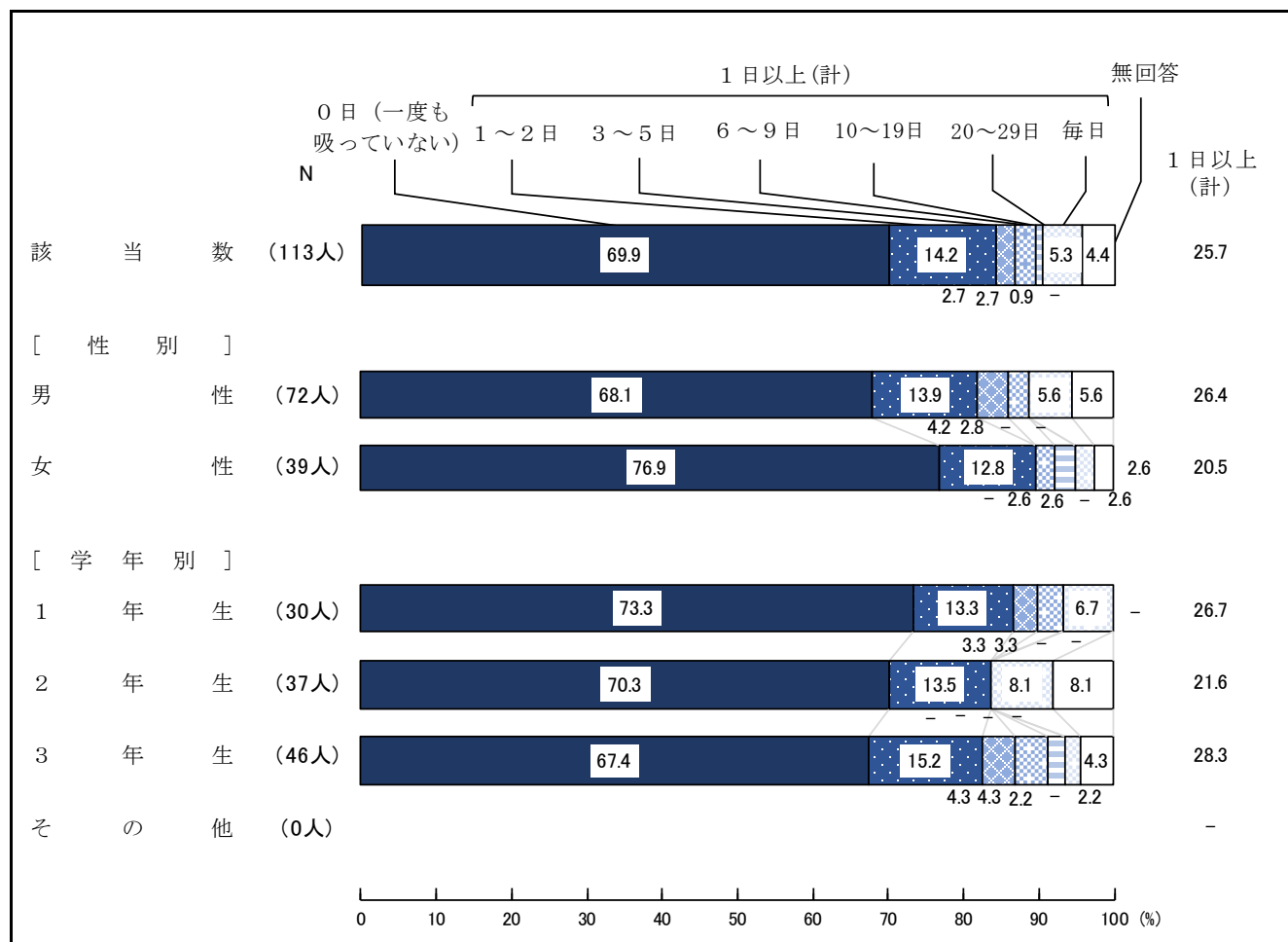


図 14-1 この30日間に、何日、電子タバコを吸ったか

あなたの生活についてお聞きします

質問 15 あなたはクラブ活動（部活やクラブ）に参加していますか？

クラブ活動（部活やクラブ）に参加しているか聞いたところ、「はい」は79.8%、「いいえ」は19.4%となっている。

性別にみると、「はい（クラブ活動（部活やクラブ）に参加している）」は男性で高くなっている。

学年別にみると、「はい（クラブ活動（部活やクラブ）に参加している）」は1年生と2年生で、それぞれ高くなっている。

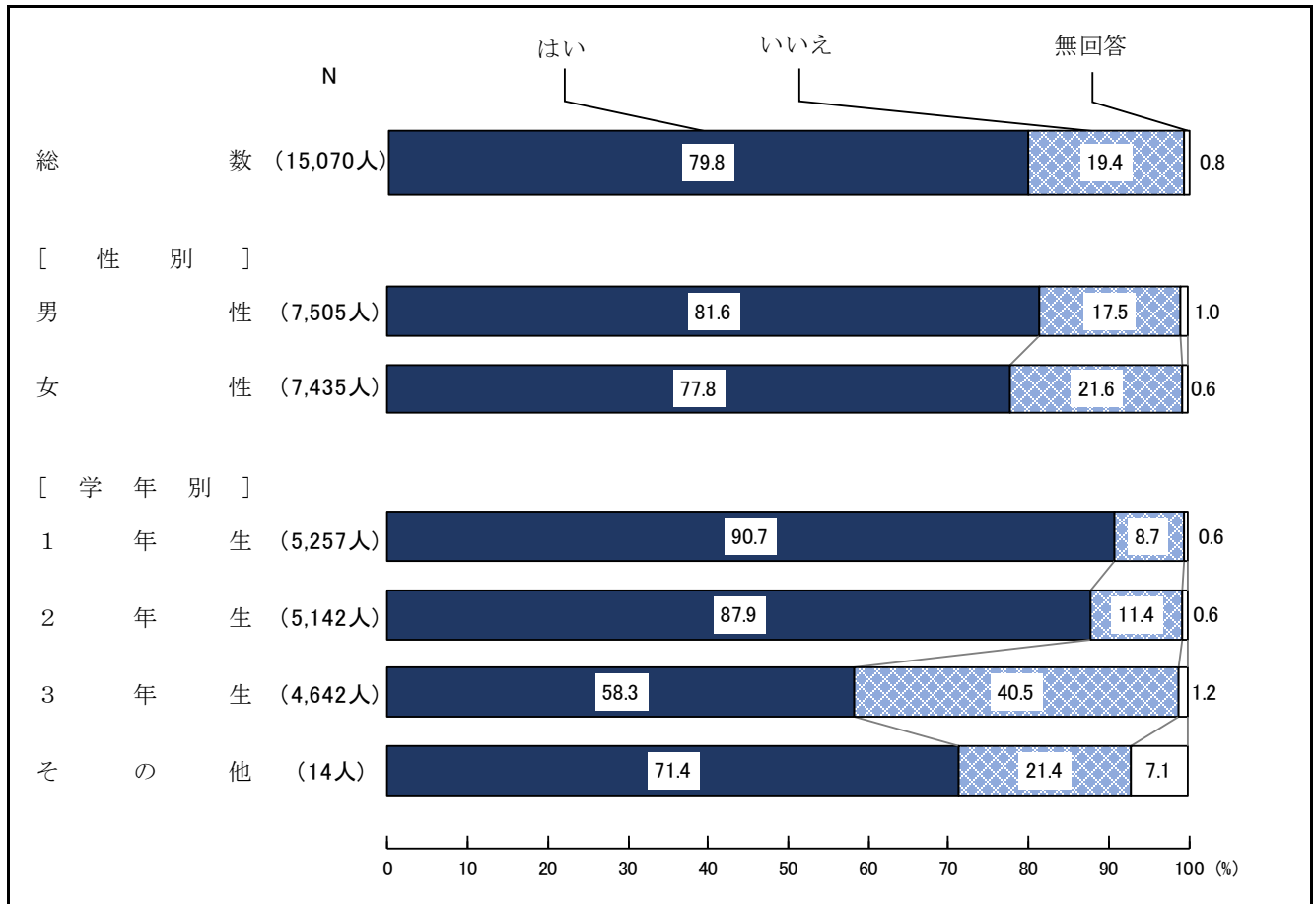


図 15 クラブ活動（部活やクラブ）に参加しているか

質問 16 過去 1 か月間に遅刻・欠席・早退をしましたか？

過去 1 か月間に遅刻・欠席・早退をしたか聞いたところ、「ほとんどなかった」は 65.3%、『あった（計）』と答えた方（「ときどきあった」27.1%+「けっこうあった」6.8%）は 33.8%となっている。

性別にみると、遅刻・欠席・早退が『あった（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、遅刻・欠席・早退が『あった（計）』は 1 年生と 2 年生で高くなっている。

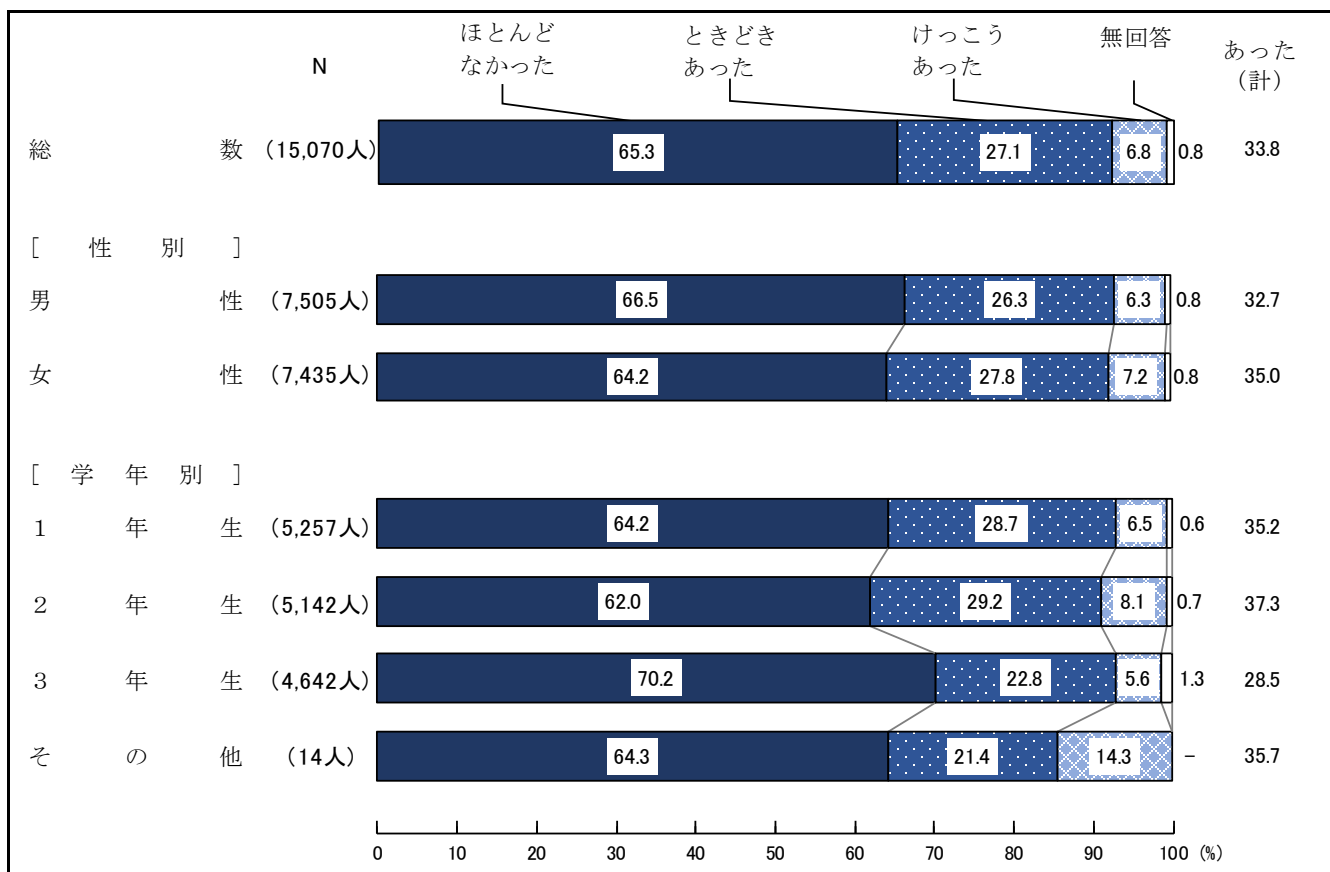


図 16 過去 1 か月間に遅刻・欠席・早退をしたか

質問 17 それぞれの項目について、あなたはどのくらいの頻度で感じているかお答えください。

1) 自分には人との付き合いがないと感じることがありますか

自分には人との付き合いがないと感じることがあるか聞いたところ、『感じない (計)』と答えた方 (「決してない」 37.9% + 「ほとんどない」 37.2%) は 75.0%、『感じる (計)』と答えた方 (「時々ある」 17.4% + 「常にある」 6.6%) は 24.0%となっている。

性別にみると、『感じない (計)』は男性で、『感じる (計)』は女性で、それぞれ高くなっている。

学年別にみると、大きな差はみられない。

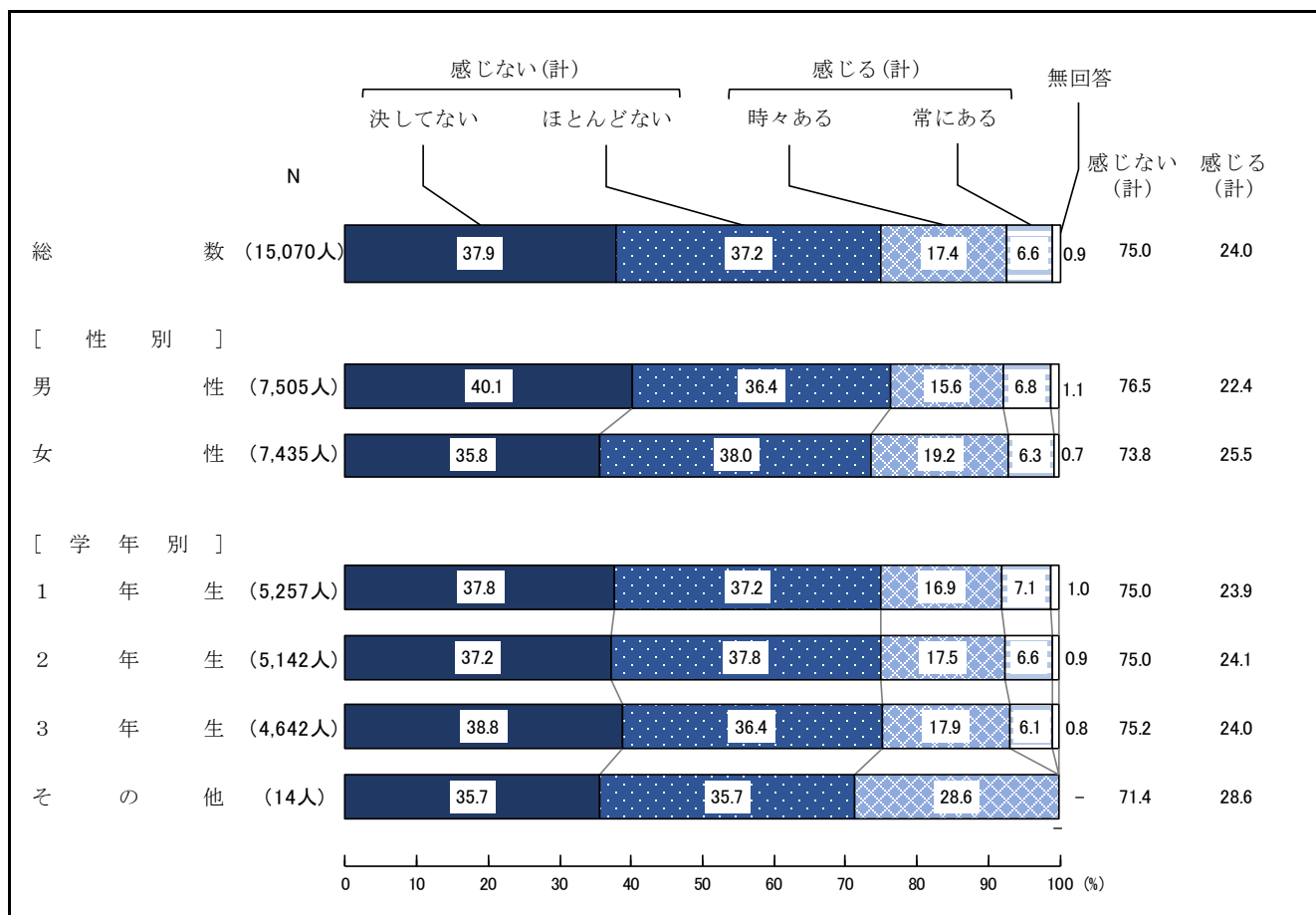


図 17-1 自分には人との付き合いがないと感じることがあるか

2) 自分は取り残されていると感じることがありますか

自分は取り残されていると感じることがあるか聞いたところ、『感じない（計）』と答えた方（「決してない」37.5%＋「ほとんどない」37.4%）は74.9%、『感じる（計）』と答えた方（「時々ある」21.2%＋「常にある」3.2%）は24.4%となっている。

性別にみると、『感じない（計）』は男性で、『感じる（計）』は女性で、それぞれ高くなっている。

学年別にみると、大きな差はみられない。

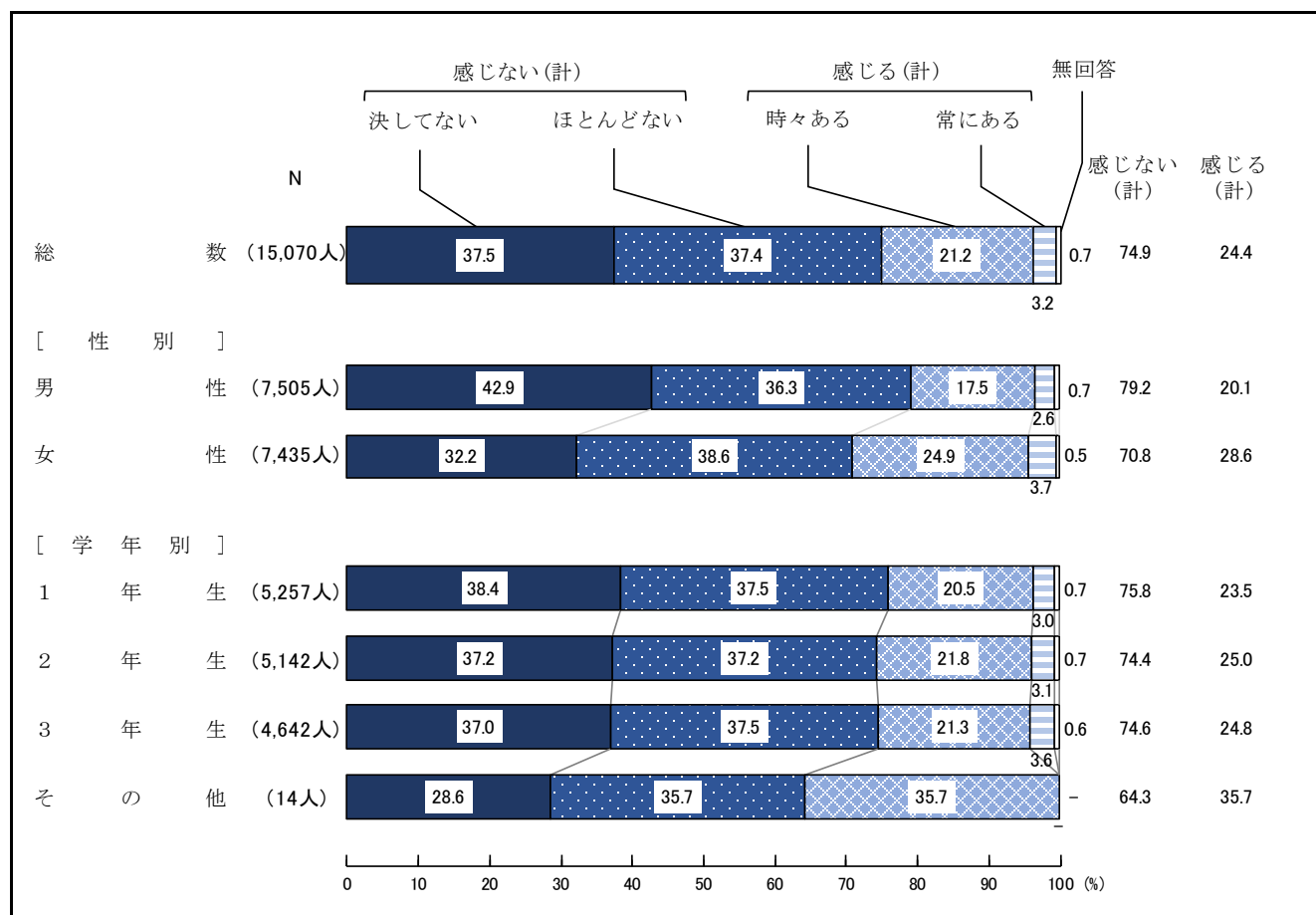


図 17-2 自分は取り残されていると感じることがあるか

3) 自分は他の人たちから孤立していると感じることはありますか

自分は他の人たちから孤立していると感じることがあるか聞いたところ、『感じない（計）』と答えた方（「決してない」40.9%+「ほとんどない」37.4%）は78.3%、『感じる（計）』と答えた方（「時々ある」17.8%+「常にある」3.0%）は20.8%となっている。

性別にみると、『感じない（計）』は男性で、『感じる（計）』は女性で、それぞれ高くなっている。

学年別にみると、『感じない（計）』は1年生で、『感じる（計）』は3年生で、それぞれ高くなっている。

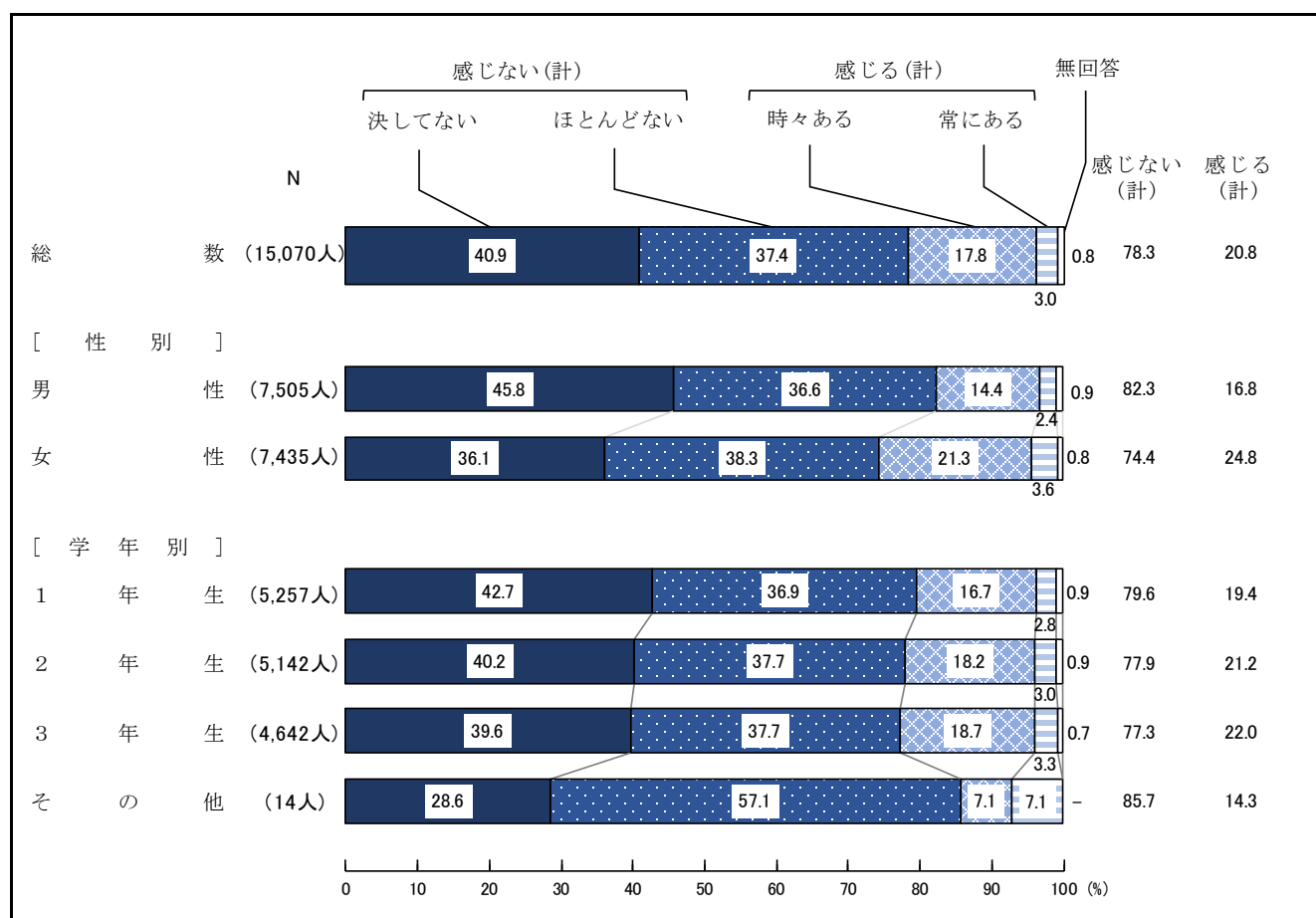


図 17-3 自分は他の人たちから孤立していると感じることがあるか

質問 18 この 7 日間、次のような問題にどのくらい頻繁になやまされていますか？それぞれの症状に対し、あなたの気持ちにもっとも近いものに○をつけてください。

1) 物事に対してほとんど興味がない、または楽しめない

物事に対してほとんど興味がない、または楽しめないことがどのくらい頻繁にあるか聞いたところ、「まったくない」は 66.9%、『ある（計）』と答えた方（「数日」 25.2%+「半分以上」 4.7%+「ほとんど毎日」 2.5%）は 32.4%となっている。

性別にみると、『ある（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『ある（計）』は 3 年生で高くなっている。

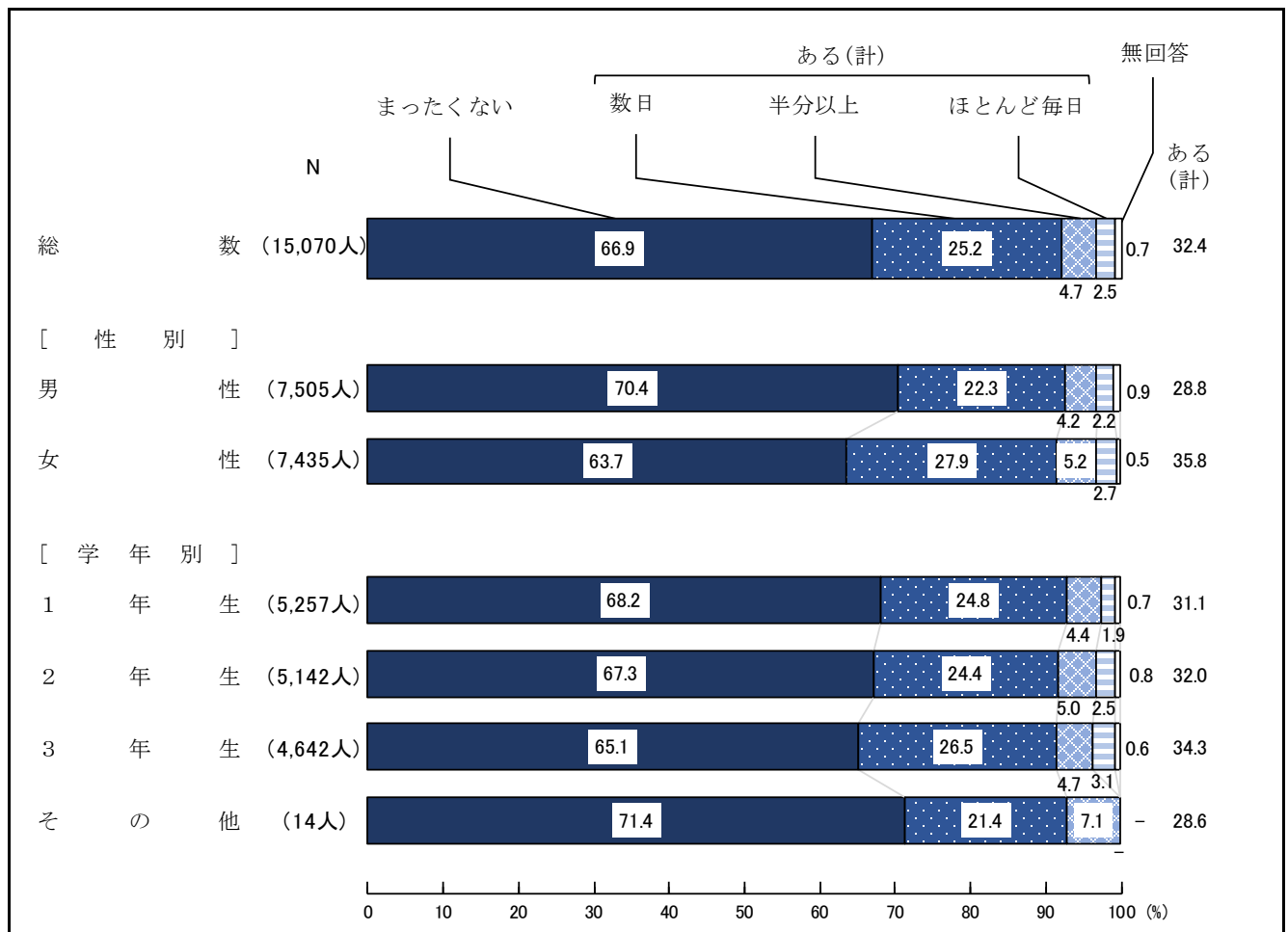


図 18-1 物事に対してほとんど興味がない、または楽しめないことがどのくらい頻繁にあるか

2) 気分が落ち込む、憂うつになる、いらいらする、または絶望的な気持ちになる

気分が落ち込む、憂うつになる、いらいらする、または絶望的な気持ちになることがどのくらい頻繁にあるか聞いたところ、「まったくない」は43.8%、『ある（計）』と答えた方（「数日」40.8%+「半分以上」8.4%+「ほとんど毎日」6.3%）は55.5%となっている。

性別にみると、『ある（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『ある（計）』は3年生で高くなっている。

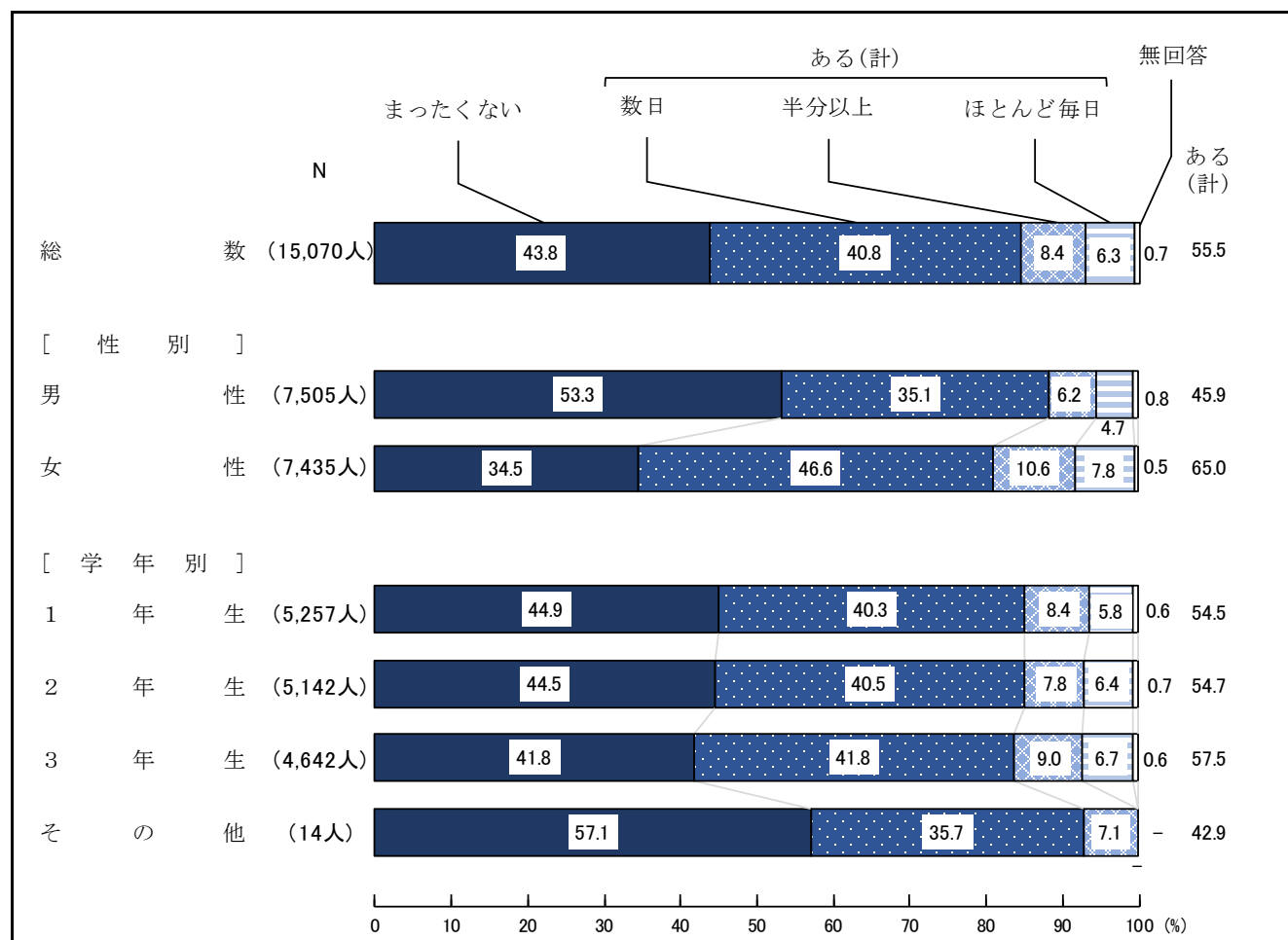


図 18-2 気分が落ち込む、憂うつになる、いらいらする、または絶望的な気持ちになることがどのくらい頻繁にあるか

質問 19 それぞれの項目について、あなたにどのくらいあてはまりますか。もっとも近いものに○をつけてください。

1. 私は周りの人たちと協力することができる

周りの人たちと協力することができるか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は 3.2%、「わずかにあてはまる」は 5.8%、「少しあてはまる」は 14.6%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」31.4%+「とてもあてはまる」44.2%）は 75.6%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』では大きな差はみられない。

学年別にみると、『あてはまる（計）』は3年生で高くなっている。

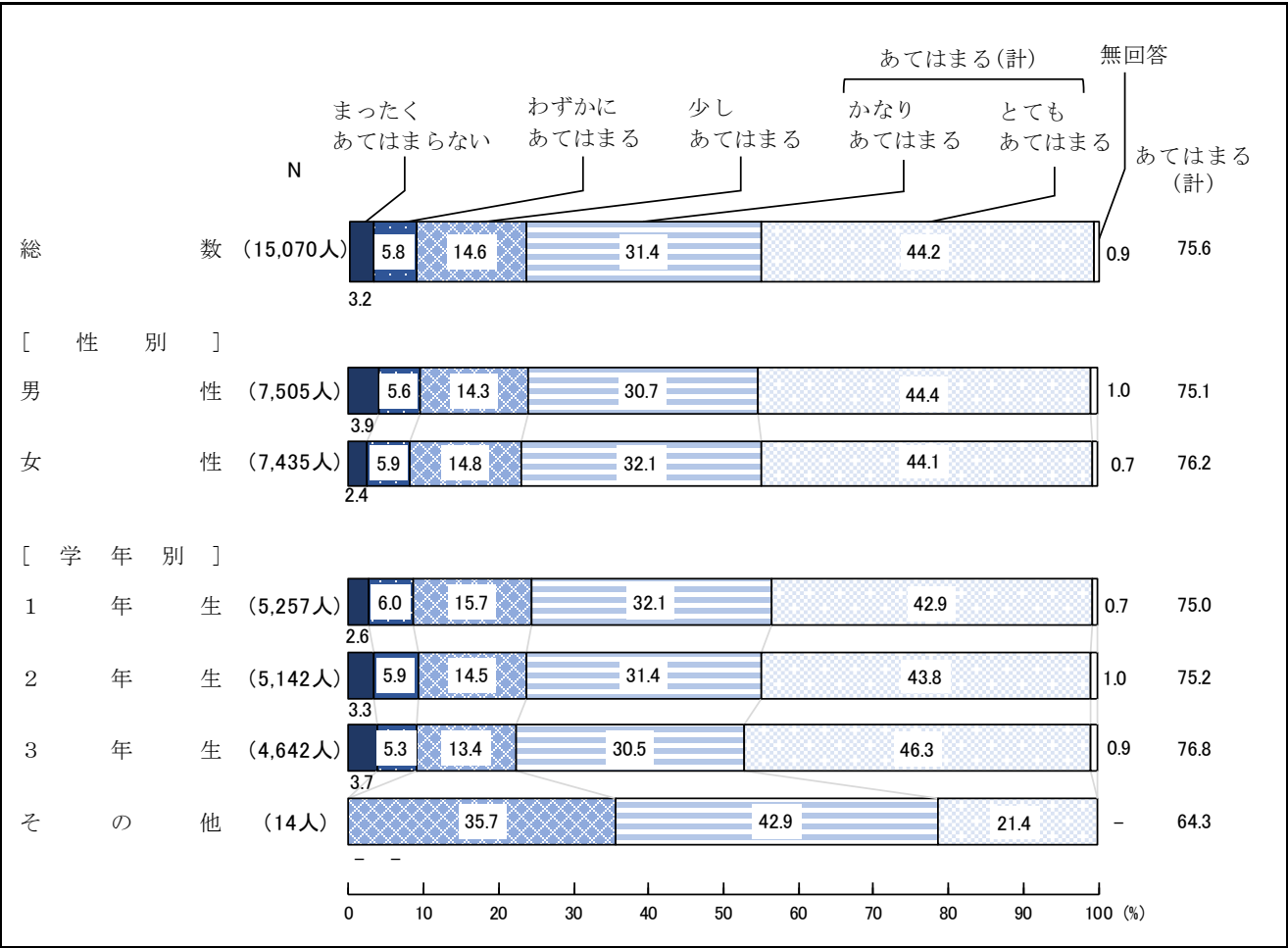


図 19－1 周りの人たちと協力することができるか

2. 教育を受けることは重要だと思う

教育を受けることは重要だと思うか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は3.6%、「わずかにあてはまる」は3.2%、「少しあてはまる」は7.2%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」21.1%+「とてもあてはまる」63.7%）は84.8%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』は3年生で高くなっている。

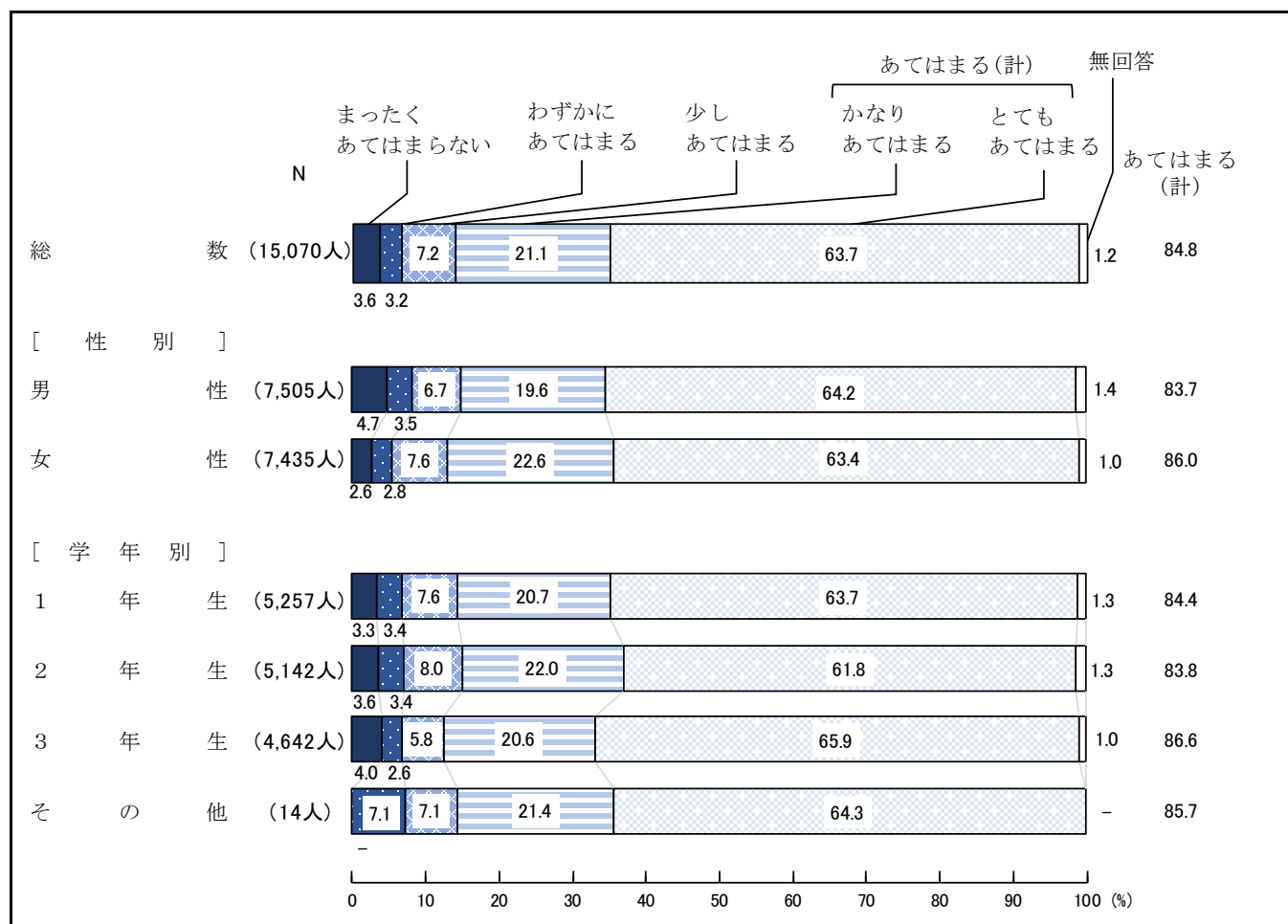


図 19-2 教育を受けることは重要だと思うか

3. 時や場所によって自分がどのように行動するべきかを知っている

時や場所によって自分がどのように行動するべきかを知っているか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は3.3%、「わずかにあてはまる」は5.2%、「少しあてはまる」は16.0%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」31.9%+「とてもあてはまる」41.8%）は73.7%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』は3年生で高くなっている。

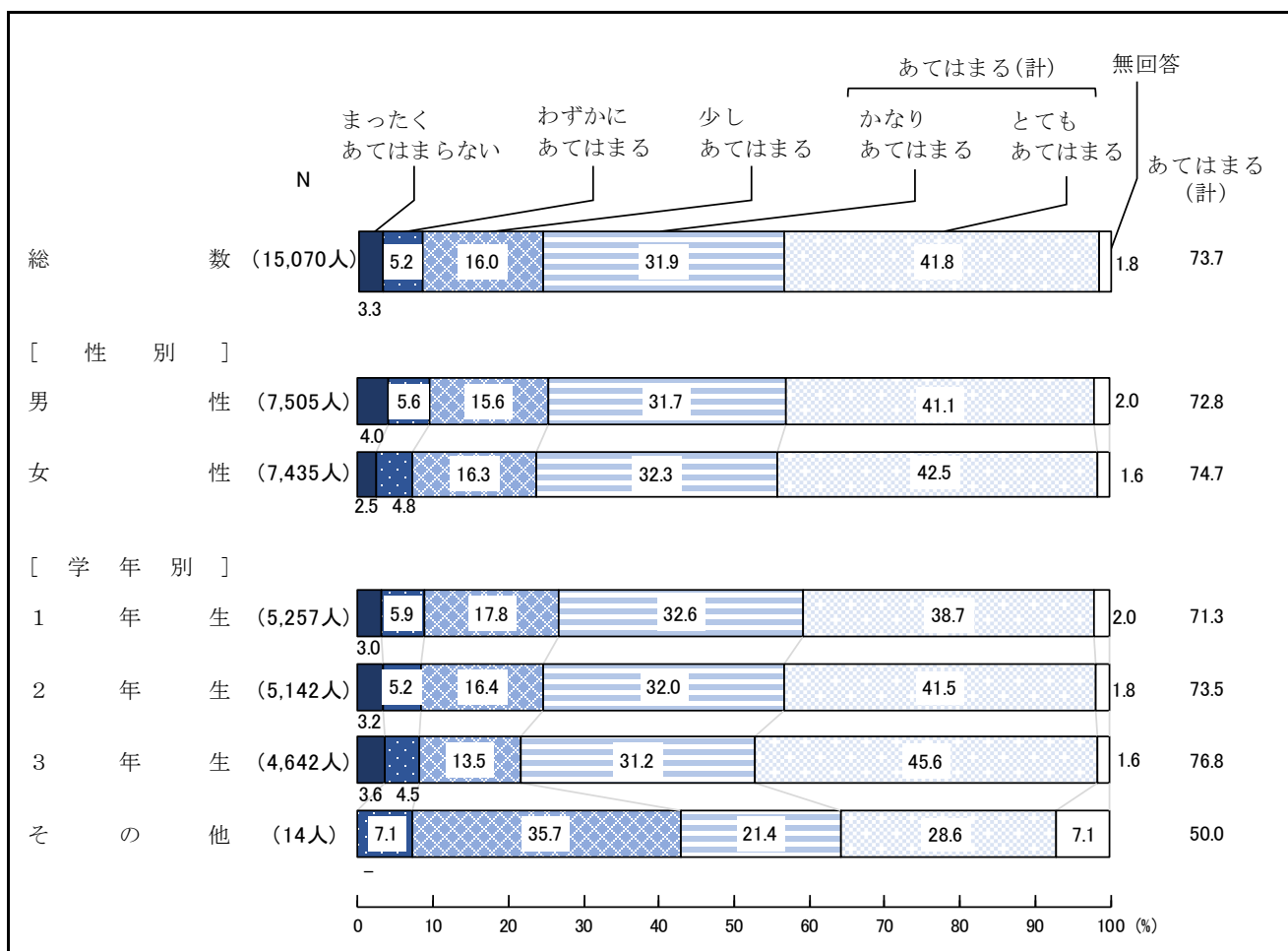


図 19-3 時や場所によって自分がどのように行動するべきかを知っているか

4. 親（保護者）は、私のことをとても気にかけてくれている

親（保護者）は、私のことをとても気にかけてくれているか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は3.9%、「わずかにあてはまる」は3.9%、「少しあてはまる」は8.6%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」21.5%+「とてもあてはまる」60.5%）は82.0%となっている。

性別、学年別ともに、『あてはまる（計）』では大きな差はみられない。

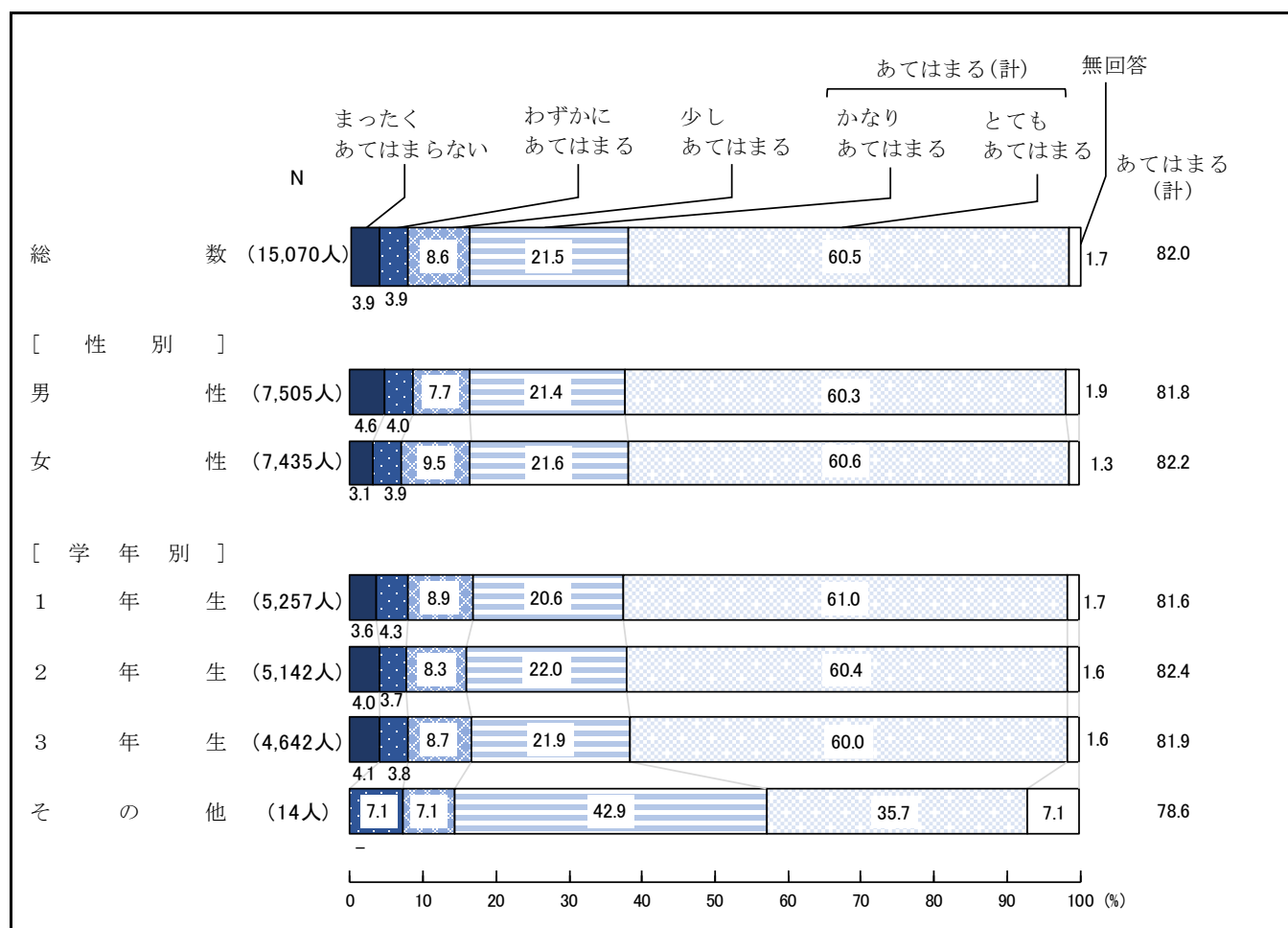


図 19-4 親（保護者）は、私のことをとても気にかけてくれているか

5. 親（保護者）は、私のことをよく知っている（友だちがだれかや、何が好きかなど）

親（保護者）は、私のことをよく知っているか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は4.5%、「わずかにあてはまる」は6.4%、「少しあてはまる」は12.4%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」23.8%+「とてもあてはまる」51.9%）は75.7%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』は1年生で高くなっている。

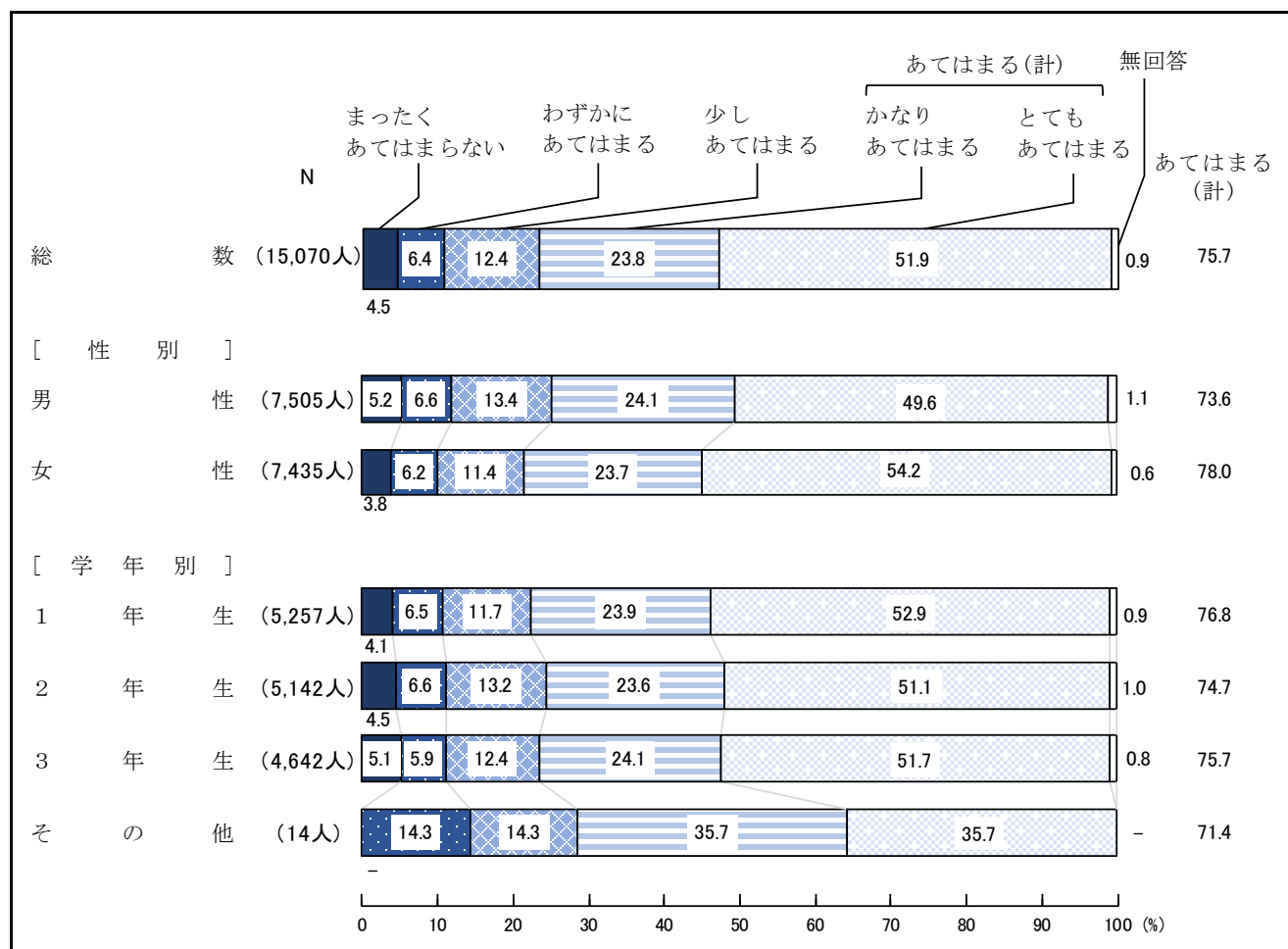


図 19-5 親（保護者）は、私のことをよく知っているか

6. お腹がすいたら食べるものが十分にある

お腹がすいたら食べるものが十分にあるか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は3.5%、「わずかにあてはまる」は1.7%、「少しあてはまる」は3.8%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」16.2%+「とてもあてはまる」73.9%）は90.1%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』では大きな差はみられない。

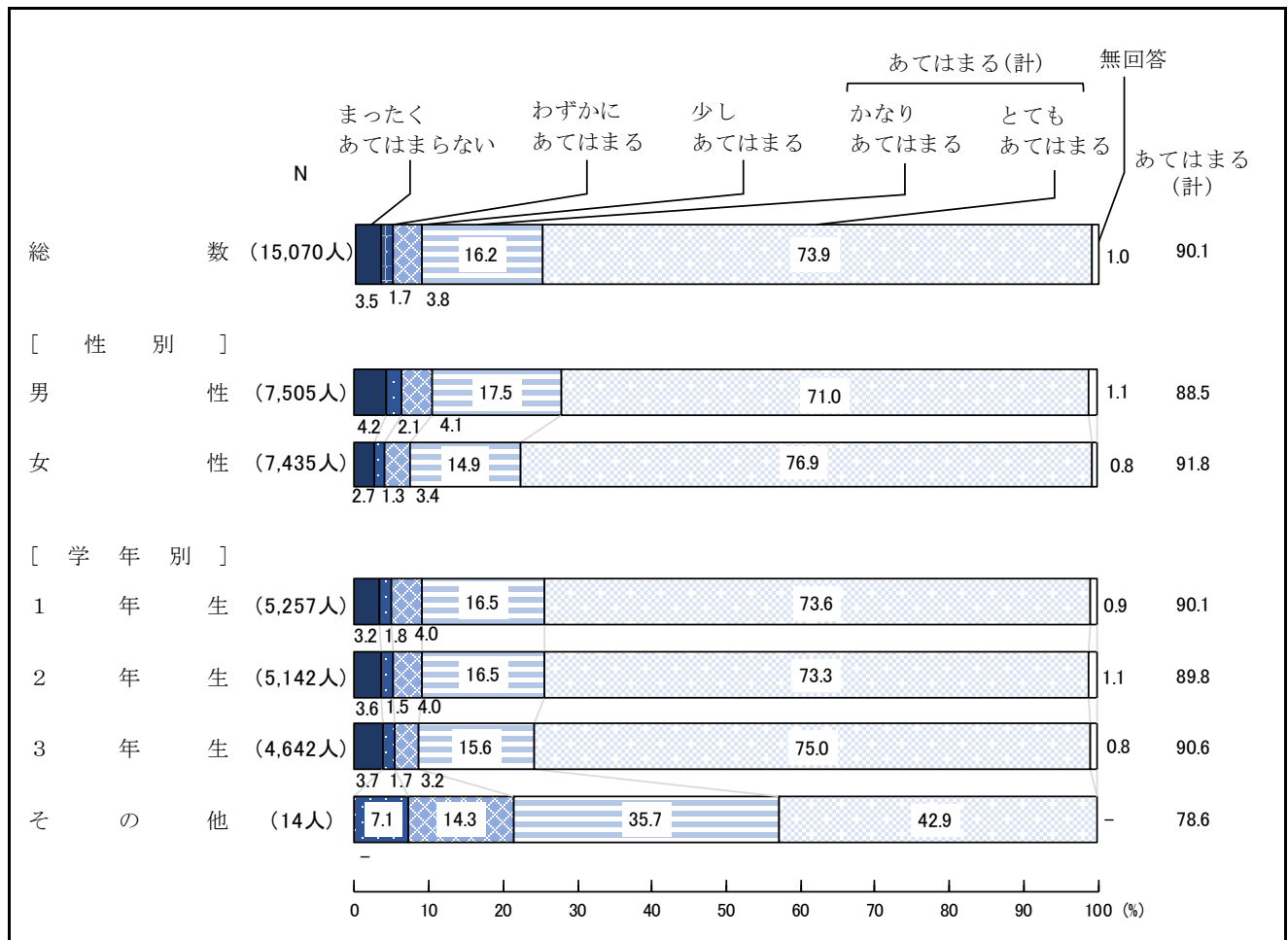


図 19-6 お腹がすいたら食べるものが十分にあるか

7. 他の人が一緒にいると楽しいと思うような子どもである

他の人が一緒にいると楽しいと思うような子どもであるか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は 4.5%、「わずかにあてはまる」は 5.9%、「少しあてはまる」は 13.4%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」22.7%+「とてもあてはまる」52.2%）は 74.9%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は男性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』では大きな差はみられない。

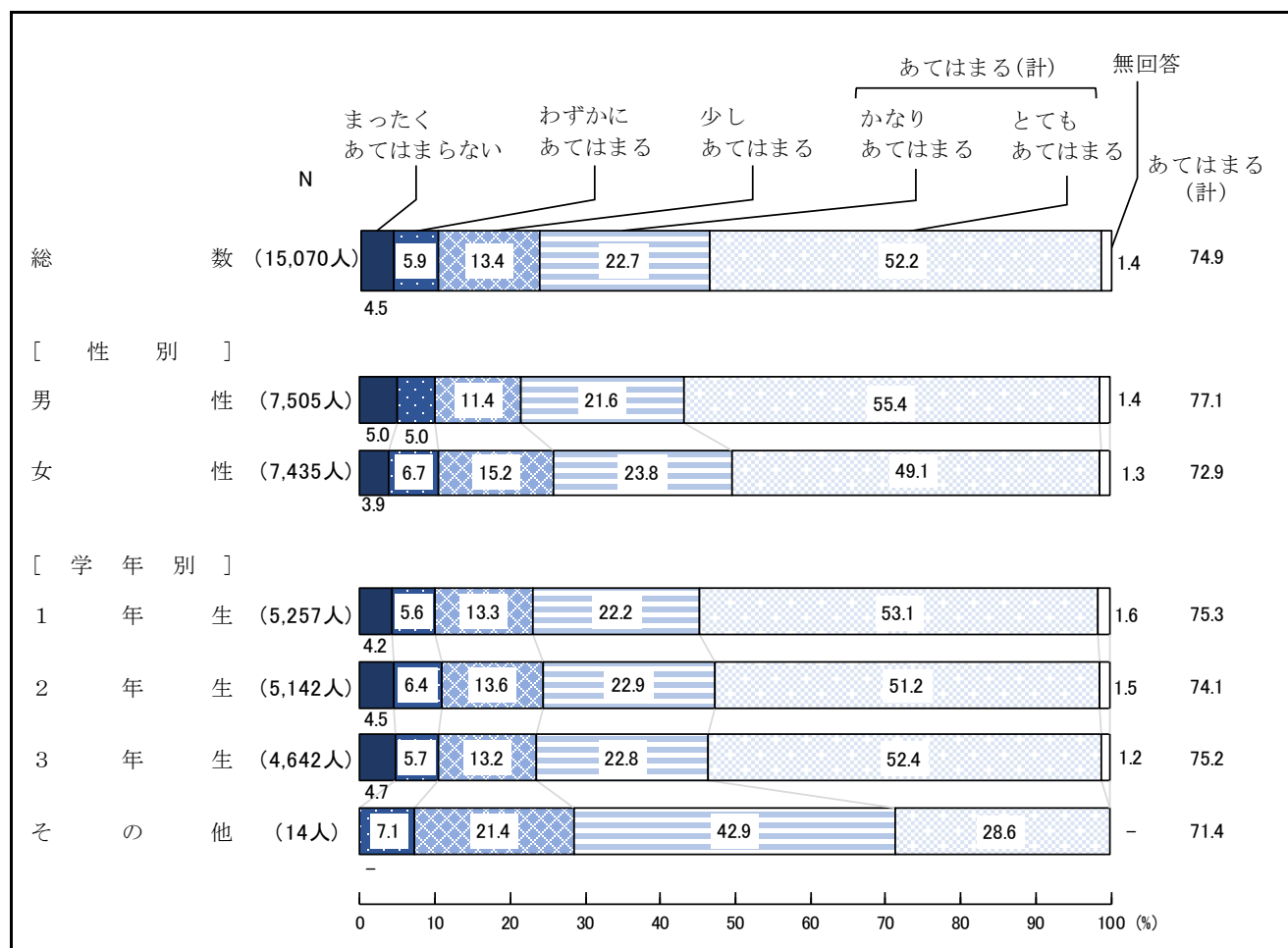


図 19-7 他の人が一緒にいると楽しいと思うような子どもであるか

8. 自分の気持ちについて家族に話す

自分の気持ちについて家族に話すか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は10.0%、「わずかにあてはまる」は13.5%、「少しあてはまる」は19.1%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」20.7%+「とてもあてはまる」35.3%）は56.0%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』は3年生で高くなっている。

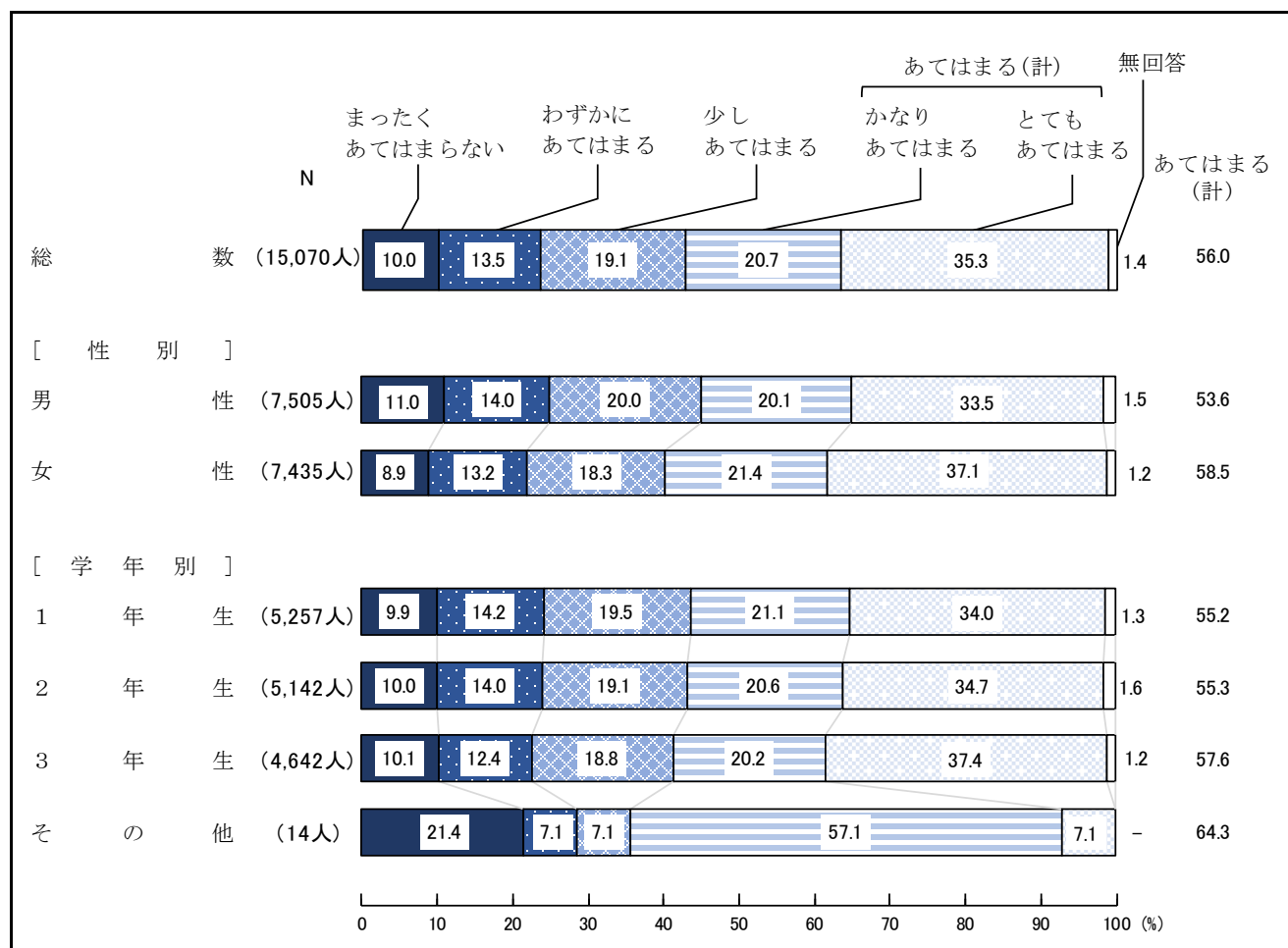


図 19-8 自分の気持ちについて家族に話すか

9. 友だちに支えられていると感じている

友だちに支えられていると感じているか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は4.6%、「わずかにあてはまる」は5.3%、「少しあてはまる」は11.1%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」24.1%+「とてもあてはまる」53.6%）は77.7%となっている。

性別、学年別ともに、『あてはまる（計）』では大きな差はみられない。

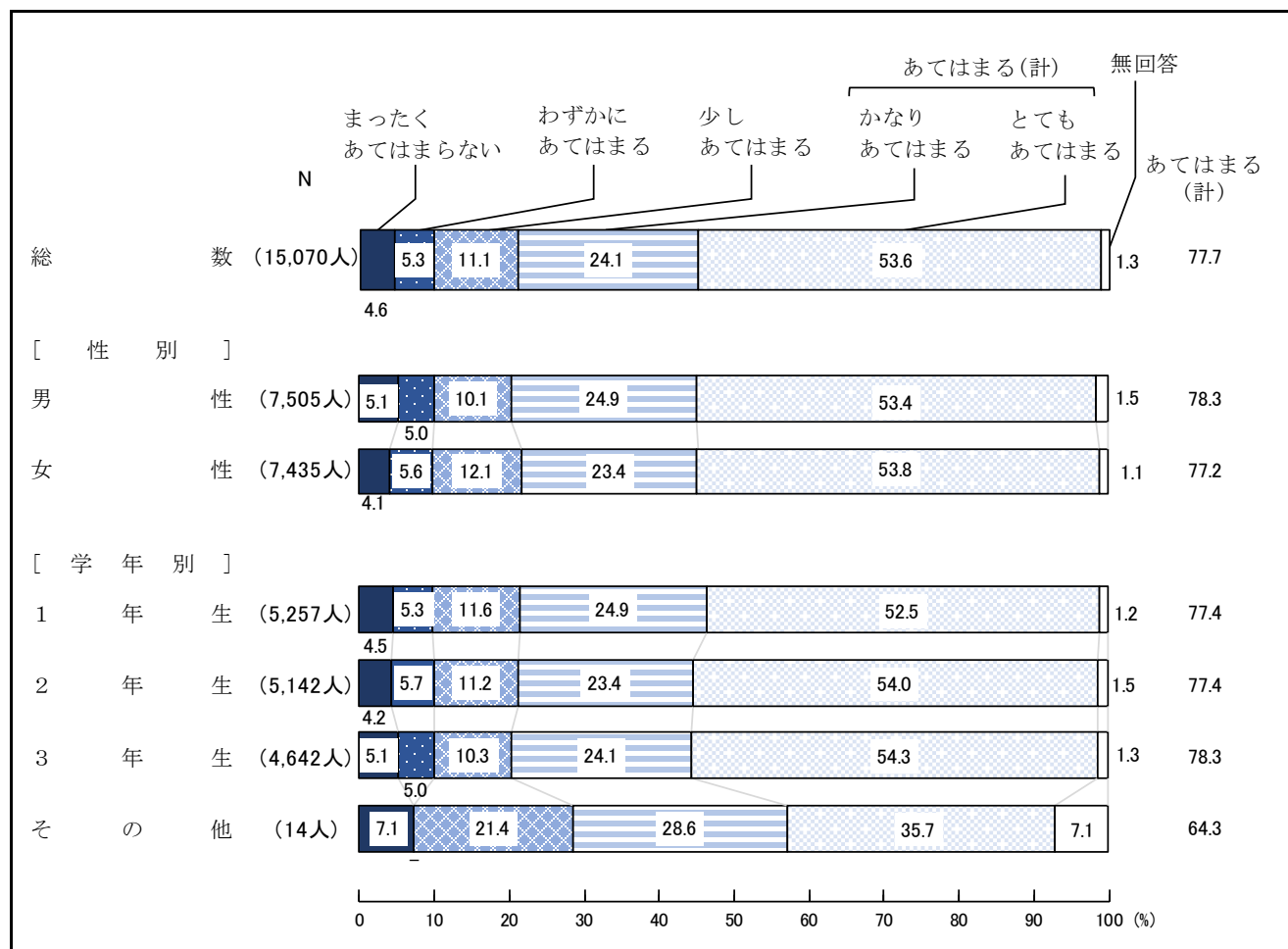


図 19-9 友だちに支えられていると感じているか

10. 自分が学校に溶け込んでいると感じている

自分が学校に溶け込んでいると感じているか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は 5.2%、「わずかにあてはまる」は 7.6%、「少しあてはまる」は 16.3%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」29.9%＋「とてもあてはまる」39.6%）は 69.5%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は男性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』は3年生で高くなっている。

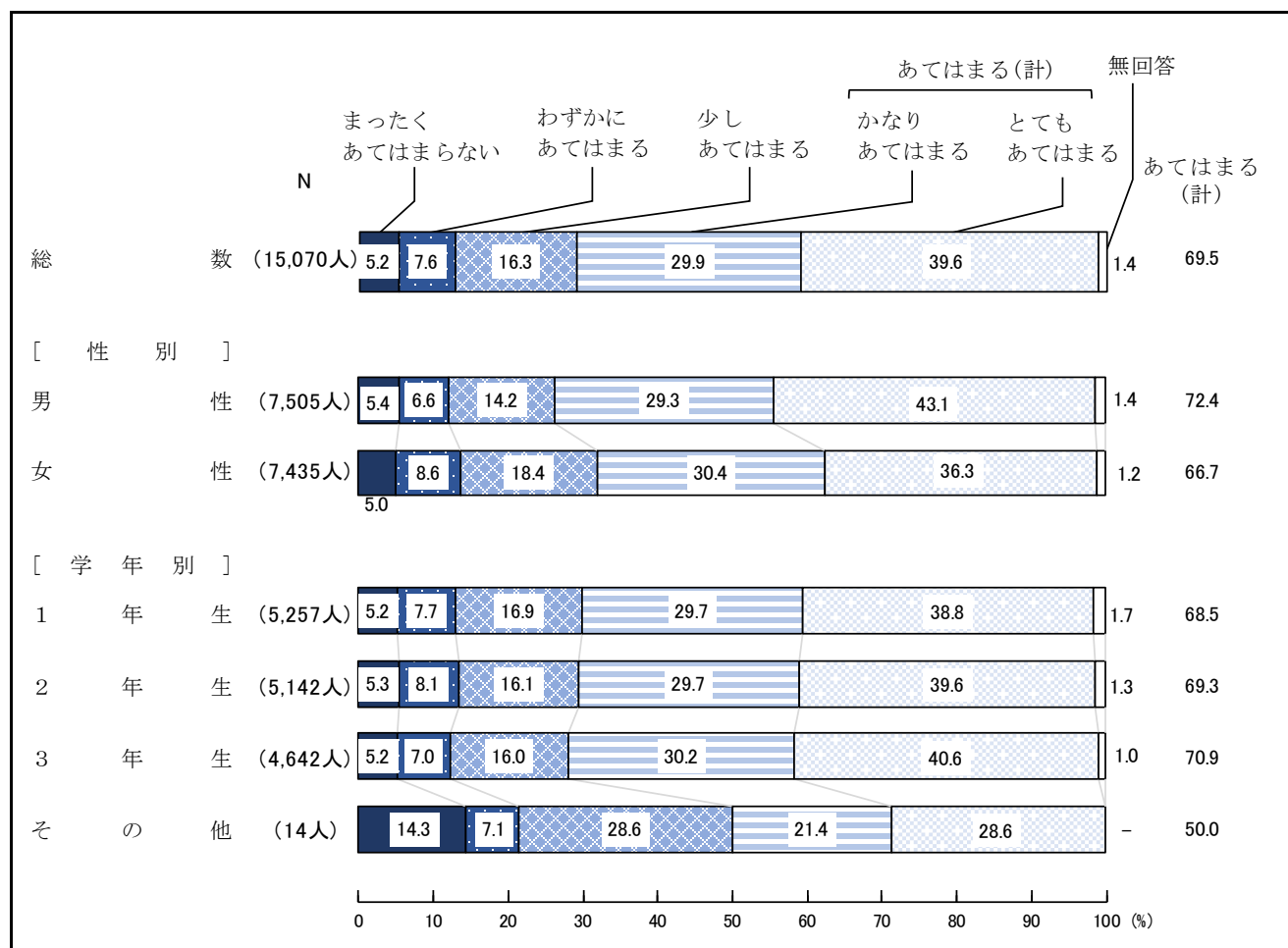


図 19-10 自分が学校に溶け込んでいると感じているか

11. つらいときに気にかけてくれる家族がいる（たとえば、具合が悪かったり、何かまちがったことをしてしまったときなど）

つらいときに気にかけてくれる家族がいるか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は 4.8%、「わずかにあてはまる」は5.1%、「少しあてはまる」は9.3%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」21.1%+「とてもあてはまる」58.8%）は80.0%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』は1年生で高くなっている。

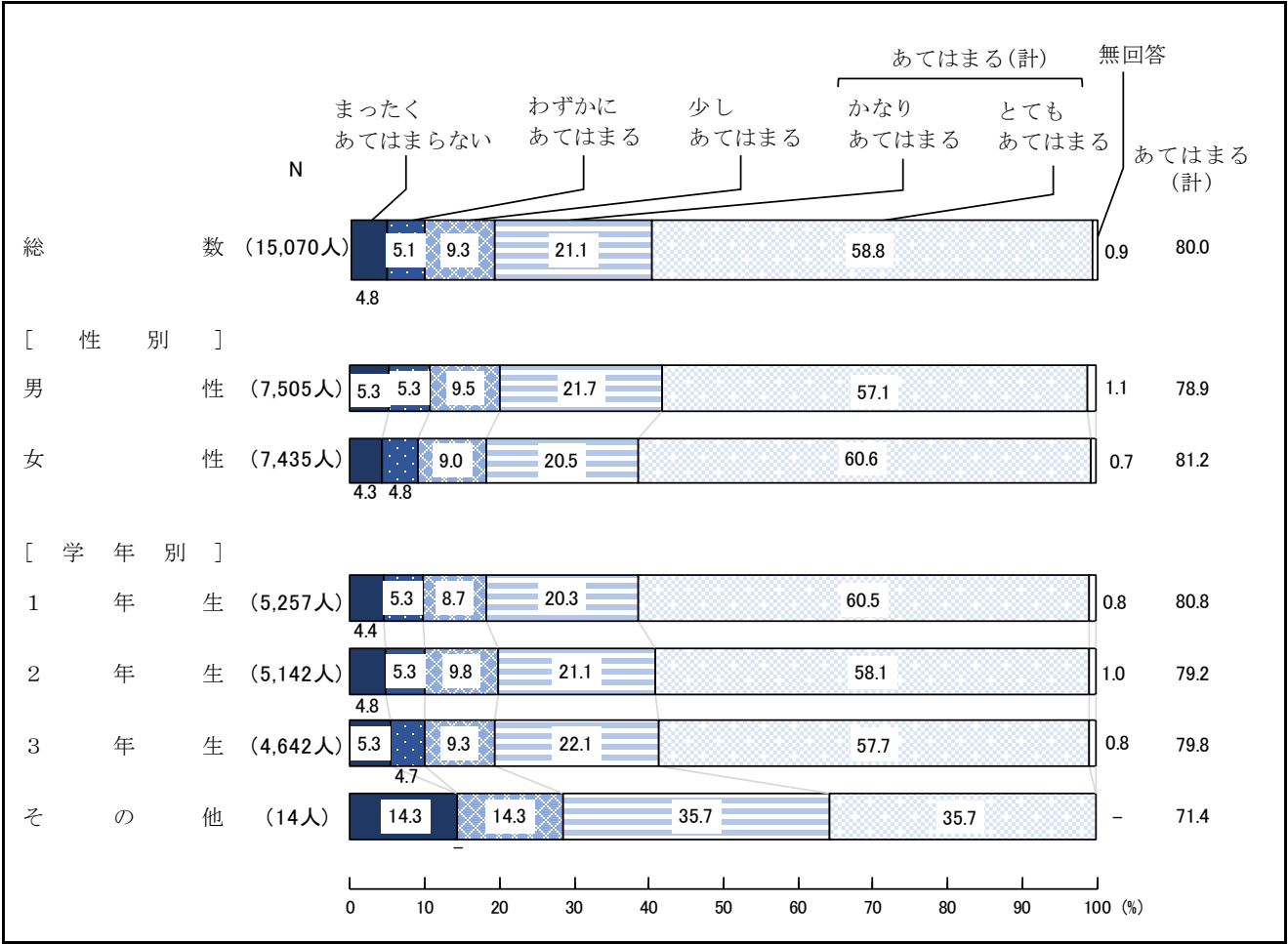


図 19－11 つらいときに気にかけてくれる家族がいるか

12. つらいときに気にかけてくれる友だちがいる（たとえば、具合が悪かったり、何かまちがったことをしてしまったときなど）

つらいときに気にかけてくれる友だちがいるか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は4.4%、「わずかにあてはまる」は4.7%、「少しあてはまる」は10.0%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」23.8%+「とてもあてはまる」56.0%）は79.8%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』では大きな差はみられない。

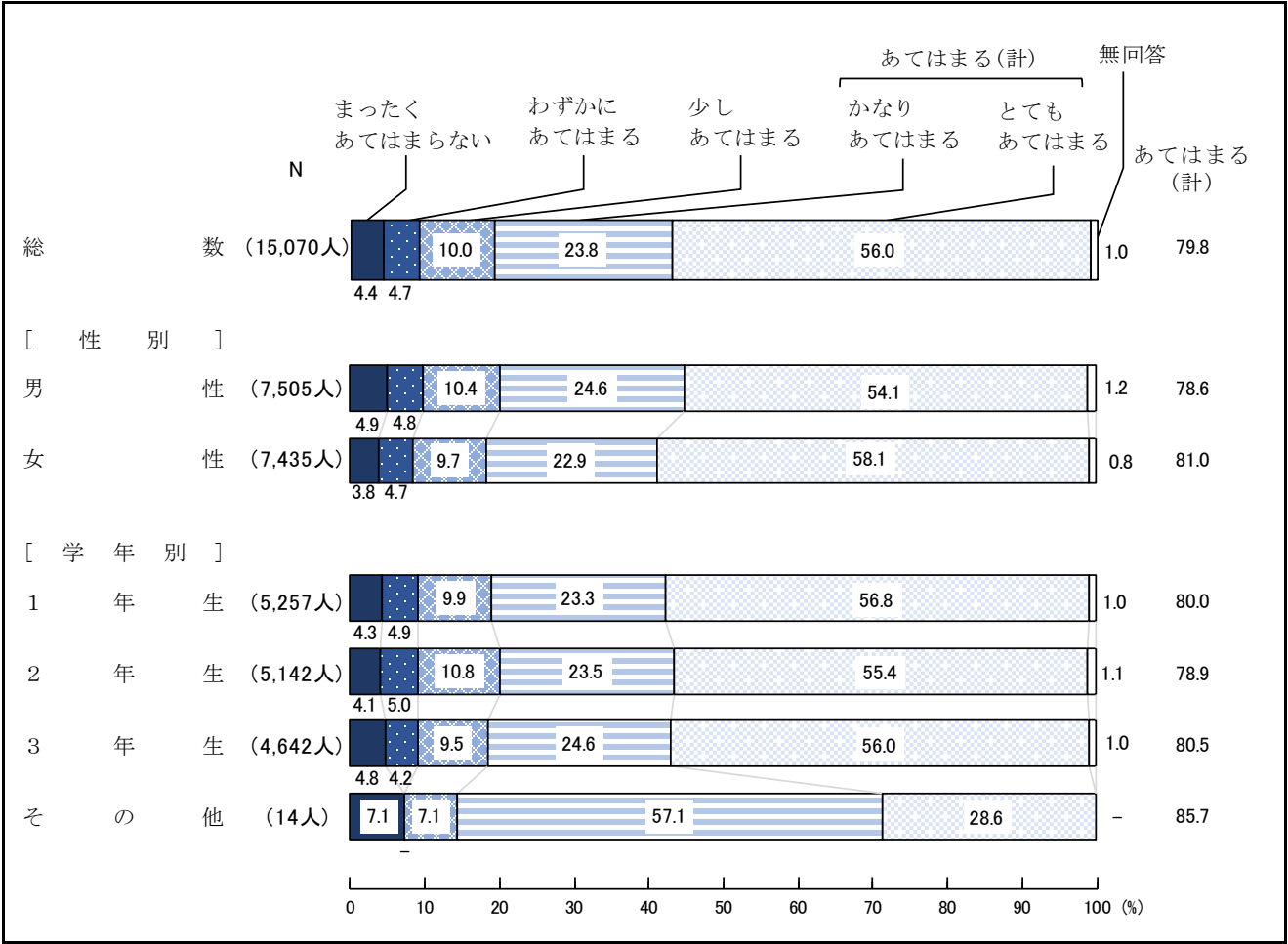


図 19-12 つらいときに気にかけてくれる友だちがいるか

13. 学校などのコミュニティ（社会・グループのこと）で公平に扱われている

学校などのコミュニティ（社会・グループのこと）で公平に扱われているか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は 4.5%、「わずかにあてはまる」は 4.6%、「少しあてはまる」は 11.6%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」27.9%+「とてもあてはまる」50.3%）は 78.2%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』は3年生で高くなっている。

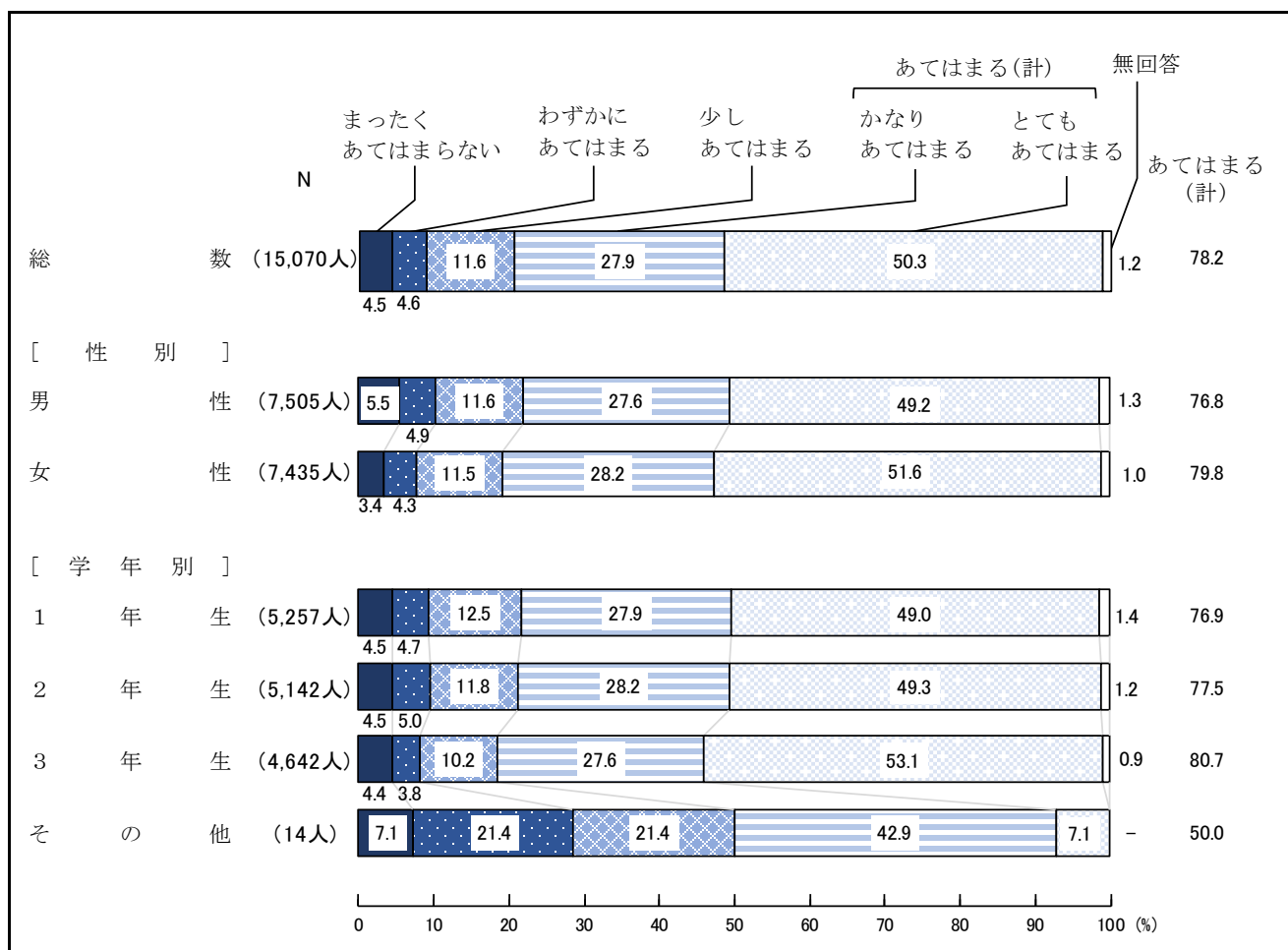


図 19-13 学校などのコミュニティ（社会・グループのこと）で公平に扱われているか

14. 自分が成長し、責任をもって行動できるようになったことを、他の人に見せる機会がある

自分が成長し、責任をもって行動できるようになったことを、他の人に見せる機会があるか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は5.3%、「わずかにあてはまる」は8.1%、「少しあてはまる」は19.5%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」28.4%+「とてもあてはまる」37.5%）は66.0%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は男性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』では大きな差はみられない。

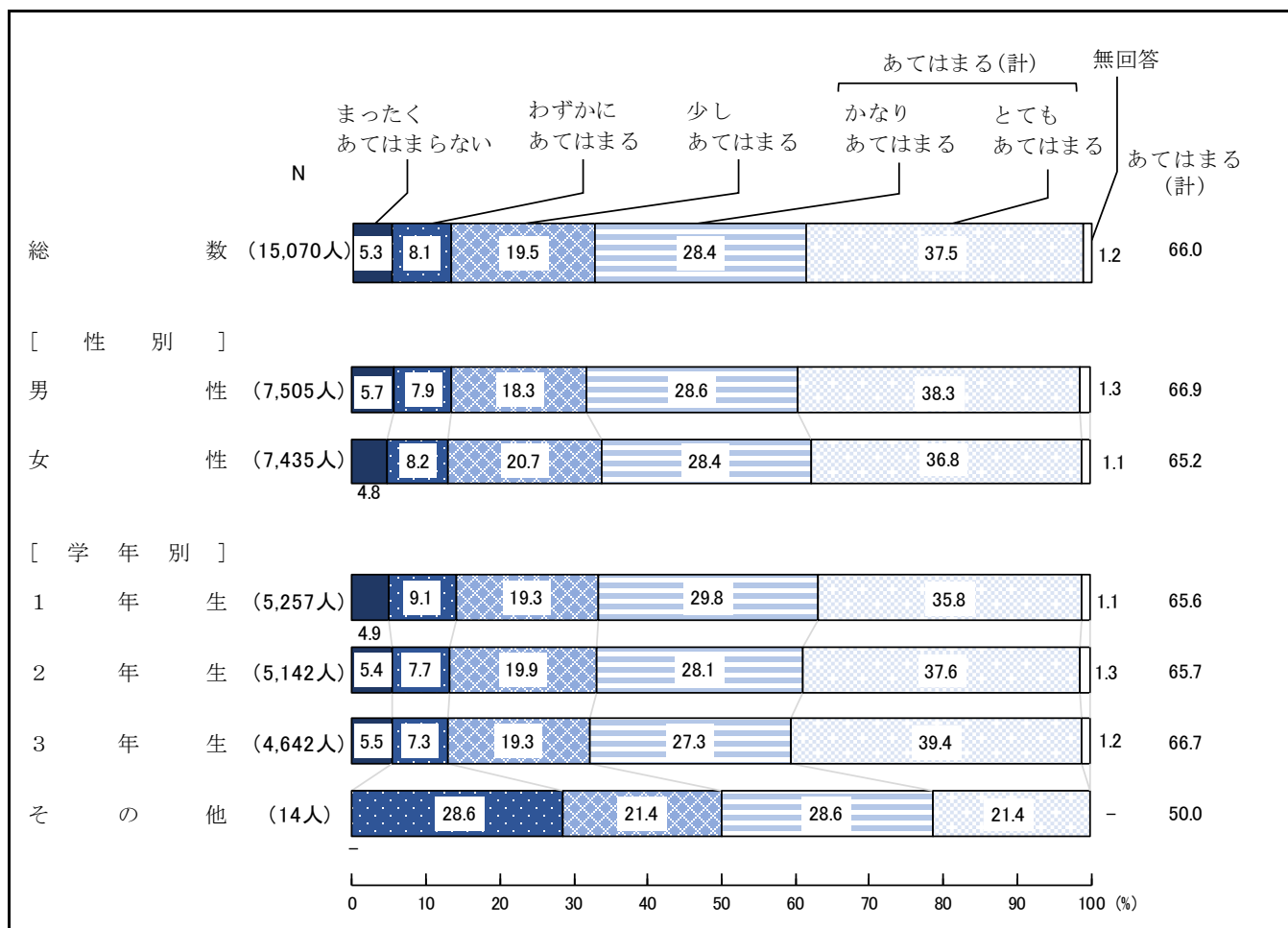


図 19-14 自分が成長し、責任をもって行動できるようになったことを、他の人に見せる機会があるか

15. 家族と一緒にいると安心する

家族と一緒にいると安心するか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は 4.9%、「わずかにあてはまる」は 6.0%、「少しあてはまる」は 10.9%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」21.2%＋「とてもあてはまる」55.7%）は 76.9%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』は1年生で高くなっている。

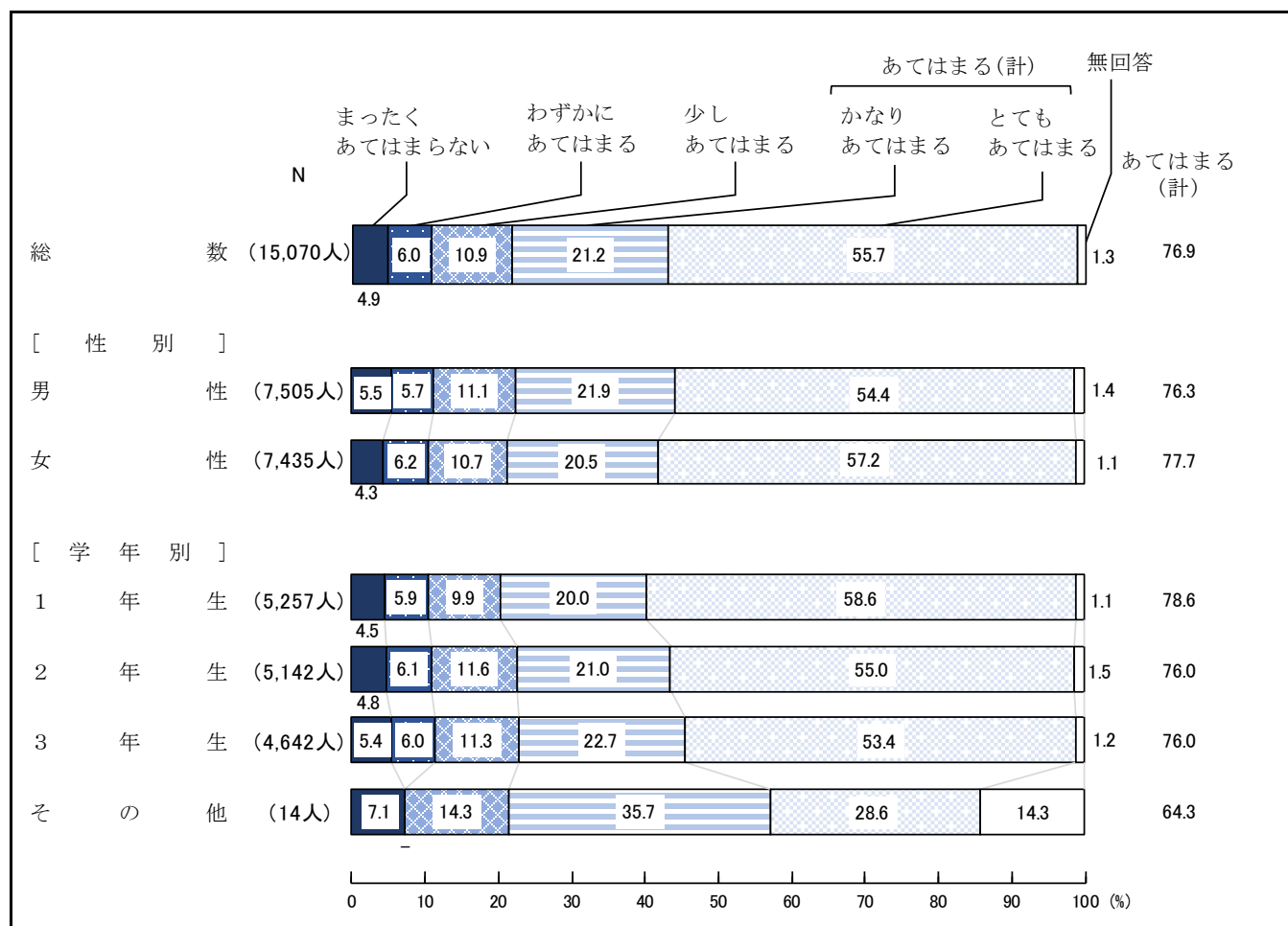


図 19-15 家族と一緒にいると安心するか

16. 将来役立つことを学ぶ機会がある（料理や仕事、人助けなど）

将来役立つことを学ぶ機会があるか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は 3.9%、「わずかにあてはまる」は 5.3%、「少しあてはまる」は 14.8%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」26.7%＋「とてもあてはまる」47.9%）は 74.6%となっている。

性別、学年別ともに、『あてはまる（計）』では大きな差はみられない。

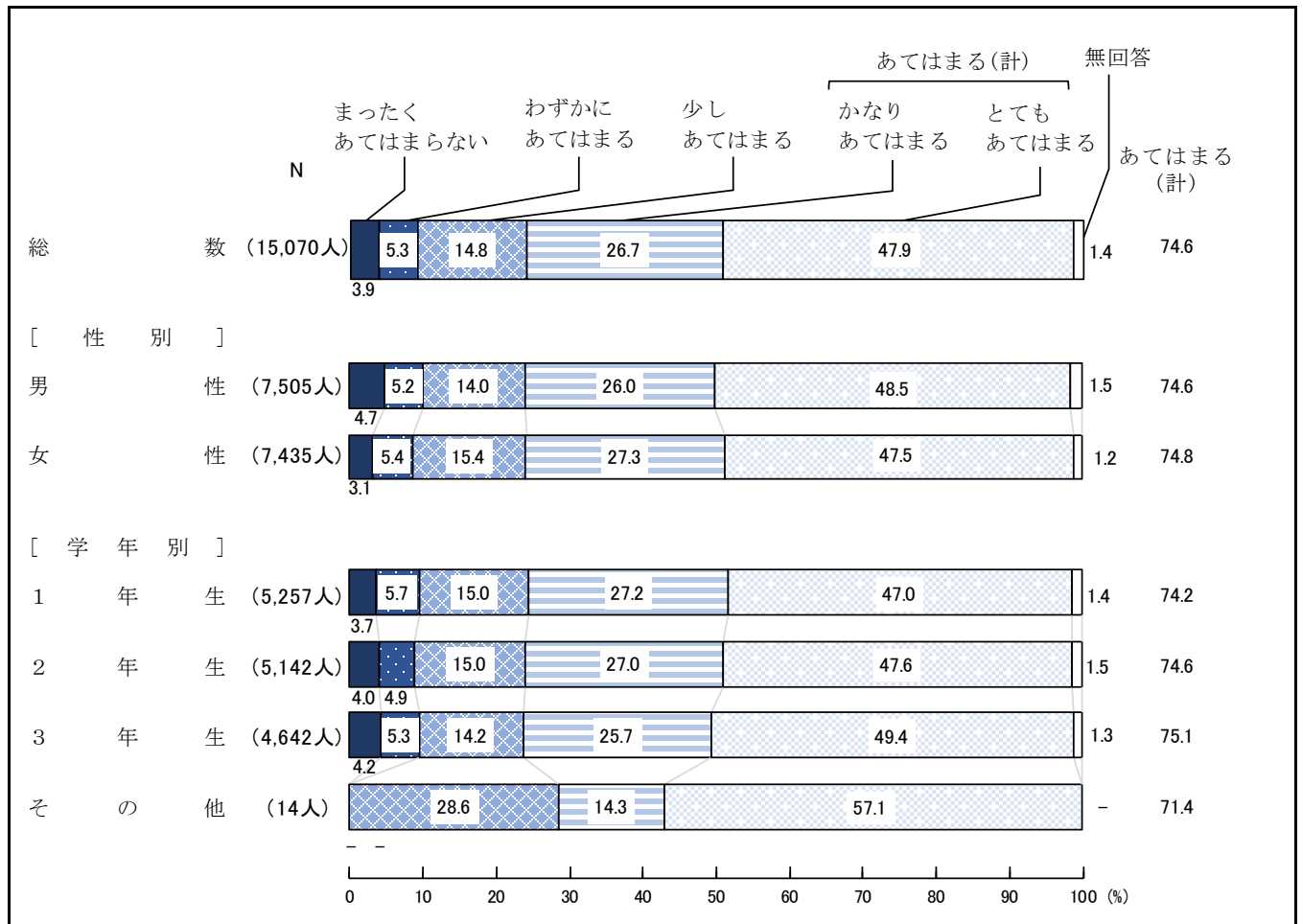


図 19-16 将来役立つことを学ぶ機会があるか

17. 季節の行事や伝統などを家族と楽しんでいる

季節の行事や伝統などを家族と楽しんでいるか聞いたところ、「まったくあてはまらない」は5.5%、「わずかにあてはまる」は7.8%、「少しあてはまる」は15.1%、『あてはまる（計）』と答えた方（「かなりあてはまる」23.6%＋「とてもあてはまる」47.1%）は70.7%となっている。

性別にみると、『あてはまる（計）』は女性で高くなっている。

学年別にみると、『あてはまる（計）』は1年生で高くなっている。

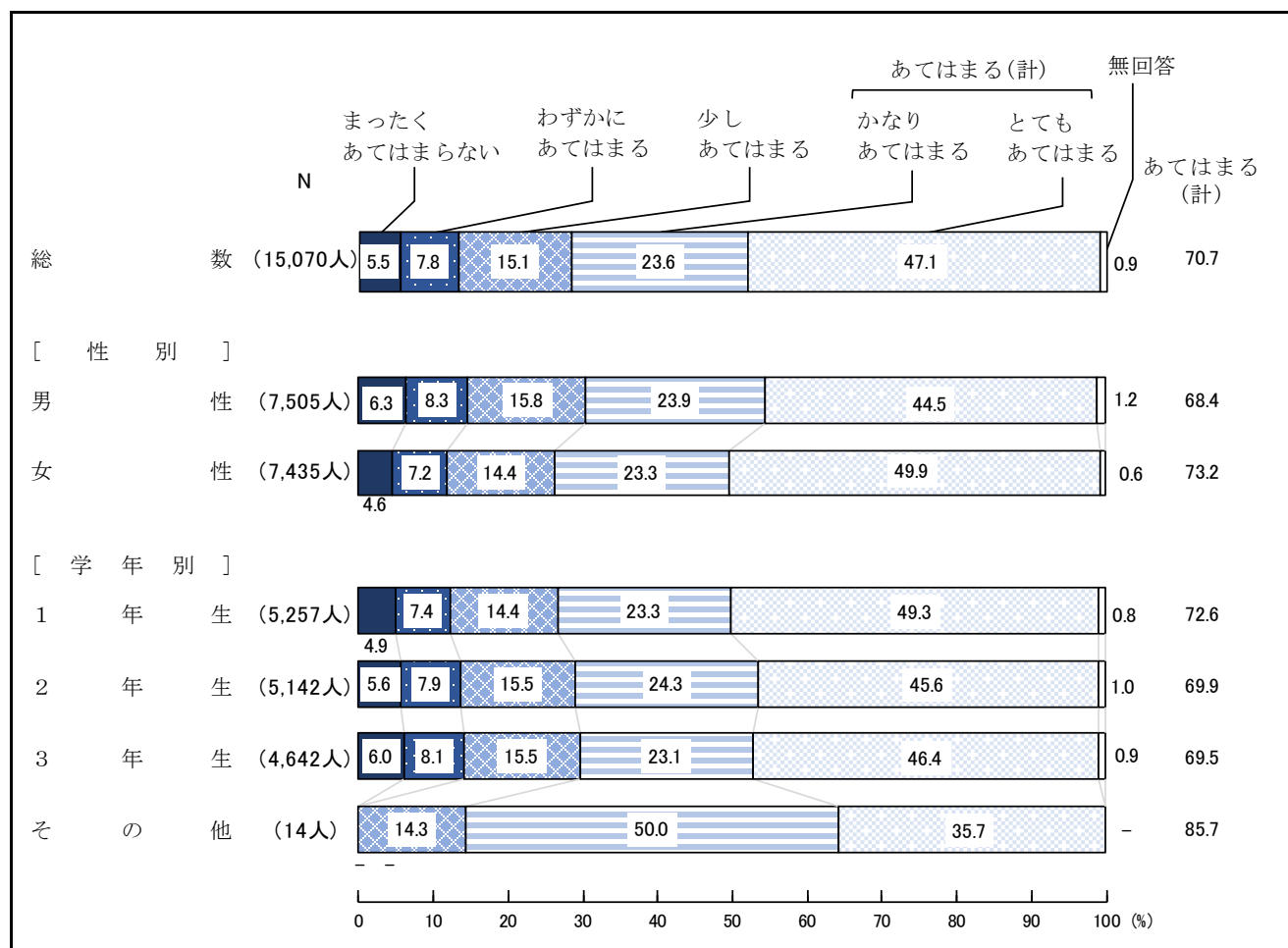


図 19-17 季節の行事や伝統などを家族と楽しんでいるか

Ⅳ 使用した調査票

中高生の飲酒・喫煙状況、および 生理の実態に関する全国学校調査

このアンケートは、全国の中学生・高校生を対象に、飲酒・喫煙に対する考えや経験を調べることを目的としています。厚生労働省の事業の一環として実施され、中学生・高校生に向けた今後の対策を考えるために活用されます。あなたのプライバシーを守るために、次の項目をご覧ください。あなた

- 各質問に対する回答は、ことわりがない限り、自分の場合に最も近いものの数字を1つだけ、○で囲んでください。
- 本調査は無記名の自記式アンケートです。アンケートには個人情報（氏名・住所・生年月日など）は含まれません。
- あなたの名前や住所などの個人情報は記入しないでください。
- 調査結果は全体をまとめて処理しますので、個人やクラスが特定されることはありません。
- 答えたくない質問には、答えなくてもかまいません。
- アンケートが終わったら、一緒に配られた封筒にアンケート用紙を入れて、封封をしてください。

※調査名に含まれる「生理の実態」に関する調査は、ウェブ上での回答を行う学校のみで実施します。

【調査実施機関】国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 政策科学研究部（東京都世田谷区大蔵 2-10-1）

アンケートに答えていただける場合は、下記の同意欄（同意する）に○を付けてください。

同意いただけない場合は、白紙のままご提出ください。

無記名のため、アンケート用紙の提出後に同意を取り消すことはできません。

() 同意する

質問1 あなたの学年をお答えください。 1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生

質問2 あなたの性別をお答えください。 1. 男性 2. 女性

飲酒（お酒を飲むこと）についてお聞きします

このアンケートの質問文にあるお酒とは、ビール、日本酒、缶チューハイなどの焼酎、ワイン、ジン、ウィスキー、ブランデー、ウォッカといったアルコール類をまとめた表現だと思ってください。

質問3 あなたの友達のうち、お酒を飲んでいる友達はどのくらいいると思いますか？

1. いない 2. わずか 3. 数人 4. ほとんど 5. 全員

質問4 次の人からお酒をすすめられたことはありますか？あてはまるものすべてに答えてください。

1. 父 2. 母 3. 祖父母 4. 友人・同級生
5. 先輩 6. その他 7. すすめられたことはない

質問5 過去7日間で、おうちの人が、あなたがいる所でお酒を飲んだ日は何日ありましたか？

1. 0日 2. 1～2日 3. 3～4日 4. 5～6日 5. 7日

質問6 お酒を飲むと身体に害があると思いますか？

1. 害があると思わない 2. 多少はあるだろうが大したことはないと思う
3. 害があると思う

質問7 あなたはお酒をどのくらいの^{ひんど}頻度で飲みますか？

1. 飲まない 2. 年に1、2回 3. 月に1、2回
4. 週末ごとに 5. 週に数回 6. 毎日

1. 以外に○をつけた方は、質問7-1～質問7-3に答えてください

質問7-1 この30日間に、少しでもお酒を飲んだ日は合計何日になりますか？

1. 0日（一度も飲んでいない） 2. 1～2日 3. 3～5日 4. 6～9日
5. 10～19日 6. 20～29日 7. 毎日

質問7-2 だれとお酒をのみますか？あてはまるものすべてに答えてください。

1. 両親（父または母） 2. 祖父母または^{しんせきしんせき}親戚 親戚 3. きょうだい
4. 友人・仲間（同世代、^{せんぱいこうはいこうはい}先輩 後輩 後輩 含む） 5. ひとりで 6. その他

質問7-3 どのようなときにお酒を飲みますか？あてはまるものすべてに答えてください。

1. 正月など特別な行事のとき 2. ^{かんこんそうさい}冠婚葬祭（^{けっこんしき}結婚式 ^{けっこんしき}結婚式 など）で家族や^{しんせき}親戚 と出かけ
たとき
3. ふだん、家族と自宅にいるとき 4. 友人・仲間と集まったとき
5. ひとりでいるとき 6. その他

喫煙（たばこを吸うこと）についてお聞きします

質問8 あなたの友達のうち、たばこを吸っている友達がどのくらいいると思いますか？

1. いない 2. わずか 3. 数人 4. ほとんど 5. 全員

質問9 次の人からたばこをすすめられたことはありますか？あてはまるものすべてに答えてください。

1. 父 2. 母 3. 祖父母 4. 友人・同級生
5. ^{せんぱい}先輩 6. その他 7. すすすめられたことはない

質問10 過去7日間で、おうちの人が、あなたがいる所でたばこを吸った日は何日ありましたか？

1. 0日 2. 1～2日 3. 3～4日 4. 5～6日 5. 7日

質問11 たばこを吸うと身体に害があると思いますか？

1. 害があると思わない 2. 多少はあるだろうが大したことはないと思う
3. 害があると思う

質問12 あなたは、今までに紙巻きたばこを一口でも吸ったことがありますか？

紙巻きたばことは、紙を巻いたぼう状のもので、火をつけて吸う普通のたばこのことだと思ってください。

1. ない 2. ある

2. に○をつけた方は、質問12-1に答えてください

質問12-1 この30日間に、何日、紙巻きたばこを吸いましたか？

1. 0日（一度も吸っていない） 2. 1～2日 3. 3～5日 4. 6～9日
5. 10～19日 6. 20～29日 7. 毎日

質問 13 あなたは、今までに加熱式たばこを一口でも吸ったことがありますか？

加熱式たばことは、アイコス(iQOS)、グロー(glo)、プルーム (Ploom)、リルハイブリッド (lil HYBRID) などの商品のことです。

1. ない 2. ある

2. に○をつけた方は、質問 13-1 に答えてください

質問 13-1 この 30 日間に、何日、加熱式たばこを吸いましたか？

1. 0 日 (一度も吸っていない) 2. 1～2 日 3. 3～5 日 4. 6～9 日
5. 10～19 日 6. 20～29 日 7. 毎日

質問 14 あなたは、今までに電子たばこを一口でも吸ったことがありますか？

電子たばことは、ドクターベープ (DR.VAPE)、フレヴォ (FLEVO)、スムースビップ (SMOOTH VIP)、ビタフル (VITAFUL)、イーゴ (eGO AIO)、ゼロスティック (ZERO STICK)、ベポレッソ (VAPORESSO) などの商品のことです。

1. ない 2. ある

2. に○をつけた方は、質問 14-1 に答えてください

質問 14-1 この 30 日間に、何日、電子たばこを吸いましたか？

1. 0 日 (一度も吸っていない) 2. 1～2 日 3. 3～5 日 4. 6～9 日
5. 10～19 日 6. 20～29 日 7. 毎日

あなたの生活についてお聞きます

質問 15 あなたはクラブ活動 (部活やクラブ) に参加していますか？

1. はい 2. いいえ

質問 16 過去 1 か月間に 遅刻 遅刻・欠席 欠席・早退 をしましたか？早退 をしましたか？

1. ほとんどなかった 2. ととききあった 3. けっこうあった

質問 17 それぞれの項目について、あなたはどのくらいの 頻度 で感じているかお答えください。

1) 自分には人との付き合いがないと感じることがありますか

1. 決してない 2. ほとんどない 3. 時々ある 4. 常にある

2) 自分は取り残されていると感じることがありますか

1. 決してない 2. ほとんどない 3. 時々ある 4. 常にある

3) 自分は他の人たちから 孤立 孤立 していると感じることはありますか

1. 決してない 2. ほとんどない 3. 時々ある 4. 常にある

質問 18 この 7 日間、次のような問題にどのくらい 頻繁 になやまされていますか？質問 18 この 7 日間、次のような問題にどのくらい 頻繁 になやまされていますか？それぞれの 症状 症状 に対し、あなたの気持ちにもっとも近いものに○をつけてください。

1) 物事に対してほとんど興味がなく、または楽しめない

1. まったくない 2. 数日 3. 半分以上 4. ほとんど毎日

2) 気分が落ち込む、憂 憂 うつになる、いらいらする、または 絶望的 絶望的 な気持ちになる

1. まったくない 2. 数日 3. 半分以上 4. ほとんど毎日

質問 19 それぞれの ^{こうちくこうちく} 項目 項目 について、あなたにどのくらいあてはまりますか。もっとも近いものに○をつけてください。

	 あてはまらない まったく	 あてはまる わずかに	 あてはまる 少し	 あてはまる かなり	 あてはまる とても
1. 私は周りの人たちと協力することができる	1	2	3	4	5
2. 教育を受けることは重要だと思う	1	2	3	4	5
3. 時や場所によって自分がどのように行動するべきかを知っている	1	2	3	4	5
4. 親（保護者）は、私のことをとても気にかけてくれている	1	2	3	4	5
5. 親（保護者）は、私のことをよく知っている（友だちがだれかや、何が好きかなど）	1	2	3	4	5
6. お腹がすいたら食べるものが十分にある	1	2	3	4	5
7. 他の人が ^{いっしょいっしょ} 一緒にいると楽しいと思うような子どもである	1	2	3	4	5
8. 自分の気持ちについて家族に話す	1	2	3	4	5
9. 友だちに支えられていると感じている	1	2	3	4	5
10. 自分が学校に ^{とこ} 溶け込んでいると感じている	1	2	3	4	5
11. つらいときに気にかけてくれる家族がいる（たとえば、具合が悪かったり、何かまちがったことをしてしまったりしたときなど）	1	2	3	4	5
12. つらいときに気にかけてくれる友だちがいる（たとえば、具合が悪かったり、何かまちがったことをしてしまったりしたときなど）	1	2	3	4	5
13. 学校などのコミュニティ（社会・グループのこと）で公平に ^{あつかあつか} 扱われている	1	2	3	4	5
14. 自分が成長し、責任をもって行動できるようになったことを、他の人に見せる機会がある	1	2	3	4	5
15. 家族と一緒にいると安心する	1	2	3	4	5
16. 将来役立つことを学ぶ機会がある（料理や仕事、人助けなど）	1	2	3	4	5
17. 季節の行事や伝統などを家族と楽しんでいる	1	2	3	4	5

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。